

令和7年度  
富山大学におけるFD活動報告書

富 山 大 学

教育・学生支援機構教育推進センター

# 目 次

1. あいさつ	1
2. 第1回全学FD2025「大学業務での生成AI活用ワークショップ」の実施報告	
開催概要	3
参加者数・アンケート結果	5
当日資料	8
3. 第2回全学FD2025「授業設計ワークショップ」の実施報告	
開催趣旨	39
参加者数・アンケート結果	40
当日資料	43
4. 各部局におけるFD活動報告	
人文学部	67
教育学部	69
経済学部	72
理学部	74
医学部医学科	75
医学部看護学科	77
薬学部	81
工学部	85
芸術文化学部	87
都市デザイン学部	88
教養教育院	89
5. DP達成度調査（卒業時調査）結果	
令和6年度DP達成度調査・卒業時調査回答状況調	94
卒業時調査における全学共通項目（DP能力達成状況）回答結果	96
6. 全部局FD活動一覧及び参加状況	
令和7年度部局主催FD実施状況一覧	107
令和7年度FD参加状況	111
7. 各種資料	112

## 令和7年度富山大学におけるFD活動報告書

### あいさつ

富山大学では、教育の質の向上と教育改善の継続的な推進を目的として、各学部・研究科等において、教育課題や学生支援に対応したFD活動に取り組んでまいりました。令和7年度の活動をまとめた本報告書を取りまとめるにあたり、FD活動の企画・運営に携わっていただいた教職員の皆様、ならびに各部局においてご参加・ご協力をいただいた皆様に、心より御礼申し上げます。

今年度のFD活動を振り返りますと、各部局に共通して、授業改善をより実践的な課題として捉え、日々の教育活動に直結するテーマを扱う取組みが進められたことが特徴であったといえます。人文学部では少人数授業の実践例を共有し、教育学部では共同教員養成課程の運営やシラバス作成の留意点について理解を深めました。工学部では、学生から高い評価を受けた教員による授業実践の工夫が紹介され、薬学部では研究室配属や学生面談、英語教育、短期海外留学等、学修支援とカリキュラム改善の両面から議論が行われました。さらに、経済学部では、新教養教育の導入意図や学部専門教育との関わりについて理解を深めるとともに、就職支援や大学院進学に関する最新の状況を共有し、学生指導に資する知見の更新が図られました。

また、学生一人ひとりに応じた支援の重要性を再確認する取組みも各部局で進められました。理学部では障害のある学生への合理的配慮や学内連携について理解を深める研修が行われ、都市デザイン学部では学生のメンタルヘルスを主題としたFDが実施されました。教育現場においては、学修支援のみならず、学生生活全体を見据えた丁寧な関わりが求められており、こうした取組みは本学の教育の質保証を支える基盤として重要な意味を持つものと考えています。

さらに、各部局のFD活動には、それぞれの専門分野や教育目的を反映した特色あるテーマが見られました。医学部医学科では臨床実習における指導と評価の改善、研究室配属における教育実践が取り上げられ、医学部看護学科では志願者確保に向けた学生募集戦略を検討する研修が行われました。芸術文化学部では大学院進学の促進とハラスメント防止、理学部ではキャリアカルテの活用や就職・進学支援、薬学部では大学院進学や研究時間確保に関する課題の共有が図られました。これらの取組みからは、FDが授業方法の改善に留まらず、入学前から卒業後を見通した教育体制全体の改善へと広がっていることが伺えます。

このように、今年度のFD活動は、各部局がそれぞれの課題を具体的に持ち寄り、教職員が相互に知見を共有しながら改善方策を模索する、実践的で協働的な場として展開されました。授業評価アンケートや卒業時調査、学生満足度調査等の結果を踏まえた検討も継続して行われており、FD活動が教学マネジメントやPDCAサイクルの推進と密接に結びつきつつあることを実感しています。本報告書にまとめられた各部局の工夫や成果が、今後の教育改善に向けた有益な手がかりとなり、部局間での学び合いをさらに促すことを期待しています。

本報告書の作成にあたり、各部局FD担当者の皆様には、ご多忙の中、丁寧にご対応いただきましたことに改めて感謝申し上げます。社会や学生を取り巻く状況が大きく変化する中で、本学においても、教育の質を不断に見直し、学生の学びを支える体制を着実に整えていくことが求められています。来年度以降も、富山大学ならではの特色ある教育の実現に向け、教職員が一体となってFD活動の充実に取り組んでいくことを願っております。引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

全学FD・教育評価専門会議議長  
松本 馨



## 令和7年度第1回全学 FD2025 「大学業務での生成 AI 活用ワークショップ」

日 時：令和7年8月8日（金）13:30～15:30

形 式：対面及びオンライン

場 所：五福キャンパス 総合情報基盤センター 2F

対 象：本学教職員及び学生

### ■開催趣旨

生成 AI の急速な発展に伴い、様々な業務現場で、その利便性や活用可能性に大きな注目が集まっています。なかでもテキストを生成するタイプの AI は急速に普及が進んでおり、大学においても議事録の作成や文章要約、翻訳、授業支援や教材作成など、教育・研究・業務支援に関わる幅広い用途で利用されるようになってきました。本学においても Microsoft Copilot や OpenAI ChatGPT、Google Gemini などを利用し、実際に業務の効率化や教育の質向上に取り組む教職員が増えているものと推察されます。

一方で、生成 AI の活用はまだ初期段階であり、具体的にどのような場面で活用できるのか、そのメリットと注意すべき点、あるいは運用上の課題について十分理解されていない状況も見受けられます。こうした背景を踏まえ、本 FD では私立大学で生成 AI の業務利用を推進している講師から、大学における生成 AI の活用事例や具体的な導入効果、運用する上での課題や留意点についてご紹介いただき、参加者の皆様と議論を深めたいと考えております。

また、実際に生成 AI を操作・体験するワークショップも企画しています。AI に関する理解を深め、日々の業務への具体的な導入イメージを持っていただくことを目標としています。本 FD は教員だけでなく事務職員、学生の皆様にとっても有益で実践的な内容になっていますので、ぜひ多くの方にご参加いただき、生成 AI のより良い活用方法を見つける機会になれば幸いです。

### ■スケジュール

#### 大学業務での生成 AI 活用と実践事例（13:30～14:15）

- 生成 AI の基礎と動向（基本概念と技術背景、GPT モデルの進化、各種ツールの比較と特性）
- 大学における生成 AI 導入と現状（生成 AI 導入までのプロセスと課題、導入後のガイドライン作成と活用状況）
- 生成 AI を活用した実務事例（自由記述テキスト分析、インサイト抽出、Office 製品操作の支援と実践的活用、学内文書のバイリンガル化）
- 生成 AI 活用の注意点と今後の展望（機密情報管理とセキュリティ対策、生成 AI 特有の問題と対応策、生成 AI の技術的進展）
- 質疑応答・ディスカッション

<休憩>

ワークショップ (14:30~15:30)

- 生成 AI 活用ワークショップ
- ChatGPT や Copilot を利用 (現地参加者のみサポートします)

■講師

相生 芳晴 室長

学校法人上智学院 IR 推進室 兼 情報システム室

IT 企業から上智大学転職後、学事センター、情報システム室を経て、2018 年より現職。Tableau 大学ユーザー会を企画。編著として「大学 IR スタンダード指標集教育質保証から財務まで」「大学 IR 標準ガイドブック：インスティテューショナル・リサーチのノウハウと実践」等がある。上智大学で IR 担当の他、事務系システムの導入、生成 AI の業務利用を推進している。(https://researchmap.jp/aioi/)

# 第1回全学FD参加者数

「大学業務での生成AI活用と実践事例」

2025年8月8日（金）13：30～15：30

## ■当日参加者内訳

教員	66
人文科学系	1
教育学系	3
社会科学系	1
芸術文化学系	0
理学系	3
都市デザイン学系	9
工学系	8
医学系	15
薬学・和漢系	3
教養教育学系	9
教育研究推進系	11
附属病院	2
総合情報基盤センター	1

職員	35
----	----

所属不明	8
------	---

合計	109
----	-----

## ■オンデマンド参加者内訳

教員	51
人文科学系	4
教育学系	8
社会科学系	0
芸術文化学系	1
理学系	4
都市デザイン学系	0
工学系	9
医学系	13
薬学・和漢系	4
教養教育学系	6
教育研究推進系	2

職員	9
----	---

合計	60
----	----

# 第1回全学FD アンケート結果のまとめ

## (1) 意見・ご感想

※Copilot を利用してアンケートの内容を整理・要約しました。

### 生成AIの有用性を高く評価

業務効率化や資料作成、翻訳などに役立つとの声が多数。

### Copilot や ChatGPT の認知・利用意欲の向上

初めて知った、今後使いたいという意見が多い。

### 情報セキュリティ・個人情報保護への関心

利用時のリスクや安全性に関する説明が参考になったとの声。

### プロンプト設計の重要性

「指示の出し方のコツ」や「プロンプト集」が非常に役立つという意見。

### 教育現場への影響と課題感

学生のレポート作成での利用を前提にした評価方法の難しさを指摘。

### AI 進化の速さへの驚きと不安

「進化が速すぎてついていけない」「人間の文章力低下が心配」という声も。

### 他大学事例や最新ツール紹介が好評

NotebookLM や promptia など、具体的な事例・ツール紹介が参考になった。

### 実践的な演習・ワークショップ形式が高評価

実際に操作しながら学べたことが理解促進につながった。

### 改善要望

- ・講演中には、定期的に質疑応答の時間を設けてほしい。
- ・内容が初心者向けで、上級者には物足りないとの声。

## (2) 今後、全学FDで取り上げてほしいテーマ

### 教育・授業運営に関するテーマ

- ・授業中のディスカッション活性化策や課題の質向上。
- ・チームティーチングの推進方法。
- ・学生のAI利用事例や試験対策の工夫。

## AI 関連の継続的な取り扱い

- ・最新の生成 AI の情報や活用方法を定期的に紹介してほしい。
- ・技術進化が速いため、毎年 AI 関連の FD を開催してほしい。
- ・AI を使う学生と使わない学生への対応方法や注意点を学びたい。
- ・学生が AI を使ってレポートを作成する際のルールや表記方法（使用 AI 名、プロンプト内容など）を明確化してほしい。
- ・AI を利用した英語論文作成のノウハウを知りたい。
- ・AI の教育・研究への影響や、大学としての方針を議論してほしい。

## 大学の戦略・発展

- ・富山大学の DX 推進や生成 AI との関わり方。
- ・高校生や地域にとって魅力ある大学づくりの取り組み。
- ・大学院生獲得戦略。

## スキルアップ・専門分野

- ・Python などのプログラミング教育。
- ・研究と教育の両立方法、論文執筆時間の確保術。

## その他

- ・中級者向け AI 講習会を 1 年後に再度開催してほしい。
- ・海外の事例や先進大学の取り組み紹介。

# 学校法人上智学院の 事務組織における 生成AI利活用について

学内文書バイリンガル化計画 &  
生成AIで自由記述テキストをなんとかかしてみる

2025年8月8日

上智学院 IR推進室 相生 芳晴

FOR OTHERS, WITH OTHERS

## 上智大学について

2025年5月1日現在

1913年創立の”小さな総合大学”

教育の精神:「他者のために、他者とともに」(For Others, With Others)

9学部29学科 10研究科26専攻 法科大学院 応用データサイエンス学位プログラム

学部学生数 12,419人 大学院学生数 1,653人

外国籍学生数 1,861人(98ヶ国) 海外協定校数 410校(87ヶ国) 外国語科目 22言語

専任教員数 545人 外国籍教員数 88人(26ヶ国)

H21年 グローバル30

H24年 グローバル人材育成推進事業

H25年 大学の世界展開力強化事業(東南アジア)

H26年 スーパーグローバル大学創成支援(SGU)

H27年 大学の世界展開力強化事業(中南米)

H28年・H29年 私立大学研究ブランディング事業

H30年 大学の世界展開力強化事業(COIL)

R 3年 科学技術人材育成費補助事業

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(調査分析)」

R 6年 東京都「大学発スタートアップ創出支援事業」



## 上智大学と生成AIのこれまで

- 2023年1月末より、「米国の大学で、かなり問題になっているようなので、ChatGPTの対応方針、考えないとまずいよね」という雰囲気。「学生のレポートの質があがった」と感じる教員もいた。
- 基盤教育センターの教育開発領域会議で、情報収集と方針案を作ろう、となり、海外大学とのつながりがある教員が、2月にカナダや香港の大学に聞いたところ、「試験などでの、利用は認めない」という方針を出しているようだ、との話を聞く。イギリスの大学は、かなり早くから、厳しめのポリシーを出していたのも把握。
- 学内教員にもヒアリングをしよう、ということで、2023年3月9日～2023年3月15日にアンケートを実施。半分近い教員から回答がある。(これはかなり高い割合で驚いた。教員の関心高し。)
- ChatGPTのことを、よく知らない教員は多いが、危機感を抱いている教員も多く、特に外国人の先生は、いろいろ情報を集めていて、コメントも多かった。  
⇒ということで、いろいろモヤモヤしていたが、苦肉の策として、注意喚起の方針を取りまとめ、学内に説明し、
- 「[ChatGPT等のAIチャットボット\(生成AI\)への対応について](#)」を2023年3月27日(水)に掲出。
- ChatGPTによってあまりにも様相が変わったので、例外的に、3月にシラバス変更期間も設けた。評価基準を変える教員もいるし、授業内に、AIツールを積極的に取り入れる教員もいた。
- 4月9日の読売新聞の記事以降、大学のChatGPTの対応について、毎日、新聞・テレビに取り上げられ、社会的な騒ぎに
- 5月頭に、全学的な方針説明会で副学長より説明、5月後半よりAIに詳しい研究者等によるFDプログラムの連続開催。
- 6月 在学生を対象に「生成AI利用に係るアンケート」を実施。
- 2023年6月30日に「[教育における生成 AI 利用に関するガイドライン\(教員向け\)](#)」を学内に掲出。
- 2023年10月～12月にかけて、ソフィア・AIリテラシーセミナーシリーズを開催
- **2023年11月 法人向けGPT製品を契約(総務局を中心に利用)**
- 2024年1月 事務職員向けCopilot利用ガイドラインを作成
- 2024年6月 学生・教職員向けCopilotガイドラインを作成
- 2024年10月 事務職員向け新Copilot説明資料を作成



ソフィアン君

3

SOPHIA U

SOPHIA U

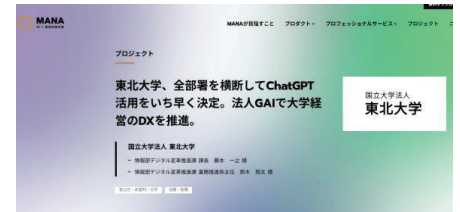
## 事務の現場に生成AIを導入したプロセス

FOR OTHERS, WITH OTHERS



## 2023年10月からの検証プロジェクト

- 上智大学は、他大学に先駆けて、2023年3月27日に「ChatGPT等のAIチャットボット(生成AI)への対応について」という成績評価における対応方針を出した。この文書は教員、学生向けのものだったため、その年の夏ごろより、学内事務組織向けの導入を検討し始めた。
- 生成AIを事務利用するにあたってのハードルは、「入力した機密情報が、LLM(大規模言語モデル)に学習されてしまうのは」というセキュリティ・プライバシー上のリスクがあった。
- 東北大学が国内でいち早く導入した「法人GAI」は、入力されたデータはLLMの学習に使用されない、個人情報や機密情報のマスキング処理も可能、ということ謳っていたため、生成AI利用に長けた職員5名による、検証プロジェクトを2023年10月に立ち上げた。  
(職員の所属部署は、総務、経営企画、IR、基盤教育、国際教養学部事務室)
- 2週間にわたる検証の結果、「実用に耐えうる」と判断し、2023年11月に総務部門を中心に、法人GAIを契約・導入した。



[【2023年5月】東北大学、全部署を横断してChatGPT活用をいち早く決定。法人GAIで大学経営のDXを推進。 - MANA\(マナ\) \(gomana.ai\)](https://gomana.ai)

## Microsoft Copilotの商用データ保護

- 法人GAIを学内展開するにあたっての課題点として、アカウント管理があった。ユーザー一人当たりのライセンス費用という契約形態であるため、学内の利用人数が増えた場合の、アカウント管理について検討していた。
- 2023年11月頃より、Microsoft社のCopilot(旧Bing Chat Enterprise)が、教育機関向けに、商用データ保護を実装することを知った。
- 商用データ保護は、Microsoft365の包括ライセンスを結んでいるユーザーに適用され、Entra ID(Microsoft 365のアカウントID)で認証されたユーザーは、Copilotに入力した内容はLLMに学習されない、ということを確認できたため、学内教職員が広く、利用できる生成AIとして、Copilotの展開を判断。



商用データ保護について  
<https://news.microsoft.com/ja-jp/features/231219-expanding-microsoft-copilot-access-in-education/>

**※法人GAI自体は、かなり有用なため、来年度も利用は継続する。(複数の生成AIを併用)**

- 【補足】Microsoft 365 CopilotとMicrosoft Copilotでのエンタープライズ データ保護  
2024年9月より、エンタープライズデータ保護が、Microsoft Copilotも対象になり、より安全に利用できるように、仕様変更があった。  
<https://learn.microsoft.com/ja-jp/copilot/microsoft-365/enterprise-data-protection>



## 事務利用向けのCopilot利用ガイドラインの作成

- 2023年の年末より事務利用向けのガイドライン作成に着手、作成にあたっては、東京大学の案内文書を参考にした。
- 2024年1月より学内の委員会にて複数回説明し、同年2月22日に学内向け説明会を開催。
- 本ガイドラインにおいては、「生成AIを業務利用するにあたっての注意点」として以下の5つについての説明を入れている。
  1. 個人情報や機密情報の入力に注意をする 事務での利用は Copilotを推奨
  2. 最後は人がチェックをすること 生成AIの特質上、精度は「良くて8割程度」
  3. 生成AIによる代筆、剽窃は不正行為である（学生向けの内容）
  4. 著作権についての注意 対外的な資料で利用する際は、出典・引用を明示する
  5. 技術の進展が速すぎるため、製品仕様・動向には常に注意する

## 学内文書・掲示文書のバイリンガル化(日英化)計画

## 生成AI導入以前の学内翻訳ソフトにおける課題

- 生成AI導入以前の課題としては、事務組織の翻訳ソフトのポリシーが定まっておらず、DeepLやGrammarlyの有料版を契約している部門はあったが、契約数・範囲が限られているため、多くの事務部門ではDeepLの無料版やGoogle翻訳などを利用しており、それはセキュリティとコンプライアンス上において適切な状態ではなかった。
- そのような課題があったなか、上智大学ではAI 機械翻訳ソフト「MTrans Team (株式会社ヒューマンサイエンス社)」の検証プロジェクトを、第1期(2022年1~6月)、第2期(2022年10月~2023年10月)と進めてきた。
- MTrans Teamは、用語集の機能や、複数ページに渡るPowerPointスライドを一括で翻訳できる機能などがあり、2023年度に契約ライセンス数は増やした。



MTrans Teamの画面

ただし、ユーザー一人当たりというライセンス契約形態であるため、利用人数を無制限に増やせない、という制約はあった。

## 生成AI Copilotの展開

- 生成AI検証プロジェクトにて、翻訳業務についての有用性を確認できたこと、ならびに商用データ保護が適用されるMicrosoft Copilotを、全教職員が利用できることを踏まえ、2024年3月15日に、「国際教養学部事務室における生成AI Copilot 英語業務活用事例」の報告会を開催

**Copilot 英語業務活用事例**

0. FLA事務室での生成AI利用背景
1. 英語でメールを書く
2. 英文和訳
3. 翻訳業者をどう使うか？
4. 便利な使い方例
5. まとめ

2024.3.15  
国際教養学部

- MTrans Teamと生成AI Copilotという環境が整ったこともあり、2024年5月20日に「発信文書及び会議資料の日英併記について」という掲示が、事務の6局長連名で出された。

- 右の表は、ソフィア掲示板の月ごとの件数を比較できるようにしたもので、5月20日の日英併記ルールの掲出前までは、日英化率は20%台だったが、6月以降その比率は増え続け、7月と8月は40%を超えるようになった。

	総掲示数	日本語のみ	日英化	日英化率
3月	117	85	32	27.4%
4月	121	87	34	28.1%
5月	87	66	21	24.1%
6月	76	52	24	31.6%
7月	129	76	53	41.1%
8月	80	44	36	45.0%
9月	130	68	62	47.7%
総計	610	414	196	

## 大学文書の英訳上の課題

- 生成AI利用にあたって、問題視されるのが「ハルシネーション(幻覚)」  
同一チャット内で生成AIと対話をしていると、前の内容を継承して、勝手に文書を生成(混入)してくることがあった。翻訳業務においては、この挙動は危ない。
- 委員会名などを、そのままAI翻訳しようとしても、うまくいかないケースがある。  
(例:教研系システム委員会) 日本語を短縮していたり、学内特有の言い回しなど。
- カリキュラム関係の文書は、**主語がなかったり、やや強引な体言止め**で文章を終わらせたりするケースがあるため、それをそのままAI翻訳をしてしまうと、意味が分かりづらい、もしくは意味が分からない英語になってしまうこともあった。
- 生成AIによるフィルタ処理で、翻訳のプロンプトを実行してくれないケースもある。
- 組織展開にあたっては、「**生成された文書の出来は8割～9割のため、最後は人間が必ずチェックをする**」というルールと、「**翻訳業務においては対話を重ねず、チャットは定期的リセットし、フレッシュな状態でプロンプトを入れる**」という運用の徹底が必要。  
(プロンプトの内容が前回から変わる場合は新しいチャットとしてプロンプトを入力することを推奨)

## バイリンガル化による学内の変化（国際教養学部事務室にヒアリング）

- 学内掲示板や会議資料の英語版が日本語版と同時にリリースされることが増えた。  
これまで、日本語版だけが掲示板に出て、学部事務室から英語版の掲出時期を問い合わせても、掲出に数週間から数か月かかったり、英語版が掲出されないケースが散見されたが、5月20日以降、日英の文書が同時にリリースされることが増えた。
- 日本語ができない教員に対して、様々な情報を、教授会やメールで同時に周知できるようになった。教学にかかる情報の他、福利厚生などの情報も英語で発信されるようになったことは、国際教養学部の現場では、かなりインパクトがあった。
- 学部事務室による翻訳、通訳的な立場での仲介の機会が減った
- 「日本語ができない」肩身の狭さからの解放と、日本語力に関わらず、全員が学院の運営メンバーであるという意識向上

# 生成AIで自由記述テキストを なんとかしてみる

## 試してみるポイント

- 学習しない生成AIを使うこと（以前に、Code Interpreterで、アップしたファイルをChatGPTが間違えたのを見たことがあります。ファイルアップロード系は、気を付けたほうがいいと思います。）
- 複数の生成AIで試してみる
- プロンプトに投入できるテキスト量は？
- ネガティブ、ポジティブの意見を拾い出せるか？

# 生成AIの比較 2025年7月時点

ChatGPTの有料版と無料版は何か違う？料金プランや課金メリットを解説 | Rimo  
を参考に作成。仕様やサービスはコロコロ変わるため、正確に追っかけるのは不可能・・・

	ChatGPT (無料版)	ChatGPT Plus (有料版)	Microsoft Copilot	Google Gemini
LLMのバージョン	GPT-4o/ GPT-4o mini OpenAI o4-mini	GPT-4o/GPT-4.1 mini/GPT-4.1 GPT-4.5 研究プレビュー版 【推論モデル】OpenAI o3/OpenAI o4-mini OpenAI o4-mini-high Pro版はもっと利用可	以前、はGPT-4 Turboや、Deucalionなる独自のモデルを実装していたが、現在は不明。	Gemini 2.5 Flash Gemini 2.5 Pro (推論モデル)
データの扱い	会話データがOpenAIのモデルの学習に利用される(オプトアウトの設定があるが分かりにくい)	会話データがOpenAIのモデルの学習に利用される(オプトアウトの設定があるが、分かりにくい) Enterprise契約の詳細は不明	エンタープライズデータ保護を有効にすれば、会話データは、大規模言語モデルの学習に利用されない	Geminiアプリ アクティビティをオフにすると、学習されない(らしい) 法人契約によって変わってくるか
アカウント管理 セキュリティ	ユーザー自身のアカウントの為、セキュリティ管理は個人に委ねられる。オプトアウトの設定は自分で行う必要がある。	ユーザー自身のアカウントの為、セキュリティ管理は個人に委ねられる。オプトアウトの設定は自分で行う必要がある。 Enterprise契約の詳細は不明	Microsoft365 包括契約のA1~A5のユーザーは利用可(エンタープライズデータ保護) Microsoft 365 Copilot は、契約ライセンス分をユーザーに割り当てた。	Microsoftと同様に、法人契約をしているかどうかで、アカウント管理が変わる。
費用	無料	ChatGPT Plusは月額20ドル ChatGPT Proは月額200ドル Enterprise契約の詳細は不明	Copilot Chatは365 包括契約のユーザーであれば、追加費用はかからない(大学で包括契約) Microsoft 365 Copilot は月額30ドル	Google Workspace for Educationには、いろんな契約パターンがある。 個人向けのProは、月額約3,000円
入力できる文字数	約6,000~8,000字 ※増えている可能性大	約25,000~32,000字 ※増えている可能性大	詳細は不明 Copilotのチャット欄とは別に、Word等の添付ファイルで、大量テキストを読み込めそう	詳細は不明だが、Geminiは投入できる文字数が他に比べて多く、数十万字いけるか？
学習期間	2024年6月までらしいが、詳細不明 最近、Web Search 機能が実装され、以前ほど気にしなくなったか。	2024年6月までらしいが、詳細不明 最近、Web Search 機能が実装され、以前ほど気にしなくなったか。	詳細不明 Bing Chatの頃から、Web検索をする仕様だったため、あまりに気にならなかったか	2025年1月までらしいが、詳細不明 最近、Deep Research 機能が実装され、以前ほど気にしなくなったか。
Deep Research	ライト版のみ利用可能	Plusではフル機能版で回数制限あり Pro版は最大限活用できる	有償版のCopilot Proや、365 CopilotにはDeep Research が実装されている(Pro版は最近組み込まれたか?)	無料版でも、Deep Research 機能利用可 Pro版では、高品質のレポート生成、洞察に富んだ分析、高度な推論が可能
操作性・所感	対話の自由度は高い ハルシネーション(デタラメ)は出る 有料版のモデルや機能が流れてくるので、弱点は年々、解消されてきているように感じる	有料版のPlusとは別に、Pro版も出てきて、凄まじい機能開発・サービス提供が進んでいる。(次々に新しいサービスが出るため、追っかけるのは諦めました・・・)	回答は素っ気ないが、徐々に良くなってきていると思う。Windows11のいろんなところに組み込まれてきており、ボタンの位置などが、よく分からなくなってきた。Microsoft 365 Copilot だと、OfficeやTeams連携など色々便利そうだが、高額のものがネック。	Bardの頃は、ハルシネーションが多くて、ダメな印象だったが、Geminiになり年々良くなってきている 別サービスの、NotebookLMはかなり便利

## 実際の自由記述のデータで試してみる

【アンケートの設問】  
今後、上智大学およびサステナビリティ推進本部が積極的に取り組んだ方がいいと考える、SDGsやサステナビリティに関する活動は何ですか？

前のCopilotの画面

プロンプト

Copilot

- このチャットでは、個人と会社のデータが保護されています
- このページのテキストは、上智大学の学生がSDGsやサステナビリティに関する活動について自由に記述したものです。コメントを分析した結果、以下のようなカテゴリに分類されました。
  - プラスチックゼロ運動: 学内でのプラスチックの使用を減らすための活動。ウォーターサーバーの設置や増設、マイボトルの利用促進、プラスチック製品の回収やリサイクルなどが提案されている。
    - ウォーターサーバーを6号館や2号館の食堂に設置してほしい。
    - プラスチックゼロ活動のために、ウォーターサーバーを6号館や2号館食堂など、多くの人が使う場所に新たに設置する。
    - プラスチックゼロ活動のために、マイボトルを利用してもらうことも含めてプラスチックゼロ運動に取り組んだ方がいいと思います！
  - ジェンダー平等に関する活動: 性別や性的指向に関する差別や偏見をなくするための活動。教育や啓発、セーフスペースの提供、LGBTQ+コミュニティの支援などが提案されている。
    - ジェンダー平等に関する活動をもっとやってほしいです
    - ジェンダー平等に関する勉強会など
    - ジェンダー平等に関連して、

このチャットでは、個人と会社のデータが保護されています

何でも聞いてください...



## 試してみるプロンプト

- ① どのようなプロンプトがよいかを試してみる
- ② 「ネガティブ、シニカルな意見を、抽出して並べてください」
- ③ 「頻出する単語を10個拾い出して、多い順に並べてください」
- ④ 「拾い出した単語に、説明を入れて、並べてください」  
↑用語集を、作成できる時がある
- ⑤ アンケート結果から、拾い出せるインサイト(気づき)は？

### 生成AIで自由記述を分析してみたの所感

- 生成AIのモデルにより差異がありますが、いい感じにまとめてくれると思います。
- 難点としては、出力結果が安定しない(機嫌が悪い日がある)
- 生成AIは要約は得意だが、もちろんヌケモレはある。ただし、これまで、アンケートの自由記述は、(問題のある記述・個人を特定する記述)を除いて配布していたが、回答者によるコメントの、ポイントを掴めるようになったのではないかと
- 処理の精度は、GPT4 < GPT4 Turbo < GPT4 Omni というのが体感。(OpenAI o1については、なんとも言えません)
- 製品・サービスによって、投入できる文字数に上限があることに注意。LLMに学習されないように注意！！

# 【参考情報】生成AIで自由記述式アンケートを自動分析、手動の1/10の時短を実現（MRI 三菱総合研究所 2024年8月5日）

MRI 三菱総合研究所

三菱総研グループ 採用  
ナレッジ・コラム サービス・ソリューション サステナビリティ

ホーム / ニュース / ニュースリリース / 生成AIで自由記述式アンケートを自動分析、手動の1/10の時短を実現

ニュースリリース

## 生成AIで自由記述式アンケートを自動分析、手動の1/10の時短を実現

2024.8.5  
株式会社三菱総合研究所

シェアする Xポスト

株式会社三菱総合研究所（代表取締役社長：梶田健二、以下MRI）は、生成AIを用いて自由記述式アンケート1,000件の読解・分類・要約を試行した結果、人間が1件ずつ読み解く時間に比べて、10分の1以下に短縮できることが分かりました。同時に、自由記述式アンケート分析業務の効率化に向けた生成AI活用方法・精度評価結果・新業務プロセスを得ることができました。

### 1. 背景

アンケート調査は、マーケティングにとどまらずさまざまな場面で実施されています。回答方法には選択式と自由記述式があり、一般的には、回答を数値として集計し分析が容易な選択式が多く利用されています。自由記述式の回答は豊富な情報量を含む一方で、手動での読解や分析には多大な時間とコストがかかります。

しかし、近年、自然言語処理技術の進展で文章データからも多くの示唆を得られるようになり、自由記

ニュースカテゴリー

- ニュースリリース
- お知らせ
- IRニュース
- グループ企業ニュース

年別一覧

- 2024年のニュース
- 2023年のニュース
- 2022年のニュース
- 2021年のニュース

<https://www.mri.co.jp/news/press/20240805.html>

SOPHIA U

19



上智大学  
SOPHIA UNIVERSITY

FOR OTHERS, WITH OTHERS

本資料に関する、お問い合わせ先:

上智学院 IR推進室 相生 芳晴  
yoshiharu\_aioi@sophia.ac.jp

# CHATGPTで大学文書を こなしてみる

2025年8月8日

学校法人上智学院 IR推進室 兼  
情報システム室 相生 芳晴

## 本日のアジェンダ

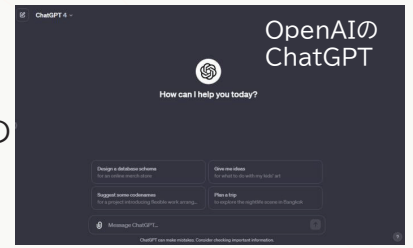
1. はじめに/生成AIとは
2. 生成AIが出来ること (の一部)と、利用上の注意点について
3. Chatgptのオプトアウトの設定(LLMに学習をさせない)
4. 生成AIの比較 2025年7月時点
5. Microsoft Copilotについて
6. ChatGPTで大学文書をこなしてみる

本資料において、OpenAIのChatGPTや、MicrosoftのCopilot(Bing Chat)、GoogleのGemini/NotebookLM等のLLM(大規模言語モデル)のサービスを、「生成AI」という名称でまとめています。



# はじめに/生成AIとは

※この文書は、ChatGPT (GPT4.0)を使い作成



生成AI(Generative AI)は、様々なタイプのコンテンツを自動的に生成するための先進的なAI技術です。以下に、その主な特徴と用途を詳しく説明します。

## 学習方法：

生成AIは通常、ディープラーニングと呼ばれるAIの一分野を使用します。特に、ニューラルネットワークという複雑なアルゴリズムが多くのデータからパターンを学習します。このAIは、大量のテキスト、画像、音楽などのサンプルを分析し、その特徴を把握します。

## 応用分野：

- テキスト生成: 記事、物語、詩、コードなどを自動的に作成。
- 画像生成: アートワーク、デザインコンセプト、リアルな画像やイラストなどを生成。
- 音楽生成: 新しいメロディや音楽作品を生成。
- ビデオ生成: アニメーションや短いビデオクリップの作成。

## 課題と限界：

生成されたコンテンツの品質は、学習に使用されるデータの質と量に依存します。倫理的な問題(著作権の侵害や偽情報の生成など)が関連しています。AIの決定プロセスはしばしばブラックボックスであり、生成された結果の原因を完全に理解することは困難です。生成AIは、クリエイティブな産業や科学的な研究など、多くの分野で革新的な可能性を持っていますが、その使用には倫理的な配慮と責任ある管理が必要です。



# 生成AIが出来ること(の一部) (ChatGPT 4o に聞いてみた)

生成AI(ジェネレーティブAI)ができることを、主な分野ごとに整理してまとめてみました。

- ① テキスト生成・処理**
  - 文章作成(レポート・記事・メール・ストーリー)
  - 要約・翻訳・言い換え
  - チャットボット・カスタマーサポート
  - プログラミングコード生成・修正
  - ライティング支援(ブログ、SNS投稿、広告文)
  - 質疑応答・知識検索
- ② 画像生成・編集**
  - イラスト・アート・写真風画像の生成
  - 画像の加工・修正・色変え
  - デザイン案・ロゴ・アイコン制作
  - AIによる背景除去や拡張
- ③ 音声・音楽生成**
  - 音声合成(ナレーション・ボイス)
  - 音楽・BGMの作曲
  - 音声の変換・編集(声質変換など)
- ④ 動画生成・編集**
  - 簡単な動画作成
  - アニメーション生成
  - 映像編集支援・効果追加
  - テキストから映像の提案
- ⑤ ビジネス・業務支援**
  - 企画アイデア出し
  - プレゼン資料作成補助
  - マニュアル・FAQ作成
  - RPA(業務自動化)連携
- ⑥ 教育・学習支援**
  - 個別学習指導
  - 問題作成・解説
  - 学習計画作成
- ⑦ その他**
  - 創作活動支援(小説・詩・脚本)
  - マーケティング提案
  - 法律・契約書作成補助(ドラフト案)

# 生成AIを業務利用するにあたっての注意点

## 1. 個人情報や機密情報の入力に注意をする

OpenAIのChatGPTはオプトアウトの設定はありますが、プラグインやGPTsなど、多数派生しているサービス含めて、どこまで入力された情報が学習されているかが分かりません。なお、Microsoftの Copilotは、Microsoft 365の包括契約のユーザーであれば、入力された情報を学習しない、というポリシー(エンタープライズデータ保護)があります。

## 2. 最後は人がチェックをすること 精度は「良くて8割程度」

生成AIで生成した文書は、よく出来ていますが、完璧ではありません。精度は「良くて8割程度」と認識をして、最後は人が必ずチェックをしてください。特に、日本語の時事問題は、Hallucination(幻覚・デタラメ)をよく書くので、注意すること。

## 3. 生成AIによる代筆、剽窃は不正行為である

学生向けの内容ですが、生成AIが生成したアイデア・文章を、そのまま論文やレポートに使用するのは不正行為である。使用した場合は、出典・引用を明示すること。

## 4. 著作権についての注意

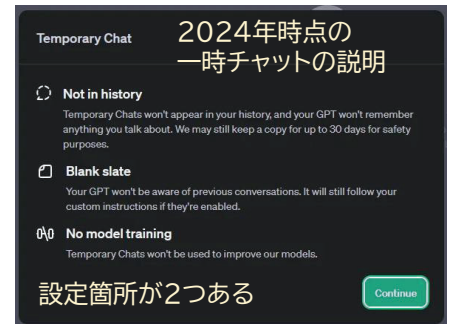
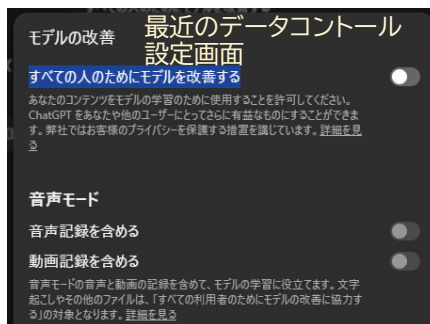
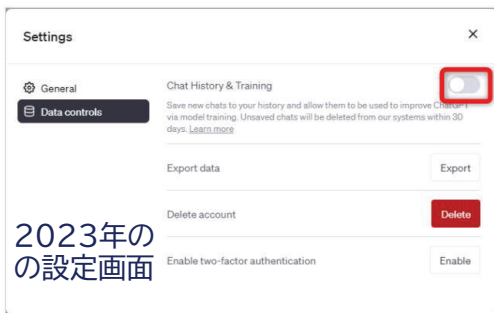
入力段階、出力段階の著作権については、日本国内のみならず、世界中で問題となっている。対外的な資料で利用する際は、出展・引用を明示するなど、注意すること。(「Made with AI」の記載)

## 5. 技術の進展が速すぎる

新しい機能・サービスが次々に出てくるため、情報のアップデートは大変です。。

5

# CHATGPTのオプトアウトの設定(LLMに学習をさせない)



- ChatGPTのオプトアウト(学習させない)の設定は、コロコロ変わります。
- 登場したときはオプトアウトの設定はなく、セキュリティやプライバシー保護の点で問題視されたため、Googleフォームによる、申請方法がありました。(2023年前半)
- 2023年中盤は、設定画面の「Chat History & Training」で設定できるようになった。
- GPTsや Code Interpreterに、このオプトアウトの設定が効いているかどうかは不明
- 2024年に入ってからか? 「一時チャット(Temporary Chat)」という名称に変わった。。
- 「一時チャット」の説明をよく読むと、  
このチャットが履歴に残ったり、ChatGPT のメモリを使用または更新したり、モデルの学習に使用されたりすることはありません。安全上の理由から、弊社はこのチャットのコピーを最大30日間保管することがあります。 → 学習はされないが、サーバーにデータは送信され、保持される

6

1. はじめに/生成AIとは
2. 生成AIが出来ること (の一部)と、利用上の注意点について
3. ChatGPTのオプトアウトの設定(LLMに学習をさせない)
4. 生成AIの比較 2025年7月時点
5. Microsoft Copilotについて
6. ChatGPTで大学文書をこなしてみる





## 生成AIの比較 2025年7月時点

[ChatGPTの有料版と無料版は何が違う？料金プランや課金メリットを解説 | Rimo](#)を参考に作成。仕様やサービスはコロコロ変わるため、正確に追っかけて続けるのは不可能…

	ChatGPT (無料版)	ChatGPT Plus (有料版)	Microsoft Copilot	Google Gemini
LLMのバージョン	GPT-4o/ GPT-4o mini OpenAI o4-mini	GPT-4o/GPT-4.1 mini/GPT-4.1 GPT-4.5 研究プレビュー版 【推論モデル】OpenAI o3/OpenAI o4-mini OpenAI o4-mini-high Pro版はもっと利用可	以前、はGPT-4 Turboや、Deucalionなる独自のモデルを実装していたが、現在は不明。	Gemini 2.5 Flash Gemini 2.5 Pro (推論モデル)
データの扱い	会話データがOpenAIのモデルの学習に利用される (オプトアウトの設定があるが分かりにくい)	会話データがOpenAIのモデルの学習に利用される (オプトアウトの設定があるが、分かりにくい) Enterprise契約の詳細は不明	エンタープライズデータ保護を有効にすれば、会話データは、大規模言語モデルの学習に利用されない	Geminiアプリ アクティビティをオフにすると、学習されない(らしい) 法人契約によって変わってくるか
アカウント管理 セキュリティ	ユーザー自身のアカウントの為、セキュリティ管理は個人に委ねられる。オプトアウトの設定は自分で行う必要がある。	ユーザー自身のアカウントの為、セキュリティ管理は個人に委ねられる。オプトアウトの設定は自分で行う必要がある。 Enterprise契約の詳細は不明	Microsoft 365 包括契約のA1~A5のユーザは利用可(エンタープライズデータ保護) Microsoft 365 Copilot は、契約ライセンス分をユーザーに割り当てか。	Microsoftと同様に、法人契約をしているかどうかで、アカウント管理が変わる。
費用	無料	ChatGPT Plusは月額20ドル ChatGPT Proは月額200ドル Enterprise契約の詳細は不明	Copilot Chatは365 包括契約のユーザーであれば、追加費用はかからない(大学で包括契約) Microsoft 365 Copilot は月額30ドル	Google Workspace for Education 個人向けのProは、月額約3,000円
入力できる文字数	約6,000~8,000字 ※増えている可能性大	約25,000~32,000字 ※増えている可能性大	詳細は不明 Copilotのチャット欄とは別に、Word等の添付ファイルで、大量テキストを読み込めそう	詳細は不明だが、Geminiは投入できる文字数が他に比べて多く、数十万字いけるか？
学習期間	2024年6月までらしいが、詳細不明 最近では、Web Seearch 機能が実装され、以前ほど気にしなくなったか。	2024年6月までらしいが、詳細不明 最近では、Web Seearch 機能が実装され、以前ほど気にしなくなったか。	詳細不明 Bing Chatの頃から、Web検索をする仕様だったため、あまりに気にならなかったか	2025年1月までらしいが、詳細不明 最近では、Deep Research 機能が実装され、以前ほど気にしなくなったか。
Deep Research	ライト版のみ利用可能	Plusではフル機能版で回数制限あり Pro版は最大限活用できる	有償版のCopilot Proや、365 CopilotにはDeep Research が実装されているそう (Pro版は最近組み込まれたか?)	無料版でも、Deep Research 機能利用可 Pro版では、高品質のレポート生成、洞察に富んだ分析、高度な推論が可能
操作性・所感	対話の自由度は高い ハルシネーション(デタラメ)は出る 有料版のモデルや機能が流れてくるので、弱点は年々、解消されてきているように感じる	有料版のPlusとは別に、Pro版も出てきて、凄まじい機能開発・サービス提供が進んでいる。(次々に新しいサービスが出るため、追っかけるのは諦めました…)	回答は素っ気ないが、徐々に良くなってきていると思う。Windows11のいろんなところに組み込まれてきており、ボタンの位置などが、よく分からなくなってきた。Microsoft 365 Copilot だと、OfficeやTeams連携など色々便利そうだが、高額なのがネック。	Bardの頃は、ハルシネーションが多くて、ダメな印象だったが、Geminiになり年々良くなってきている 別サービスの、NotebookLMはかなり便利

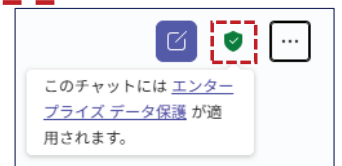
## Microsoft Copilot の違いを知る

2024年1月19日に、マイクロソフト社から提供された資料に10月に手を入れ、さらに最近整理したもの名前がコロコロ変わるので、かなり混乱します。

	 (最初)Bing Chat (現在)Copilot	 Copilot Pro 2024年1月15日に発表 (現在)Microsoft Copilot Pro	 (最初)Bing Chat Enterprise (次)Copilot(組織向け) (現在)Microsoft Copilot Chat	 (最初)Microsoft 365 Copilot (次)Copilot for Microsoft 365 (現在)Microsoft 365 Copilot
	個人向け	個人向け (月額20\$)	業務向け	業務向 (月額30\$)
GPT大規模言語モデル	✓	✓	✓	✓
AIが支援する形式でのウェブ検索、回答やコンテンツ生成	✓	✓	✓	✓
エンタープライズデータ保護		✓	✓	✓
Copilot in Outlook, Word, Excel, PowerPoint, and OneNote		✓		✓
Copilot in Teams			大学教職員が普通に使える Copilot	✓
Customization		Copilot GPT Builder		Copilot Studio

### 【エンタープライズデータ保護について】

- EntraID (Microsoftアカウント) でログインすると、EDP (エンタープライズデータ保護)、DPA (サービスデータ保護補遺) および製品条項が適用されます。Microsoftはデータプロセッサ (入力・処理・出力) として機能します。
- 入力されたプロンプトと応答は、AIの基礎モデルの訓練には使用されません。
- コンプライアンスシナリオとして、ユーザーのExchangeメールボックスに保存されます (プラグインがオンかオフかに関係ありません)
- 検索クエリは、応答の根拠を得るために、Bing検索サービスに渡され、ウェブから情報を取得して応答を補強します。ユーザーのプロンプトや補強データから抽象化/匿名化されます。



Microsoft のアカウント (Entra ID) でログインし、盾のマークがついていれば、データ保護が効いています 9

## 各Copilotの比較 (2024年10月9日にMicrosoftから入手した資料から引用)

※EDP (エンタープライズデータ保護)

		旧Copilot 商用データ保護	新Copilot EDP	M365 Copilot EDP
データの取り扱い	プロンプトと応答は基礎モデルの訓練には使用されません	●	●	●
	保存時および転送時に暗号化されます。Microsoftはこれに対して「目で確認する」アクセスはありません。厳格な物理的セキュリティ管理とテナント間のデータ分離が行われています。	●	●	●
	プロンプトと応答はコンプライアンスシナリオとして保存されます		●	●
	プロンプトと応答はMicrosoft 365サービスの範囲内だけで使用されます		●	●
	プロセッササービス、データ保護補遺および製品条項が適用されます		●	●
	GDPRおよびISO/IEC 27018をサポート		●	●
アクセス制御とポリシー	Copilotはあなたのアイデンティティモデルを尊重します	●	●	●
	プロンプトと応答は記録され、監査のために利用可能です		●	●
	プロンプトと応答はeDiscoveryのために利用可能です		●	●
	プロンプトと応答には保持ポリシーが適用されることがあります		●	●
検索クエリ	Webから情報を取得するためにBing検索サービスに渡されます	●	●	●
	ユーザーのプロンプトおよび補強データから抽象化/匿名化されます	●	●	●
	コントローラーサービス。Bingの使用はMicrosoftサービス契約およびMicrosoftプライバシー声明の対象となります	●	●	●
	Web検索クエリに対してユーザーの切り替えが可能です		●	●
広告の非表示		●	●	

新Copilotになり、セキュリティレベルはあがったようです (記載内容の説明が難しい...)

## 新しいCopilot Chatで使えるようになった機能

2024年10月9日にMicrosoftから入手した資料を基に作成。

サービスや仕様の変更があまりにも多いため、追いつけていません…

- **画像アップロード**:ユーザーが写真を撮る、画像をアップロードまたはコピー&ペーストしてプロンプトに使用できるようにします。
- **データ分析**: CopilotはPythonプログラミング言語を使用して、コーディング、可視化、数学などの複雑なデータ分析を支援します。
- **音声入力と読み上げ**:ユーザーがマイクを使用してCopilotと対話したり、Copilotの応答を聴いたりできるようにします。
- **豊富なウェブ回答**:天気や株価などの現在のウェブベースのデータに関するインタラクティブな応答カード。
- **エクスポート**:ユーザーがチャット会話をWord、PDF、またはテキストドキュメントにエクスポートして保存できるようにします。
- **コンテキストプロンプトの提案(Copilot in Edge)**: Microsoft Edgeで開いているページをプロンプトに参照して、ユーザーがCopilot内で関連するプロンプトを作成するのを支援します。
- **ページ要約(Copilot in Edge)**: Edgeで開いているWebページやPDFを要約できます
- **リライト(Copilot in Edge)**: Microsoft Edgeで開いているページ内で、トーン、形式、長さを編集できます。この機能が再度利用可能になるまで、以前のポリシー設定は削除されます。
- **Copilot Studioでのエージェント作成**: 但し、CopilotChatではデータソースはWeb限定
- **「検索」(ナレッジ検索、ドキュメント検索)**: アクセス権限の範囲内で組織内クラウドストレージ(SharePoint、OneDrive)内のナレッジを検索できる

上位サービスの、Microsoft 365 Copilotを契約すると、OfficeやTeamsと連携するなど、かなり便利になりそうですが、一人当たり追加で年間約5万円かかるので、敷居が高い…

11

1. はじめに/生成AIとは
2. 生成AIが出来ること (の一部)と、利用上の注意点について
3. ChatGPTのオプトアウトの設定(LLMに学習をさせない)
4. 生成AIの比較 2025年7月時点
5. Microsoft Copilotについて
6. ChatGPTで大学文書をこなしてみる

12



# CHATGPT プロンプト(指示文)作成のコツ

- 「知識を問うのではなく、一緒に文書を作成していく、パートナーである」と考える
- シンプルに箇条書で書くこと  
相手(部下)に対して、「的確に、シンプルに、指示をする」イメージ  
AIが理解できない、あいまいで冗長な表現はしない
- 良い生成文書を作成するためには、良いインプット情報を  
例) 下記の内容を盛り込んでください
- 「#ハッシュタグ」を使って整理することは、有効  
例) #役割  
あなたはプロのコピーライターです  
  
#出力形式  
高校生に伝わるように、500文字以内で

13

## 【推奨WEB】CHATGPTなどで使えるプロンプト文例集：PROMPTIA



このサイトは、ものすごく便利です  
<https://prompt.quel.jp/>



14

# 【推奨書籍】「ビジネスパーソンのためのCHATGPT活用大全(GAKKEN)」の目次より引用



- 活用術01 文章を校正してほしい
- 活用術02 より良い表現がないか知りたい
- 活用術03 外国語を翻訳してほしい
- 活用術04 自分が書いた文章を評価してほしい
- 活用術05 箇条書きをひとつの文章にしてほしい
- 活用術06 「だ・である」調を「です・ます」調に修正してほしい
- 活用術07 謝罪のメールの下書きを書いてほしい
- 活用術08 お願いのメールの下書きを書いてほしい
- 活用術09 お礼のメールの下書きを書いてほしい
- 活用術10 報告のメールの下書きを書いてほしい
- 活用術11 文章の内容を要約してほしい
- 活用術12 文章の内容を表にしてほしい
- 活用術26 プレスリリースに書くべきことを教えてほしい
- 活用術28 文章に炎上リスクがないか確認してほしい
- 活用術27 会議開催の案内メールを書いてほしい
- 活用術30 会議のレジュメを作成してほしい
- 活用術31 会議の議事録を作成してほしい
- 活用術32 長い説明文を要約してほしい
- 活用術33 議事録からやるべきタスクを作成してほしい
- 活用術34 SNSで告知すべき内容を考えてほしい
- 活用術35 SNSで注目されやすい文章に書き換えてほしい
- 活用術36 SNSの投稿文にハッシュタグをつけてほしい
- 活用術37 求人広告に掲載する募集要項を考えてほしい

- 活用術38 面接の質問項目を挙げてほしい
- 活用術39 面接の応募者の回答を評価してほしい
- 活用術44 セミナー開催の案内文を書いてほしい
- 活用術45 企画につけ足すアイデアを出してほしい
- 活用術46 企画内容の良い点、悪い点を教えてほしい
- 活用術49 記事のタイトルをつけてほしい
- 活用術50 社内報を作成してほしい
- 活用術55 アンケートの項目を考案してほしい
- 活用術56 アンケート結果からわかる傾向を分析してほしい
- 活用術57 WEBサイト制作用のコードを書いてほしい
- 活用術70 トラブル時に関係者へ連絡すべきことを教えてほしい
- 活用術71 クレーム電話へのスクリプトを考えてほしい
- 活用術72 はじめて行う作業の注意点を教えてほしい
- 活用術73 作業マニュアルを作成してほしい
- 活用術76 Excelで処理しやすいようにテキストデータを整理したい。
- 活用術77 目的に合ったExcelの関数を教えてほしい。
- 活用術78 Excelのユーザー定義関数を作成してほしい
- 活用術79 業界の専門用語の一覧を作してほしい
- 活用術80 仕事に疲れたときに励ましてほしい
- 活用術81 リーダーとしてやるべきことは何かを教えてほしい

→大学業務において、書籍や雑誌の用例をもとに、現場で使えるプロンプトが、たくさんある  
→この本は手元があれば、レファレンス資料になる

15

## 【用例1】イベント・研修の挨拶文を作成する

富山大学

### 【プロンプト】

副学長が高校訪問し、入試説明会をしますので、挨拶文の作成を手伝ってください。

高校生向けの優しい口調で、2分間くらいの分量で、お願いします。

下記の内容を盛り込んでください。

文体姿勢や  
文字数や目安時間を入れる

#### データサイエンス教育の展開

現代社会に必要なデータやデジタル技術を使いこなす力を養成するため、「富山大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム(令和2年度開始)」を中核として、初年次の教養教育から学部専門教育に至るまで体系的なデータサイエンス教育を行っています。

令和5年度には、本プログラムが先導的で独自の工夫・特色を有していることが評価され、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベルプラス)」に認定されました。また、工学部と都市デザイン学部のカリキュラムについては、専門分野への応用基礎力を習得できる水準であることから、同制度により「認定プログラム(応用基礎レベル)」に認定されています。経済学部と理学部においては、令和6年度に学部改組を行い、それぞれ1学科制に移行するとともに、数理・データサイエンスに関するコース/プログラムを開設するなど全学を挙げてデータサイエンス教育に取り組んでいます。

コラム 教育の3本柱 富山大学ではデータサイエンス教育に加え、アクティブラーニング、英語教育を「教育の3本柱」として大学を挙げて強化しています。

#### ①データサイエンス教育

-社会に必要なデータやデジタル技術を使いこなす力の養成-

②アクティブラーニング -自ら考え、学び、課題解決に繋げる-

一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的参加を促すことで、知識の転換を全学的に進めています。グループワーク、ディベート等の手法を取り入れた「アクティブラーニング導入率」は、81%

#### ③英語教育

-グローバルな世界で通用するコミュニケーション能力-

習熟度別クラス分け、テーマ別クラス分け、eラーニング、TOEIC-IPテスト及び海外英語研修等による体系的な英語教育を展開しています。TOEIC-IPテストは、1年次に2回(4月と12月以降)、3年次に1回、大学の費用負担による受験機会を設けています。2023年度入学者では4月に比べて12月の平均点が52点上昇しました。【以下略】

富山大学 統合報告書の教育のパートより引用

インプットするテキストは多い方が、生成文書の内容が濃くなると思います

### 【ChatGPT (GPT4) 回答】

皆さん、こんにちは。

富山大学の副学長の〇〇です。今日は、皆さんに富山大学の学び、特に「データサイエンス教育」と「英語教育」についてお話したいと思います。

現代社会では、データやデジタル技術を使いこなす力がとても重要です。富山大学では、令和2年度から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」をスタートし、1年生の教養教育から専門分野まで、体系的に学べるカリキュラムを整えています。この取り組みは高く評価され、令和5年度には文部科学省の認定制度で、先進的で独自性のあるプログラムとして選ばれました。

また、経済学部と理学部は令和6年度から新しい体制に生まれ変わり、データサイエンスを深く学べるコースを用意しました。経済学部の「経済データサイエンスプログラム」では、データを活用して企業経営や公共政策に役立つ力を養えます。理学部の「数理情報学プログラム」では、数学やデータサイエンスを駆使して自然や社会の課題を解決するスキルを学ぶことができます。

富山大学は、教育の柱として「データサイエンス教育」「アクティブラーニング」「英語教育」を掲げています。アクティブラーニングでは、講義を聞くだけでなく、グループワークやディスカッションで主体的に学ぶ授業を増やしています。これにより、皆さんが自ら考え、課題解決できる力を身につけられます。

英語教育についても、しっかりサポートしています。習熟度やテーマごとにクラスを分け、eラーニングや海外英語研修など多様な学びの機会を提供しています。TOEICテストも大学負担で受験でき、入学から半年で平均点が大きく伸びています。こうした学びを通じて、皆さんはグローバル社会で活躍できる英語コミュニケーション力を磨けます。

さらに、企業と連携した「データサイエンス寄附講座」では、地域の課題を題材に、学生がデータ分析で解決策を提案するなど、実践的に学びながら社会に貢献できます。これからの時代、データを扱える力と英語力は、どの分野でも必要です。富山大学は、皆さんがその力を身につけ、世界で活躍できるよう全力でサポートします。ぜひ、私たちと一緒に未来を切り拓いていきましょう。

今日は、ありがとうございました。

【ヒント】生成された文章に味付けをしたい場合は、追加のプロンプトを入れる。例えば、「もっと抑揚を入れて〜」「ボリュームを2倍で、もっと活気のある感じで」

16

## 【用例2】研修企画書を作成する

### 【プロンプト】

役割をあたえる

あなたは研修講師です。

研修企画書の作成を手伝ってください

実際に、今回の研修企画を作成した、プロンプト

テーマ名「ChatGPTで大学事務をこなしてみる」

以下の内容を盛り込んだ、研修概要をお願いします。

- ・大学事務において、生成AIを使い、業務の効率化を行う
- ・生成AI利用のメリット、リスクについて学び
- ・プロンプトエンジニアリングの基礎を習得する
- ・自大学の業務で、実際に文書生成を行う。

### 【ChatGPT (GPT4)回答】

以下は、「ChatGPTで大学事務をこなしてみる」というテーマの研修企画書の概要です。

#### 研修企画書

テーマ名: ChatGPTで大学事務をこなしてみる

#### 研修目的:

この研修は、大学事務の業務効率化を目指し、生成AI技術の一つであるChatGPTの活用方法を理解し、実践することを目的としています。参加者は、AIを用いた業務プロセスの改善方法を学び、実際に文書生成の経験を積むことで、日常業務におけるAIの適用能力を高めます。

#### 研修内容概要:

- ・生成AIの基本理解  
生成AIとは何か、その技術的背景について学びます。  
ChatGPTのアーキテクチャと機能について解説します。
- ・生成AIのメリットとリスク  
AIを利用することの具体的なメリットを例示します。  
生成AI導入における潜在的なリスクや課題について議論します。
- ・プロンプトエンジニアリングの基礎  
効果的なプロンプトの設計方法を学びます。  
具体的なプロンプト例を用いて、実践的な演習を行います。
- ・実践ワークショップ  
参加者は自大学の業務に関連した文書生成を試みます。  
実際に生成された文書の品質と適用性を評価し、改善点を検討します。

#### 対象者:

大学の事務職員、情報システム部門のスタッフ、教育関係者など、日々の業務において文書生成やデータ処理を行うすべてのスタッフ。

#### 研修方法:

オンラインと対面式のハイブリッド形式で実施。講義、デモンストレーション、グループワークショップを通じて、理論と実践の両方に触れることができます。

#### 研修期間:

全5回のセッション、各セッション2時間。

#### 期待される成果:

生成AIの基本操作とプロンプトエンジニアリングの技術を習得。  
大学事務における具体的な業務プロセスの効率化。  
AI導入のメリットとリスクを理解し、適切な使用方法を学ぶ。  
この企画書は、大学事務の効率化を目的としており、参加者がAI技術を効果的に活用するための基礎知識と実践スキルの習得を目指しています。

17

## 【用例3】委嘱状を作成する

### 【プロンプト】

下記の内容で、委嘱状の作成をお願いします。

項目は、箇条書きに

宛先: 学校法人▲▲ 理事長 ○○ 殿

差出人: 国立大学法人富山大学 理事 ■■

依頼状のタイトル: 「研修の運営委員の委嘱について(依頼)」

依頼する相手: 観光学部の◎◎教授

委嘱する職務内容: 研修の運営委員会の委員

従事場所: ●●大学 2号館会議室

委嘱期間: 2024年4月1日 ~ 2025年3月31日

勤務態様: 月1回 2時間

報酬: 月 10,000 円

### 【ChatGPT (GPT4) 回答】

以下は「研修の運営委員の委嘱について(依頼)」の委嘱状の文面例です。

宛先: 学校法人▲▲ 理事長 ○○ 殿

差出人: 国立大学法人富山大学 理事 ■■

日付: 2024年3月15日

件名: 研修の運営委員の委嘱について(依頼)

本文:

○○ 殿

平素より大きなご支援を賜り、誠にありがとうございます。このたび、国立大学法人富山大学では、2024年度に実施予定の研修プログラムにつきまして、その運営委員会の組織を進めております。この重要な任務を担っていただくべく、貴学の観光学部◎◎教授に研修の運営委員をお願いいたたく、ここに委嘱状をお送りいたします。

富山大学

委嘱職務内容: 研修の運営委員会委員

従事場所: ●●大学 2号館会議室

委嘱期間: 2024年4月1日から2025年3月31日まで

勤務態様: 月1回、各2時間の会議及び関連業務

報酬: 月額10,000円

◎◎教授の豊富な知識と経験が、本委員会においても大きな力となることを確信しております。ご多忙のところ恐縮ですが、この委嘱に対し、ご承諾いただけますと幸いです。

本件につきまして、ご質問等がございましたら、お気軽に下記連絡先までお問い合わせください。何卒、よろしくお願い申し上げます。

敬具

連絡先情報:

国立大学法人富山大学 (住所、電話番号、メールアドレス)

この文面は、必要な情報を簡潔に記載しつつ、敬意を表しています。具体的な職務内容、勤務条件、報酬などの重要事項も明確に記載されており、正式な依頼として適切です。

【応用】生成AIは定型文書作成は得意なので、御礼状、おわび状などを作成する

18



# 【用例4】入学式のマニュアル作成

## 【プロンプト】

大学の入学式のマニュアル作成を手伝ってください

- ・午前と午後の二部構成で、午前のみ来賓の挨拶があります。
- ・午前の部は午後に、学科ガイダンスがあります。
- ・午後の部は夕方に、学科ガイダンスがあります。
- ・主担当は総務部で、学生部、学事部、人事部で役割分担があります。

大学の入学式のマニュアルを作成する際の構成案を以下に示します。内容を必要に応じて調整してください。

### # 1. 総則

- 目的: 大学入学式の円滑な運営を目的とする。
- 適用範囲: 本マニュアルは全関係者に適用される。

### # 2. 日程と構成

- 午前の部
  - 開始時間: 10:00
  - 主な内容:
    - 開会の辞
    - 学長挨拶
    - 来賓の挨拶
    - 新生代表の挨拶
    - 大学歌斉唱
  - 終了時間: 12:00
  - 付帯事項: 午後に学科ガイダンスを実施
- 午後の部
  - 開始時間: 14:00
  - 主な内容:
    - 開会の辞
    - 学長挨拶

- 新生代表の挨拶
- 大学歌斉唱
- 終了時間: 16:00
- 付帯事項: 夕方に学科ガイダンスを実施

### # 3. 役割分担

- 総務部
  - 全体の統括
  - 式典の準備と進行管理
  - 来賓対応
- 学生部
  - 新生生の誘導とサポート
  - 式典当日のアナウンス
- 学事部
  - 式典プログラムの作成
  - 配布資料の準備
- 人事部
  - 教職員の出席確認と誘導
  - 式典後の反省会の実施

### # 4. 詳細スケジュール

- 午前の部
  - 09:00: 会場設営完了
  - 09:30: 新生受付開始
  - 10:00: 開会の辞
  - 10:10: 学長挨拶
  - 10:30: 来賓の挨拶
  - 11:00: 新生代表の挨拶
  - 11:30: 大学歌斉唱
  - 12:00: 閉会の辞
  - 13:00: 学科ガイダンス開始

- 午後の部
  - 13:00: 会場再設営
  - 13:30: 新生受付開始
  - 14:00: 開会の辞
  - 14:10: 学長挨拶
  - 14:30: 新生代表の挨拶
  - 15:00: 大学歌斉唱
  - 15:30: 閉会の辞
  - 16:00: 学科ガイダンス開始

### # 5. その他

- 緊急連絡先
  - 総務部: XXX-XXXX-XXXX
  - 学生部: XXX-XXXX-XXXX
  - 学事部: XXX-XXXX-XXXX
  - 人事部: XXX-XXXX-XXXX
- 注意事項
  - 新型コロナウイルス感染症対策を徹底すること。
  - 式典中の携帯電話の使用は禁止。

### # 6. 添付資料

- 式典プログラム
- 学科ガイダンス案内図
- 緊急連絡先リスト

以上が、大学入学式のマニュアルの基本的な構成案です。詳細や具体的な内容については、各部門と協議して調整してください。

【応用】来賓・VIP対応の注意点なども、生成AIに聞いて、マニュアルの内容を厚くしてみる

## 九州大学 IR室 の森木 銀河さんによる P4US DOCUMENTATION [HTTPS://PROMPTFORUS.COM/DOCS/](https://promptforus.com/docs/)

おすすめWeb

「ChatGPT/生成AIへの対応を表明した国内の大学一覧」をまとめられていた、九州大学 IR室 の森木 銀河さんによる、Webサイト。

かなりの情報量で、大学事務における生成AI活用情報が、一番まとまっているサイト。



九州大学FD 大学業務における生成AI活用の現在地:実践編 (2024年8月20日) <https://promptforus.com/docs/archive/kyushu-hands-on2024/>

## 【用例5】X(TWITTER)投稿文を作成する

### 【プロンプト】

Twitterの投稿文の作成を手伝ってください。

高校生向けのポップなパターンと、親御さん向けの、しっかりしたパターンとの二種類を提案してください。

2パターンを作成させる

盛り込む内容は、

- ・大学のオープンキャンパスを、8月1日から3日まで開催
- ・スタンプラリーを全部集めると特典あり
- ・現役学生による、受験相談コーナーは要予約

### 【ChatGPT (GPT4) 回答】

もちろんです！それぞれのターゲットに合わせたTwitterの投稿文を下記に提案します。

#### 【高校生向け(ポップなスタイル)】

🌞🎉 夏の大イベント！🎉 #大学オープンキャンパスが8月1日～3日まで開催されるよ！🏠🌟  
🔍 スタンプラリー完走で超豪華特典ゲットのチャンス！🎁  
📅 さらに、先輩学生との受験相談もあり！要予約だからお忘れなく！📅  
みんなでワイワイ大学生活を体験しよう！👫 #受験生 #大学生活

### 【親御さん向け(しっかりしたスタイル)】

【お知らせ】本学のオープンキャンパスを、8月1日から3日まで開催いたします。🏠  
お子様と一緒にキャンパスライフを体感いただける絶好の機会です。👨👩👧  
スタンプラリーを全て集めると特典がもらえる企画もございますので、ぜひご参加ください。🎁  
また、現役学生による受験相談コーナーを設けております(事前予約制)。  
📅 将来の進路選択に役立つ情報をお持ち帰りください。#進学相談 #オープンキャンパス

これらの文面で投稿することで、ターゲットごとに適したメッセージを届けることができます。どちらかのスタイルに修正や追加が必要であれば、お知らせください。

### 【ポイント】

- ・それぞれの文体の使い分けに着目
- ・ハッシュタグを入れて、140文字以内に抑えてくれる
- ・絵文字も入れてくれる (今だと、オジサン・オバサン構文！?)

### 【さらに】

ChatGPTに、X(Twitter)と、Instagramの投稿のポイントを聞くと、丁寧に答えられます

【応用】大学案内のキャッチコピーを作成してみましょう

21

## 【用例6】です・ます調に変換する

### 【プロンプト】

下記の文章を、です・ます調に変換してください。

第3期中期目標期間(4年目終了時評価)に係る業務の実績に関する評価結果 より

富山大学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本的に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを目指している。

第3期中期目標 期間においては、カリキュラム改革や教育方法の改善、強みを持つ先端分野の研究強化やイノベーション創出を支える教育研究組織の整備・充実を図り、全国的な教育研究拠点に向けて機能強化を行うとともに、「地(知)の拠点」を目指し、地域活性化の中核的拠点として、マネジメント体制を確立することを基本的な目標としている。

### 【ChatGPT (GPT4o) 回答】

富山大学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本的に、高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを目指しています。

第3期中期目標期間においては、カリキュラム改革や教育方法の改善、強みを持つ先端分野の研究強化や、イノベーション創出を支える教育研究組織の整備・充実を図り、全国的な教育研究拠点に向けて機能強化を行うとともに、「地(知)の拠点」を目指し、地域活性化の中核的拠点として、マネジメント体制を確立することを基本的な目標としています。

### 【プロンプト(続きで)】

変更した箇所を、列記してください。

富山大学

【ChatGPT (GPT4) 回答】 以下のように変更しました。

以下が、元の文章から「です・ます調」に変更した箇所の一覧です。

1. 目指している → 目指しています
2. 目標としている → 目標としています
3. 「基本的に高い使命感」→「基本的に、高い使命感」  
(語調を整えるために読点を追加)
4. 「研究強化やイノベーション創出を支える」→「研究強化や、イノベーション創出を支える」  
(読みやすさのために読点を追加)

※内容や語順はそのまま、文末の常体(～している)を敬体(～しています)に統一し、読みやすさ向上のために一部読点を追加しました。

希望があれば、変更箇所をdiff形式(比較表示)でもお示しできますが、作成しますか？

### 【ポイント】

- ・文体の変更、文章の校正が行える。

### 【注意点】

- ・たまに、余計な変更を、勝手にしていることがあります。
- ・GPT3.5の頃だと、けっこうヌケモレがあったが、最近の生成AIは精度が上がってきたように感じる。
- ・最終的には、人間がチェックする必要あり。  
(最初から、人間が作業したほうが、良いか…！?)

22

## 【用例7】勤務シフト表を作成する

### 【プロンプト】

シフトの作成を手伝ってください。

割り当てが必要な人は、

木村さん  
佐藤さん  
中嶋さん  
森本さん  
鳥飼さん  
水木さん の6名

### #シフト時間

- ・月から金曜の9時～12時、12時～15時、15時～18時
- ・それぞれの時間に2人割り当てる

### #条件

- ・木村さんは午前中はNG
- ・佐藤さんは、水曜と木曜の午後はNG
- ・中嶋さんは夕方のシフトを希望
- ・水木さんは月と金がNG
- ・森本さんは特に希望なし
- ・鳥飼さんと森本さんは、同じ時間に割り当てない

### #条件2

- ・それぞれのシフト回数が、均等になるように割り当ててください

### 【ChatGPT (GPT4) 回答】

以下は木村さん、佐藤さん、中嶋さん、森本さん、鳥飼さん、水木さんのためのバランスの取れたシフトスケジュールです。

#### 月曜日から金曜日のシフトスケジュール

- 午前シフト(9時～12時): 2名
- 午後シフト(12時～15時): 2名
- 夕方シフト(15時～18時): 2名

#### 月曜日

- 午前: 森本さん、鳥飼さん
- 午後: 佐藤さん、水木さん
- 夕方: 中嶋さん、木村さん

#### 火曜日

- 午前: 森本さん、鳥飼さん
- 午後: 佐藤さん、木村さん
- 夕方: 中嶋さん、水木さん

#### 水曜日

- 午前: 森本さん、鳥飼さん
- 午後: 木村さん、水木さん
- 夕方: 中嶋さん、佐藤さん

#### 木曜日

- 午前: 森本さん、鳥飼さん
- 午後: 木村さん、水木さん
- 夕方: 中嶋さん、佐藤さん

#### 金曜日

- 午前: 森本さん、鳥飼さん
- 午後: 佐藤さん、木村さん
- 夕方: 中嶋さん

#### 注意事項

- 木村さん: 午前のシフトを避けて割り当てました。
- 佐藤さん: 水曜と木曜の午後に避けて割り当てました。
- 中嶋さん: 主に夕方のシフトに割り当てました。
- 水木さん: 月曜と金曜は割り当てていません。
- 森本さん: 特に時間の希望がないため均等に割り当てました。
- 鳥飼さん: 森本さんとは同じ時間に割り当てていません。

このスケジュールで問題ないでしょうか、それとも何か調整が必要ですか？

### 【さらに】

- ・それぞれの勤務回数を並べる
- ・表形式で出力する
- ・さらに、Excelで出力してみる

### 【注意点】

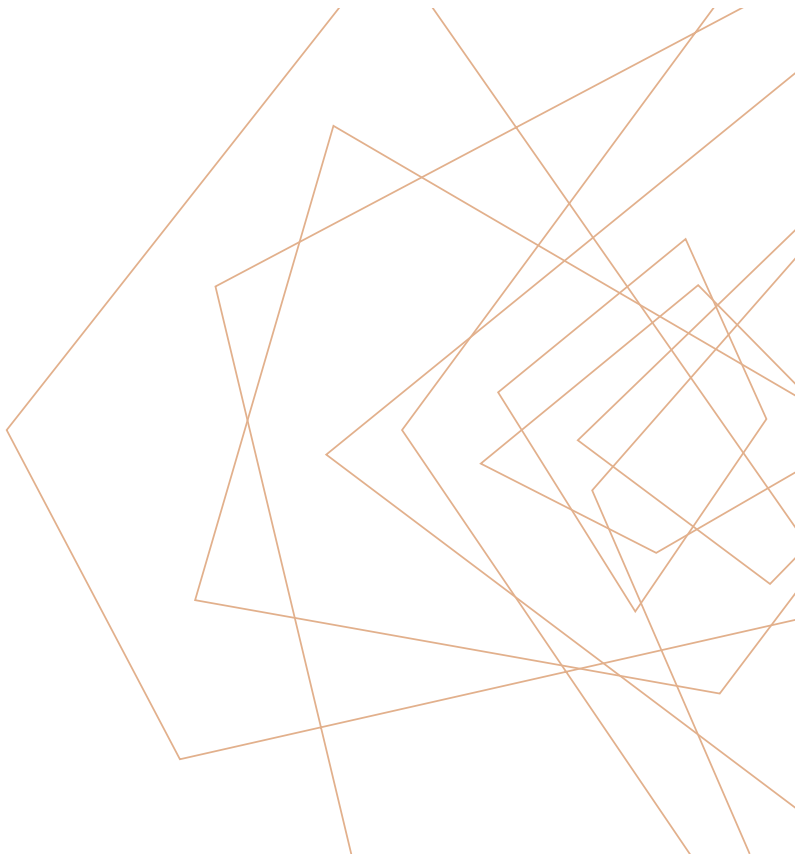
- ・普通の生成AIでは、うまくシフトを組んでくれないことがありますが、
- ・推論モデルだと、しっかり組んでくれるようになったと思います。

23

## 翻訳・英訳編



ChatGPT Plus の DALL-E 3 で作成



## 【用例8】英訳、和訳をする

### 【プロンプト1】

下記の文書を、アカデミックな文体で、英訳をお願いします。

\*【日本語】

### 【プロンプト2】

下記メール文の原稿を、ビジネス文体で、和訳をお願いします。

\*【英語】

ポイント:

・普通に「英訳してください」でも、精度の高い英訳をしてくれるが、「**アカデミック英語での英訳**」「**ビジネス文体での英訳**」といったプロンプトだと良い英訳になる。

・「**アカデミックな推薦状にふさわしい文体で、和訳をしてください**」というプロンプトで、かなり精度の高い、和訳をできたケースあり。

・diff形式は、かなり便利です。

・【第70回】大学等におけるオンライン教育とデジタル変革に関するサイバーシンポジウム「教育機関DXシンポ」(2023年10月13日 オンライン開催)  
「大学英語教育におけるChatGPT活用型授業実践:英語教師が認識する生成AI活用の可能性と限界」  
京都大学 国際高等教育院 柳瀬 陽介教授より「**Plain Englishでの英訳**」というプロンプトが、かなり有効だという、ご発表がありました。

<https://www.nii.ac.jp/event/other/decs/past.html>

25

## 【用例9】学内の委員会の、英語名の候補をいくつか提案してもらおう

### 【プロンプト】

教研系システム委員会の英訳案をいくつか出してください

### 【ChatGPT (GPT4) 回答】

「教研系システム委員会」の英訳は以下のようなバリエーションが考えられます:

1. Educational Research Systems Committee
2. Committee for Educational Research Systems
3. Educational Systems Research Committee
4. Research Systems Committee on Education
5. Committee on Systems in Educational Research

それぞれのフレーズは、日本語のニュアンスを異なる形で表現しており、文脈によって最適なものを選ぶことができます。

### 【プロンプト(続きで)】

「教育研究系の情報システムの学内委員会」という意味で、もうすこし丁寧な、案をいくつか出してください

### 【ChatGPT (GPT4) 回答】

「教育研究系の情報システムの学内委員会」という意味を反映させた、より正式な英訳案を以下に示します:

1. Internal Committee for Information Systems in Educational Research
2. University Committee on Information Systems for Educational Research
3. Academic Committee for Educational Research Information Systems
4. Steering Committee on Information Systems in Educational Research at the University
5. Campus Committee for Information Systems within Educational Research

これらの訳例は、大学内の公式な組織や委員会の名称として適切に聞こえるように、フォーマルな表現を使用しています。

↑これでもまだ、完全ではない

### 【ポイント】

- ・いくつかの英訳候補を出させて、比較ができる
- ・元の日本語が略称だったりする場合、英訳結果が正しいかどうか、よく確認すること  
上述の例の場合、「教研系」という言葉がしっかり翻訳されているかどうか(冷静に考えると、大学内は、この手の略称用語が多いことに注意する)

26



# 【用例10】アカデミック用語の、米国英語と英国英語の比較をする

## 【プロンプト】

アカデミック用語の、米国英語と英国英語の違いを、解説してください

## 【ChatGPT (GPT4) 回答】

アカデミック用語における米国英語と英国英語の違いは、主に用語の選択、スペル、文化的な背景に基づく教育システムの違いによるものです。いくつかの主要な違いを解説します：

### 1. 用語の違い

- University and College: 米国では「college」は大学全体ではなく、大学内の学部や独立した機関を指すことが多いです。一方、英国では「university」が大学を指し、「college」は大学内の一部か、専門教育機関を指すことが多いです。  
 - Postgraduate vs. Graduate: 米国では修士や博士の学生を「graduate students」と呼びますが、英国ではこれを「postgraduate students」と表現します。

### 2. スペルの違い

- Program vs. Programme: 「program」は米国英語で、英国英語では「programme」と綴ります。  
 - Center vs. Centre: 「center」は米国英語の綴りで、英国英語では「centre」と綴ります。

### 3. アカデミックタイトルの違い

- Professor: 米国では、任期保証を持つ高位の教員を「professor」と呼びますが、英国では教職階級がより細分化されており、「professor」は最上位の教員にのみ使用されます。  
 - Lecturer vs. Assistant Professor: 英国では初級の教員を「lecturer」と呼びますが、同等の地位の米国では「assistant professor」と呼ばれます。

## 【注意点】

たまに、間違えます (これは生成AI全般の話ですが・・・)

## 4. 教育システムの違いに基づく用語

- Public School: 米国では公立学校を意味しますが、英国では歴史的な私立学校、特に選抜制の寄宿学校を指す場合があります。  
 - First, Second, Third Year: 米国では大学の学年を「freshman, sophomore, junior, senior」と呼びますが、英国では「first, second, third (and possibly fourth) year」という言い方が一般的です。

これらの違いは、特定の文脈でアカデミックな表現や理解をする際に重要です。両方のバリエーションに慣れることで、より国際的な学術コミュニケーションが可能になります。

【プロンプト(続きで)】表のかたちで比較できるようにしてください

ChatGPT  
 以下に、アカデミック用語の米国英語と英国英語の違いを表形式で比較したものを示します：

米国英語	英国英語	説明
college	college/university	米国では独立した学部や機関を指すことが多いが、英国では大学や特定部門を指す
graduate student	postgraduate student	大学院生 (修士・博士課程)
program	programme	教育や放送の「プログラム」
center	centre	研究「センター」などの施設名
professor	professor	米国では任期保証付き教員を指し、英国では最上位の教員
assistant professor	lecturer	米国の初級教員に相当し、英国では「lecturer」
public school	public school	米国では公立学校、英国では伝統的な私立寄宿学校を指す
freshman, sophomore, junior, senior	first, second, third (and possibly fourth) year	大学の学年

この表を通じて、それぞれの国の教育用語の違いが明確に理解できるようになります。

27

# 英訳・翻訳で参考になるサイト

## ChatGPTで翻訳する時の使い方

<https://www.yarakuzen.com/blogs/chat-translation-howtouse>

## 【目次】

- ・ChatGPTは双方向的な翻訳作業が可能
- ・ChatGPTで翻訳する時のポイント
- ・スタイルの指定する方法
- ・英語の丁寧さを指定する方法
- ・誤訳を見つける方法
- ・【実践編】ChatGPTで翻訳とチェック
- ・翻訳の手順
- ・ChatGPTの翻訳とチェックまとめ
- ・ChatGPTを使う上での注意点
- ・無料版と有料版の違い
- ・生成された訳文は必ずチェックしよう
- ・チェックを簡単・シンプルに行うために



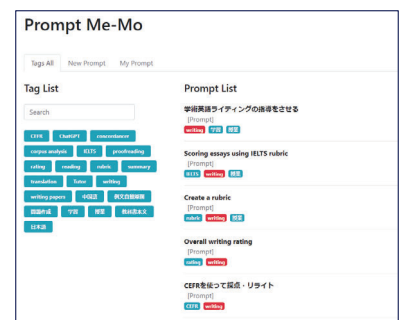
## 関西大学 外国語学部 水本 篤 教授による、英語学習プロンプトのサイト

英語、英訳/和訳などの用例がまとまっていて、とても有用 (内容は教育者向け)

<https://langtest.jp/me-mo/>

[スライド] そこにAIはあるんか? ChatGPTによる外国語教育実践・研究の革新

<https://mizumot.com/files/2023-0527-LET-Kansai-WS.pdf>



28

## 参考)英語と日本語の精度の違いについて (2023年11月にChatGPTに聞いてみた)

【プロンプト】なぜChatGPTは、日本語に比べて、英語の方が生成文書の精度が高いのでしょうか

### 【ChatGPT回答】

日本語に比べて英語で生成される文書の精度が高いと感じられる理由はいくつか考えられます。以下に主要な要因を挙げてみます:

#### トレーニングデータの量:

英語はインターネット上で最も広く使われている言語の一つであり、機械学習モデルをトレーニングする際に利用可能なデータの量が非常に多です。これに対して、日本語のデータは相対的に少ないため、モデルが学習できる範囲が狭くなりがちです。

#### 言語の構造的複雑さ:

日本語は文法的にも表記的にも英語より複雑です。たとえば、漢字、ひらがな、カタカナの3種類の文字を使い分ける必要があり、また、表現のニュアンスを伝えるためには、微妙な文末表現を正しく使いこなす必要があります。

#### 言語の多様性:

日本語には多数の方言が存在し、それぞれに独特の表現があります。加えて、敬語の使用など、社会的文脈に基づく言い回しが多いため、適切な表現を生成することが英語に比べて難しい場合があります。

#### トレーニングデータの質:

トレーニングデータには、ネイティブスピーカーによる高品質なテキストが多く含まれていることが望ましいですが、日本語のデータセットには、翻訳されたテキストや低品質なテキストが含まれていることがあります。これにより、モデルの言語理解能力が低下する可能性があります。

#### 技術的な挑戦:

自然言語処理技術は、英語を中心に発展してきました。そのため、英語の処理に適した技術が多く、日本語のような言語に対してはその適用が難しい場合があります。

それでも、日本語の自然言語処理技術も日々進化しており、精度は向上しています。研究者や開発者は、より多くの高品質な日本語データを収集し、日本語特有の文法や表現を処理できるようにモデルを改良することで、より精度の高い日本語テキスト生成を目指しています。

29

## EXCELの関数 マクロ編



ChatGPT Plus の DALL-E 3 で作成

## 【用例11】EXCELの操作について聞いてみる

【プロンプト】 Excelの相対参照と絶対参照の違いと、使い方の注意点について教えてください

【Copilot 回答】

もちろんです！Excelの相対参照と絶対参照の違いと使い方の注意点について説明しますね。

### # 相対参照

**相対参照**は、セルの位置を基準にして参照する方法です。例えば、セルA1に「=B1」と入力すると、A1セルはB1セルの値を参照します。この状態でA1セルの数式を他のセルにコピーすると、参照先も相対的に変わります。例えば、A1の数式をA2にコピーすると、A2の数式は「=B2」となります。

### # 絶対参照

**絶対参照**は、特定のセルを固定して参照する方法です。絶対参照を使うには、セル参照の前にドル記号(\$)を付けます。例えば、セルA1に「=\$B\$1」と入力すると、A1セルは常にB1セルの値を参照します。この数式を他のセルにコピーしても、参照先は変わりません。

### # 混合参照

**混合参照**は、行または列のどちらか一方だけを固定する方法です。例えば、「=B\$1」とすると、列Bは固定され、行は相対的に変わります。また、「=\$B1」とすると、行1は固定され、列は相対的に変わります。

### # 使い方の注意点

1. **数式のコピー**: 相対参照を使うと、数式をコピーしたときに参照先が自動的に調整されるので便利です。一方、絶対参照を使うと、特定のセルを固定して参照できるため、特定の値を常に使用したい場合に役立ちます。
2. **混合参照の活用**: 混合参照を使うと、行または列のどちらか一方だけを固定できるため、複雑な数式を作成する際に便利です。
3. **誤った参照の防止**: 数式をコピーする際に、意図しないセルを参照してしまうことを防ぐために、適切な参照方法を選ぶことが重要です。

これで、Excelの相対参照と絶対参照の違いと使い方の注意点について理解できたでしょうか？他にも質問があれば教えてくださいね。

31

## 【用例12】シンプルなEXCEL関数を聞いてみる

【プロンプト】 生年月日から、年齢を算出する、Excel関数を教えてください。

【Copilot 回答】

もちろんです！Excelで生年月日から年齢を算出するには、以下のような関数を使用します。

### 1. DATEDIF関数を使う方法:

- 生年月日がセルA1にあるとします。
- 年齢を計算するために、次のような式を使用します:

```
=DATEDIF(A1, TODAY(), "Y")
```

- この式は、A1の生年月日から今日の日付までの年数を計算します。

### 2. YEARFRAC関数を使う方法:

- 生年月日がセルA1にあるとします。
- 年齢を小数点以下も含めて計算するために、次のような式を使用します:

```
=INT(YEARFRAC(A1, TODAY()))
```

- この式は、A1の生年月日から今日の日付までの年数を小数点以下も含めて計算し、整数部分を取得します。

どちらの方法も簡単に年齢を計算できますので、お好みに合わせて使ってみてください。何か他にお手伝いできることがあれば教えてください！

•Excelの操作方法や関数を聞くと、スラスラと答えてくれます。

•「元のデータが●●という形式で入っていて、それを▲▲のかたちになりたい」という、プロンプトを書けば、用例を入れた解説をしてくれます。

•検索エンジンで関数を探して、いろいろ試すより、ChatGPT/Copilotに聞いたほうが、手取り足取り教えてくれるので、かなり有用だと思います。

32

## 【用例13】少し複雑なEXCELの関数を作成する

### 【プロンプト】

外国人の名前を、姓名ミドルに分割するExcel関数を教えてください

### 【ChatGPT (GPT4) 回答】

Excelで外国人の名前を姓名とミドルネームに分割するには、以下のように関数を利用することができます。

#### 1. 姓名ミドルネームの分割

名前が「John Michael Smith」のようにファーストネーム、ミドルネーム、ラストネームの順で記されていると仮定します。以下の手順で分割できます。

ファーストネーム(名)を取得  
=LEFT(A1, SEARCH(" ", A1)-1)

ミドルネームを取得:  
=TRIM(MID(A1, SEARCH(" ", A1) + 1, SEARCH(" ", A1) + 1) - SEARCH(" ", A1))

この式は、最初と二番目のスペースの間の文字を抽出します。

ラストネーム(姓)を取得:  
=RIGHT(A1, LEN(A1) - SEARCH(" ", A1, SEARCH(" ", A1) + 1))

#### 注意点

上記の式は、名前が厳密に「ファーストネーム ミドルネーム ラストネーム」という形式である場合のみ機能します。

名前がミドルネームを含まない場合、または複数のミドルネームがある場合は、これらの式を適宜調整する必要があります。

この方法を使ってExcelで名前の分割を行うことができます。何か他にも知りたいことがあれば、教えてください。

・【応用】日本人の名前が姓名、外国人の名前が姓名ミドルの場合についても聞いてみる  
・BIツールTableauや、PowerBIなど違う製品の関数も、確認できます。

### 【プロンプト】

NPSを計算するExcel関数を教えてください

NPS(Net Promoter Score)は、顧客のロイヤルティや満足度を測定するための指標です。顧客に「この製品/サービスを友人や同僚に推薦する可能性はどの程度ですか?」と質問し、0(全く推薦しない)から10(非常に推薦する)までのスケールで評価してもらいます。このスコアをもとに、顧客を以下の3つのカテゴリに分け、その比率を計算しNPSを導出します。

Promoters(推奨者): スコアが9または10の顧客  
Passives(中立者): スコアが7または8の顧客  
Detractors(批判者): スコアが0から6の顧客

NPSは次の式で計算されます:  
$$NPS = (\text{推奨者の数} - \text{批判者の数}) / \text{回答者総数} \times 100$$

ExcelでNPSを計算するための関数を設定するには、以下の手順を踏みます。

#### 1. スコアに基づいて顧客をカテゴリに分類する

Promoters : =COUNTIF(range, ">=9")  
Passives : =COUNTIF(range, "=7") + COUNTIF(range, "=8")  
Detractors : =COUNTIF(range, "<=6")

ここで、rangeは顧客のスコアが入力されているセル範囲を指します。

#### 2. NPSを計算する

以下の式を使ってNPSを計算します:

$$= ((\text{COUNTIF}(\text{range}, ">=9") - \text{COUNTIF}(\text{range}, "<=6")) / \text{COUNT}(\text{range})) * 100$$

この式では、Promotersの数からDetractorsの数を引いて、回答者総数で割り、100を掛けています。これにより、NPSがパーセンテージとして出力されます。

#### 注意点

この計算には、すべてのスコアがrangeに適切に入力されている必要があります。また、Excelのセルの参照が正しいことを確認してください。これで、Excelで簡単にNPSを計算できるようになります。

33

## 【用例14】EXCELのマクロを作成する

【プロンプト】 Excelのマクロ作成を手伝ってください

- ・フォルダのパスは、E:\TEST
- ・同じフォルダにあるExcelブックの、Sheet1のA列を合計して、現在開いているシートのA列に一行ずつ入れていく
- ・最後に、A列の合計を、最終行に入れる

【ChatGPT (GPT4) 回答】 Excelのマクロで指定された操作を行うためのVBAコードを作成します。このマクロは、E:\TEST フォルダ内のすべてのExcelファイルを開き、各ファイルのSheet1のA列の合計を計算し、それを現在開いているExcelブックのA列に順に入れていきます。最後に、これらの合計値の合計をA列の最終行に追加します。

以下がそのためのVBAスクリプトです。

```
Sub SumColumnAAndReportInActiveWorkbook()  
    Dim sourceWb As Workbook  
    Dim targetWs As Worksheet  
    Dim folderPath As String  
    Dim filename As String  
    Dim columnSum As Double  
    Dim lastRow As Long
```

```
' フォルダパスを設定  
folderPath = "E:\TEST"
```

```
' 現在アクティブなワークシートを設定  
Set targetWs = ThisWorkbook.ActiveSheet
```

```
' フォルダ内のすべてのExcelファイルを検索  
filename = Dir(folderPath & "*.xlsx")
```

```
' 各ファイルのA列の合計を現在のシートのA列に入力
```

```
Do While filename <> ""  
    ' ワークブックを開く  
    Set sourceWb = Workbooks.Open(folderPath & "/" & filename)
```

```
' Sheet1のA列の合計を計算  
columnSum =  
Application.WorksheetFunction.Sum(sourceWb.Sheets("Sheet1").Range("A:A"))
```

```
' 現在のシートの次の空の行に合計を入力  
lastRow = targetWs.Cells(targetWs.Rows.Count, "A").End(xlUp).Row + 1  
targetWs.Cells(lastRow, 1).Value = columnSum
```

```
' ワークブックを閉じる  
sourceWb.Close False
```

```
' 次のファイル名を取得  
filename = Dir  
Loop
```

```
' A列の合計を最終行に入れる  
lastRow = targetWs.Cells(targetWs.Rows.Count, "A").End(xlUp).Row + 1  
targetWs.Cells(lastRow, 1).Value =  
Application.WorksheetFunction.Sum(targetWs.Range("A1:A" & lastRow - 1))
```

```
' 完了メッセージ  
MsgBox "すべてのファイルの処理が完了しました。合計も計算されました。"  
End Sub
```

このマクロを実行する際の注意点:

1. マクロが有効になっていることを確認してください。
2. 現在開いているワークブックに書き込みが可能なことを確認してください。
3. ファイル形式を必要に応じて調整してください。ここでは.xlsxのみを対象としています。

このスクリプトは、すべてのExcelファイルを順に処理し、それぞれの合計をアクティブなシートに記録しています。最後に、これらの値の合計も計算されます。エラー処理が含まれていないため、必要に応じて追加することをお勧めします。

- ・うまく使いこなせば、作成されたコードの修正もできる
- ・他のプログラミング言語も可能(PythonやRなど)

【注意点】 うまくいかないことが多いので、根気よく、何回も指示をしながら、つくっていくこと

34



# EXCELの関数・マクロなどで参考になるサイト



【ChatGPT×Excel】ChatGPTにExcel関数式を出力させる方法  
<https://aitrigger.co.jp/blog/efficient/chatgptexcel/>

お勧めサイト「promptia」に記載されている

エクセルの関数を作ってもらおう  
<https://prompt.quel.jp/10012>

他にも、ネットを検索すると、いろいろ出てきます

## 【用例15・COPILOT】時事問題について聞いてみる

昔のCopilotは、モードを選べた



### 【ポイント】

- ・時事問題については、ChatGPTに比べて、Copilotのほうが強いと思います。(ChatGPT Plusにも、Web検索機能はあるが、動きが怪しい)
- ・一番信頼できるのは「厳密モード(GPT4?)」、Hallucination(幻覚・デタラメ)は少ない。
- ・バランスモード(Deucalion)はスピードは速いが、Hallucination(幻覚・デタラメ)に要注意。
- ・上述の例だと、参照元として、文部科学省とJASSOのWeb情報から、引っ張ってきているのが分かる。

## 【用例16・COPILOT】海外の時事問題について聞いてみる

自分
厳密モード

コーネル大学の学費について教えてください。1ドル155円で換算をお願いします。  
#条件  
情報ソースは、英語のサイトから探してください

Copilot

✓ 回答を生成しています...

コーネル大学の学費については、以下の通りです：

- 2024-2025年度の学部生の授業料は **\$68,380** で、これを1ドル=155円で換算すると約10,608,900円となります。
- その他の必須費用には、学生活動費 (**\$384**) とコーネル健康保険料 (**\$550**) が含まれます。これらを1ドル=155円で換算すると、学生活動費は約59,520円、健康保険料は約85,250円となります。
- 住居費は **\$12,296** (約1,905,880円)、食費は **\$7,132** (約1,105,460円) と見積もられています。

これらの費用は、学生が一年間にかかると見積もられたもので、実際の費用は学生のライフスタイルや選択によります。また、これらの費用は毎年見直され、変更される可能性がありますので、最新の情報はコーネル大学のウェブサイトをご確認ください。なお、これらの金額は換算レートが変動するため、実際の日本円額は変わる可能性があります。ご了承ください。

詳細情報
1 finaid.cornell.edu
2 bursar.cornell.edu
3 usnews.com
+2 その他



### 【ポイント】

・海外の情報を調べるときには、

「**情報ソースは、英語のサイトからお願いします**」というプロンプトが有効

生成AIは全般的に、英語情報のほうが精度が高い ⇨ 学習量が多いと思われる

・ドル円換算も、プロンプトに入れると、計算してくれる。

## 【参考】ChatGPTのDeep Researchについて (ChatGPT Web検索モードに聞いてみた)

ChatGPTの **Deep Research** は、OpenAIが2025年2月に導入した高度な調査エージェント機能です。通常の会話型ChatGPTとは異なり、「深い調査」を必要とする複雑な課題に対して、約**5~30分**間にわたり自律的にウェブ検索・分析・資料精査を行い、**レポート形式で引用付きの包括的な回答**を提供します ([OpenAI](#))。

### ✓ 特長

#### ・手順的な調査フロー

ユーザーが入力した質問に基づいて、まず要件を明確化し、必要に応じて追加質問しながらマルチステップの調査計画を自動で立て、ウェブ・文書・PDF・画像などを対象に深掘り調査を行います。

#### ・幅広い情報源と引用

数百件以上のサイトを読み込み、信頼できる情報源を抽出。すべての主張に明確な引用付きで報告するので、**後から検証可能**です。

#### ・高度な推論モデル搭載

特殊な「o3」モデルを基に最適化され、HLE (Humanity's Last Exam) ベンチマークでは26.6%という高評価を達成 (GPT-4oは3.3%)。

#### ・利用時間とレポート時間

調査には通常**5~30分**かかり、その間はサイドバーなどで進捗や検索先が可視化されます

### 🔗 使うべきケース

適応シーン	理由
学術調査・企業レポート	多数の一次ソースを横断解析
購買比較(家電・自動車など)	性能・仕様を網羅的に比較
専門分野の深掘り	法律・医学・政策などの高度情報
大量文書の要約分析	PDFやデータ表すら読み込める

### ⚠ 制限・注意点

誤情報(虚偽情報)や信頼性の曖昧さ

情報源によっては誤りや信憑性の低い内容を参照することがあるため、後から自分でも必ず**検証**が必要です。

利用回数に上限あり

無料ユーザー: 軽量版 5回/月

Plus/Team/Edu/Enterprise: 標準版 10回+軽量版 15回/月

Proユーザー (US\$200/月): 標準版125回+軽量版125回/月

※標準版の上限を超えると自動的に軽量版へ切り替わります。

### 🔗 利用方法

チャット入力エリアで「Deep Research」モードを選択

調査テーマを入力(例:「競合分析」「論文レビュー」など)

必要に応じてAIが補足質問を行い、内容を厳密化

その後、5~30分程度で調査が行われ、最終的に構造化・引用付きのレポートが表示されます

### ✓ まとめ

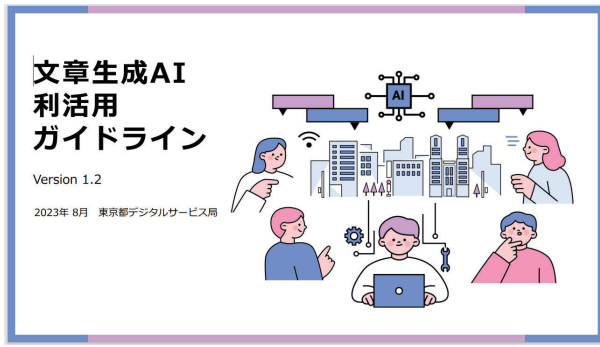
**Deep Research**は「専門調査をAIに丸投げ」できる強力なツールです。

深く信頼あるレポートを効率的に収集したい時に役立つ一方、

誤情報チェックや引用検証を自分で行う責任も伴います。

現行では、特に金融・学術・専門分野での活用に優れています。

# 【参考】東京都の「文章生成AI利活用ガイドライン」がとても分かりやすいです



**目次**

- はじめに ..... P. 2
- 1章 文章生成AIについて**
  - 1 文章生成AIの特徴 ..... P. 5
  - 2 文章生成AIの活用可能性とリスク ..... P. 6
  - 3 都の取組の方向性 ..... P. 7
- 2章 利用環境**
  - 1 都における利用環境 ..... P. 9
  - 2 利用環境のイメージと留意点 ..... P. 10
- 3章 利用上のルール**
  - 1 利用にあたっての約束事 ..... P. 12
  - 2 職務が守るべきルール ..... P. 13
- 4章 効果的な活用方法**
  - 1 文章生成AIの効果的な活用に向けて ..... P. 20
  - 2 有効な活用分野 ..... P. 21
  - 3 有効なプロンプトの方法 ..... P. 27
- 5章 今後の展望**
  - 1 発展を続ける生成AI ..... P. 39
  - 2 生成AIをめぐる動向 ..... P. 40
  - 3 今後の都の取組 ..... P. 41
- SPECIAL THANKS ! ..... P. 42

**付録**

- 職員AIエディソン
- 利用者アンケート
- 4章で使用したプロンプトと回答の全文

**事例① 文書作成（挨拶文）** Step1 Step2

**プロンプト例**

あなたは**東京都**の職員で、文章生成AIを職員に活用してもらうための**ガイドライン**を作っている**責任者**です。  
ガイドラインは以下の内容です。  
(省略)  
全職員向けに文章生成AIを活用して、もったいない**説明会を開きます**ので、**冒頭の挨拶文**を作ってください。  
※冒頭の簡易なため、1項目では文字数は指定しない

**回答**

皆様、こんにちは。  
**私たち東京都**では、新たな技術である文章生成AIを活用することで、業務の効率化や品質向上を図る取り組みを進めています。  
(中略)  
生成AIは、私たちの業務のあり方を大きく変革する可能性を秘していますが、同時に様々なリスクも指摘されています。そのため、正しく適切に活用し続けることが重要です。**私たちは、生成AIという新しい技術を上手に活用し、都政の品質向上につなげていくことを目指しています。**  
この説明会では、生成AIの特性や利用方法について詳しくご説明いたします。皆様には、ぜひこの機会を逃がさず、生成AIの活用について理解を深めたいと思います。(以下略)

**事例④ アイデア出し（企画提案）** 応用編

ChatGPTが学習した情報は日本語はるかに多いとされています。そのため、英語で質問することにより、英語圏の多様な考え方や情報をベースにした、視点の異なるアイデアを生成することができます。  
※英語で直接プロンプトを入力する場合は同じ効果が得られます

**立論、目的・利益を簡潔に説明**

あなたはデジタル人材として世界市場で活躍しています。

**英語で質問**

"You are actively working as a digital specialist around the world. Please research the best practices."

**英語で回答をもらう**

As an AI assistant, I can certainly help you with your request. Digitalization in governments worldwide has become increasingly important in recent years. It offers numerous benefits such as increased efficiency, transparency, and citizen engagement. To support the digitalization efforts of the metropolitan government...

**回答を日本語訳して回答を得る**

デジタル化には、業務の向上、透明性の確保、市民の参画促進など、多くの効果があります。都府県がデジタル化の取り組みを進めるにあたり、世界各国のベストプラクティスを学ぶことは重要となります。都府県がデジタル化を進める際の留意点は、データセキュリティ、プライバシー保護、デジタルリテラシーの向上、デジタルデバイドの解消に留意する必要があります。

1. デジタルトランスフォーメーションの推進: 事務効率の向上と市民サービスの向上を目的とするデジタルトランスフォーメーション戦略を推進します。この戦略では、データセキュリティ、プライバシー保護、デジタルリテラシーの向上、デジタルデバイドの解消に留意する必要があります。

2. デジタル人材の育成: 市民のデジタルリテラシーを向上させるために、簡単なデジタルスキルワークショップを開催します。ネットワークの確保は、データのセキュリティと信頼、市民参加の促進などの重要なデジタルリテラシー要素を学ぶべきです。

**日本語での生成と比較し、市民の参画や、インフラ整備などについて追加された。**

[https://www.digitalservice.metro.tokyo.lg.jp/ict/pdf/ai\\_guideline.pdf](https://www.digitalservice.metro.tokyo.lg.jp/ict/pdf/ai_guideline.pdf)

## （続き）「都職員のアイデアが詰まった文章生成AI活用事例集」 2024年1月30日

**都職員のアイデアが詰まった文章生成AI活用事例集**

2024年1月 東京都デジタルサービス局

**3-2 誤字脱字の修正をしよう①** (2ステップで回答)

**活用シーン** 議事録を文字起こしして作業したが、表記に誤りがあるので、誤字脱字の修正を行います。

**プロンプト**

あなたは、プロの編集者です。与えられた記事について、誤字・脱字及び読者の誤い目に気を付け、より正確な表現に修正してください。

**回答**

修正後の文章は、「各部署の業務を」と「全社展開するため」に修正。「デジタル化」を「デジタルトランスフォーメーション」に修正。「デジタル」を「デジタルトランスフォーメーション」に修正。「デジタル」を「デジタルトランスフォーメーション」に修正。「デジタル」を「デジタルトランスフォーメーション」に修正。

**ポイント**

- プロの編集者という条件を付すことで、回答の質を上げます。
- その旨を修正したかを確認することで、変更箇所をチェックすることができます。

**2-3 防災対応の事業継続計画書（BCP）を作成する**

**活用シーン** 災害などの緊急事態における事業継続計画（BCP：Business Continuity Planning）案を作成します。

**プロンプト**

あなたは防災担当です。風水害のBCPについて盛り込むべき要素を作成してください。

**回答**

風水害のBCPについて、経営をかけた事業が取るべき要素を作成いたします。以下は、発出前に必要な計画書の基本構成です。

**【目的】** 風水害発生時の対応計画

**【項目】**

1. 災害情報の収集と共有  
- 気象庁や地方自治体の発表を随時的にチェックし、最新の情報を収集する。  
- 従業員や関係者に対して、災害情報の共有手段を確立する（メール、SNS、電話など）。

2. 避難場所の確保と避難計画の策定  
- 避難場所として、近隣の公共施設や高台などの安全な場所を特定する。

以上が、経営をかけた事業が取るべき要素をまとめた行動計画になります。事業発生時に迅速かつ効果的な対応ができるよう、この計画書を参考にしてください。

**ポイント**

回答を参考に、計画書の作成に活用することができます。

**3-2 誤字脱字の修正をしよう①** (2ステップで回答)

**活用シーン** 議事録を文字起こしして作業したが、表記に誤りがあるので、誤字脱字の修正を行います。

**プロンプト**

あなたは、プロの編集者です。与えられた記事について、誤字・脱字及び読者の誤い目に気を付け、より正確な表現に修正してください。

**回答**

修正後の文章は、「各部署の業務を」と「全社展開するため」に修正。「デジタル化」を「デジタルトランスフォーメーション」に修正。「デジタル」を「デジタルトランスフォーメーション」に修正。「デジタル」を「デジタルトランスフォーメーション」に修正。「デジタル」を「デジタルトランスフォーメーション」に修正。

**ポイント**

- プロの編集者という条件を付すことで、回答の質を上げます。
- その旨を修正したかを確認することで、変更箇所をチェックすることができます。

**4-1 文章の要約をしよう** (5ステップで回答)

**活用シーン** やや長い文章をわかりやすく要約します。

**プロンプト**

以下の文章を要約してください。カタカナは難しい日本語に変換し、できるだけわかりやすい文章にしてください。

**回答**

政府は「デジタル社会の実現に向けた政府の取組方針」を発表しました。これは、みなさんにとって大切な社会を維持するための、国政府の大切な役割です。国政府は、デジタル社会の発展を推進するための、国政府の大切な役割です。国政府は、デジタル社会の発展を推進するための、国政府の大切な役割です。国政府は、デジタル社会の発展を推進するための、国政府の大切な役割です。

**ポイント**

プロンプトを繰り返し、半分程度に短くする指示を加えることで、最終回答として読みやすい要約が出力されます。

<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2024/01/30/22.html>

## 【参考】医師の原田洸先生がつくられた、「学会発表準備用プロンプト」

### #役割

あなたは、〇〇学会の権威のある教授で、学会の座長です。

### #命令書

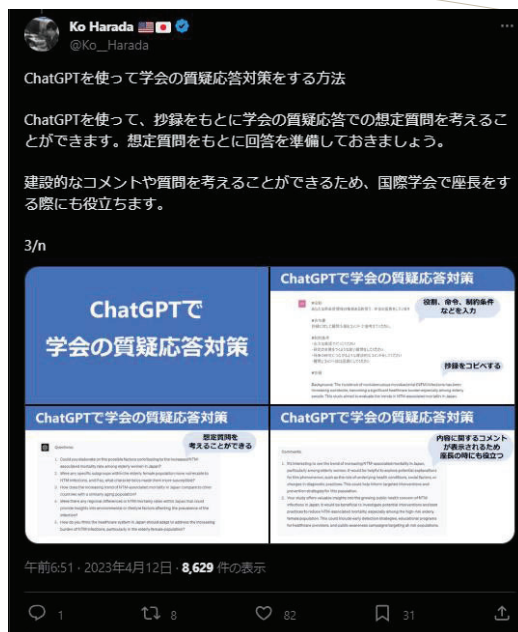
抄録に対して、質問5個と、コメント2個を考えてください。

### #制約条件・出力は日本語で行ってください

- ・研究の本質を突くような鋭い質問をしてください
- ・将来の研究につながるような建設的なコメントをしてください
- ・質問とコメントは口語調にしてください

### #抄録

(ここに抄録を貼る)



[https://x.com/Ko\\_Harada/status/1645907417853722624?s=20](https://x.com/Ko_Harada/status/1645907417853722624?s=20)

41

## 研修お疲れさまでした

本資料に関する、お問い合わせ先:

学校法人上智学院 IR推進室  
兼 情報システム室

相生 芳晴

yoshiharu\_aioi@sophia.ac.jp



## 令和7年度第2回全学FD2025 「授業設計ワークショップ」

日 時：令和7年10月31日（金）13:30～15:30

形 式：対面

場 所：五福キャンパス 共通教育棟 D21, D22 教室

対 象：本学教職員 及び 博士課程の学生

### ■開催趣旨

富山大学では昨年度、大学機関別認証評価を受審し、その際、シラバスに関するいくつかの指摘を受けました。指摘事項に対応するため、各部局にてシラバス内容の点検体制を再確認し、シラバス点検が不十分である場合はチェック体制を強化・徹底することとし、昨年度末には各部局内でシラバスチェックを実施しました。また、今年1月上旬には「シラバス作成に関するFD」を実施した他、シラバスの記載例を収集し、全学に共有しました。

一方、そこで行われた点検は主に書面としてのシラバスの書き方に留まっており、授業設計の観点から「どのように学修者本位の教育を展開するか」という議論には踏み込んでいませんでした。学生が何を身に付け、何ができるようになるかを明確にし、学生が成長実感できる「学修者本位の教育」を実現するためには、まず授業設計を適切に行うことが必要です。

本ワークショップでは、授業の到達目標、その評価方法、授業外学修課題、授業方法について、ご自身の授業に関する事前課題をもとに、講師からの情報と参加者間での意見交換から、良い点やさらに良くできる点を確認し、課題解決のヒントを得ることを目的としています。

### ■講師

榊原 暢久（芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター長、教授）

芝浦工業大学・教育イノベーション推進センターの教授として、高等教育の質向上と改善支援に取り組んでいる。芝浦工業大学教育イノベーション推進センターは文部科学省から「教育関係共同利用拠点」に認定されており、「大学の（教）職員の組織的な研修等の実施機関」に認定されている唯一の私立大学でもある。榊原教授は、この拠点で実施されるプログラム群の計画立案・構築・改善を10年にわたり先導し、芝浦工業大学の教育の質保証や学修成果の可視化に関するプロジェクトだけでなく、大学基準協会の機関別認証評価も担当している。

### ■到達目標

1. 基礎的な授業設計方法を説明できる
2. 自身の授業をふり返り、成果や課題、改善点を明らかにすることができる
3. 自身の授業の授業設計に関する課題解決のヒントを得て、改善に活かすことができる

## 第2回全学FD参加者数

「授業設計ワークショップ」

2025年10月31日（金）13：30～15：30

### ■当日参加者内訳

教員	23
人文科学系	0
教育学系	0
社会科学系	0
芸術文化学系	1
理学系	0
都市デザイン学系	0
工学系	3
医学系	4
薬学・和漢系	0
教養教育学系	12
教育研究推進系	2
国際機構	1

職員	1
----	---

学生	5
----	---

合計	29
----	----

### ■オンデマンド参加者内訳

教員	35
人文科学系	2
教育学系	5
社会科学系	0
芸術文化学系	0
理学系	1
都市デザイン学系	0
工学系	10
医学系	7
薬学・和漢系	1
教養教育学系	4
教育研究推進系	5

職員	0
----	---

合計	35
----	----



## 第2回全学FD アンケート結果のまとめ

### (1) 意見・ご感想

※Copilot を利用してアンケートの内容を整理・要約しました。

#### 全体的な評価

- ・非常に参考になったとの声が多く、講師や内容に対する満足度が高い。
- ・実践的なワークショップ形式が好評で、理解が深まったという意見が多数。

#### 授業設計・改善に関する学び

- ・シラバス作成のポイントや授業設計の基本を学べた。
- ・到達目標・評価方法・授業方法をセットで考える重要性が認識された。
- ・時間配分や集中力維持の工夫（例：20分ごとに形式を変える、問いかけを挟む）が必要との気づきがあった。

#### アクティブラーニング・評価手法

- ・ペアワークやグループワークの有効性を実感。  
ただし、ペアによる学びの差や人数設定への課題も考えられる。
- ・ルーブリック評価の共有やフィードバックの重要性が再確認された。
- ・Moodle など LMS の活用によるアクティブラーニング推進に関心が高まった。

#### 学習者視点の意識

- ・学生の集中力は8分程度という情報に驚き、授業改善の必要性を認識。
- ・学生の居場所や静かに考える時間の確保について懸念する声もあり。

#### その他の意見・改善点

- ・画像や映像の見やすさなど、運営面での改善要望あり。
- ・教員同士の情報共有の場としてFDが有意義との評価。
- ・教員の負担軽減策や授業外学修の工夫についても関心が高い。

### (2) 今後、全学FDで取り上げてほしいテーマ

#### 生成AI関連

- ・学生による生成AI利用への対策。
- ・講義や研究指導における生成AIとの付き合い方。
- ・ChatGPTなど生成AIを授業でどう活用・対応するか。
- ・高等教育や研究における生成AIの活用方法。

## 授業設計・実践

- ・具体的な科目を例にした授業設計の説明。
- ・ワークショップ型の実践的FD。
- ・アクティブラーニングの設計方法。
- ・実際にアクティブラーニングを取り入れている教員からの情報共有。

## ICT活用

- ・Moodleなどの学習管理システムを使った効果的な学習方法。
- ・高校生の学びの変化を踏まえた大学講義の対応。  
(情報処理やアクティブラーニング経験の把握)

## その他

- ・理系科目のシラバスや演習授業の書き方。
- ・最近の学生気質に関する情報。

# 授業設計WS

(富山大学令和7年度第2回全学FD、2025.10.31)

芝浦工業大学・教育イノベーション推進センター  
榊原暢久（ファカルティ・ディベロッパー、SDコーディネーター）

理工学教育共同利用拠点(教育イノベーション推進センター)

EDUCATIONAL CENTER FOR ENGINEERING AND SCIENCE (EDUCATIONAL INNOVATION CENTER)



芝浦工業大学  
SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

## WSの到達目標

1. 基礎的な授業設計方法を説明できる。
2. 自身の授業をふり返り、成果や課題、改善点を明らかにすることができる。
3. 自身の授業の授業設計に関する課題解決のヒントを得て、改善に活かすことことができる。



芝浦工業大学  
SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

# このWSの流れ

## 1. 背景

## 2. 到達目標と評価方法

– 到達目標をどのように評価・確認するのか!?

## 3. 評価方法と授業外学修課題

– 評価方法で測る能力を、どのような授業外学修課題で育成するのか!?

## 4. 評価方法と授業方法

– 評価方法で測る能力を、どのような授業方法で育成するのか!?

## 背景

2008年 中央教育審議会答申

高等教育のパラダイム転換

「何を教えたか」→「何を学んだか」

⇒明確かつ公平な評価基準の必要性

2012年 中央教育審議会答申

高等教育の質的転換

能動的な授業を中心とした教育の保証

知識重視から、汎用的能力育成も

⇒テストだけではない評価方法の必要性

2014～2019年度「大学教育再生加速プログラム」

⇒アクティブ・ラーニングの拡充、学修成果の可視化

2020年 中教審大学分科会「教学マネジメント指針」

# 「教学マネジメント指針」概要

予測困難な時代を生き抜く自律的な学修者を育成するためには、学修者本位の教育への転換が必要。そのため、教育組織としての大学が教学マネジメントという考え方を重視していく必要。

教学マネジメントとは

- 大学がその教育目的を達成するために行う管理運営であり、大学の内部保証(保証の確立にも密接に関わる重要な営みである。
- その確立に当たっては、教育活動に用いることができる学内の資源(人員や施設等)や学生の時間は有限であるという視点や、学修者本位の教育の実現のためには大学の時間構造を「供給者目線」から「学修者目線」へ転換するという視点が特に重視される。

教学マネジメント指針とは

- 学修者本位の教育の実現を図るための教育改善に取り組みつつ、社会に対する説明責任を果たしていく大学運営すなわち教学マネジメントがシステムとして確立した大学運営の在り方を示す。
- ただし、教学マネジメントは、各大学が自らの理念を踏まえ、その責任でそれぞれの実情に応じて構築すべきものであり、本指針は「マニュアル」ではない。
- 教育改善の取組が十分な成果に結びついていない大学等に対し、質保証の観点から確実に実施されることが必要と考えられる取組等を分かりやすく示し、その取組を促進することを主眼に置く。
- 本指針を参照することが最も強く望まれるのは、学長・副学長や学部長等である。また、実際に教育等に携わる教職員のほか、学生や学費負担者、入学希望者をはじめ、地域社会や産業界といった大学に関わる関係者にも理解されるよう作成されている。

学長のリーダーシップの下、学位プログラム毎に、以下のような教学マネジメントを確立することが求められる。

「大学全体レベル」

## 三つの方針

「卒業認定・学位授与の方針」(DP)、「教育課程編成・実施の方針」(CP)、「入学者受け入れの方針」(AP)

教学マネジメントの確立に当たって最も重要なものであり、学修者本位の教育の質の向上を図るための出発点

IV 教学マネジメントを支える基盤 (FD・SD、教学IR)

### I 「三つの方針」を通じた学修目標の具体化

- ✓ 学生の学修目標及び卒業生に最低限備わっている能力の保証として機能できるよう、DPを具体的にかつ明確に設定

### II 授業科目・教育課程の編成・実施

- ✓ 明確な到達目標を有する個々の授業科目が学位プログラムを支える構造となるよう、体系的・組織的に教育課程を編成
- ✓ 授業科目の過不足、各授業科目の相互関係、履修順序や履修要件について検証が必要
- ✓ 密度の高い主体的な学修を可能とする前提として、授業科目の精選・統合のみならず、同時に履修する授業科目数の絞り込みが求められる
- ✓ 学生・教員の共通理解の基盤や成務刊面の基盤として、シラバスには適切な項目を盛り込む必要

### III 学修成果・教育成果の把握・可視化

- ✓ 一人一人の学生が自らの学修成果を自覚し、エビデンスと共に説明できるようにするとともに、DPの見直しを含む教育改善にもつなげてゆかため、複数の評価を組み合わせて多角的に学修成果・教育成果を把握・可視化
- ✓ 大学教育の質保証の観点、学修成果・教育成果の把握・可視化の前提として成務刊面の信頼性を確保
- ✓ DPに沿った学修者本位の教育を提供するために必要な望ましい教職員像を定義
- ✓ 対象者の役割・経験に応じた適切なFD・SDを、教育改善活動としても位置付け、組織的かつ体系的に実施
- ✓ 教学マネジメントの基礎となる情報収集基盤である教学IRの学内理解や、必要な制度整備・人材育成を促進

### V 情報公表

- ✓ 各大学が学修者本位の観点から教育を充実する上で、学修成果・教育成果を自発的・積極的に公表していくことが必要
- ✓ 地域社会や産業界、大学進学者といった社会からの評価を通じた大学教育の質の向上を図る上でも情報公表は重要
- ✓ 積極的な説明責任を果たすことで、社会からの信頼と支援を得るといった好循環の形成が求められる

積極的な説明責任

社会からの信頼と支援

学位プログラムレベル

シラバス、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、ナンバリング、キャリア制、選修回数授業、アクティブ・ラーニング、主専攻・副専攻

「授業科目レベル」

ポートフォリオ、GPA、評価ボード

項目の例は別途整理

I～Vの取組を、大学全体、学位プログラム、授業科目のそれぞれのレベルで実施しつつ、全体として整合性を確保。

学位プログラム共通の考え方や尺度(アセスメントプラン)に則り、大学教育の成果を点検・評価



# 逆向き設計の重要性

建学の理念

大学全体の学位授与方針 (DP)

学部のDP

学科のDP

各科目の到達目標

入学者受け入れ方針 (AP)

カリキュラム編成方針 (CP)  
カリキュラムマップ、ツリー

アセスメントプラン  
(ポリシー)

シラバスの重要性



【参考】

科目概要

芝浦工業大学 / Introduction of Shibaura Institute of Technology

担当の概要

この科目では、大学の教育目標（卒業、職工が担う役割）による教育目標とシラバス、社会と企業との関わり、大学の歴史と未来、専門で得意とする生活技術と企業、大学の国際化と国際化の推進に関する事項、その他、卒業生および社会から大学の教育に果たす役割やシラバスなどを取り上げ、大学がこれらを通じて目指す未来を展望してまいります。このようにこの授業では、皆さんが卒業して社会に出ることで学ぶことに関心、学び意欲を高めるとして取り組んでまいります。

履修の目的

芝浦工業大学は、どんな企業でも、どんな組織でも、どんな大学として存在するのかが、卒業生がどんな思いで働く、何を学ぶかの学びを規定しているかの観点から評価されること、芝浦工業大学に対する関心や、この後の大学生活にどう活かせるかを学ぶことが目的です。

達成目標と学習・教育活動の関連

達成目標	電子情報システム学科	機械情報システム学科	建築システム学科	生命システム学科	国際システム学科
1. 大学の歴史について理解を深め、主体的に学ぶことができる。	A-2	A-2	A-2	A-2	A-2
2. 卒業後の職業や企業文化、専攻で得意な学問分野について理解を深める。	A-2	A-2	A-2	A-2	A-2
3. 社会で活躍する理工系人材と社会が求める能力を身に付け、大学で学ぶ意義や専攻としての生き残り方などについて理解を深め、主体的に学ぶことができる。	A-2	A-2	A-2	A-2	A-2

達成目標との関係・割合

	小テスト	HP	レポート	ポスター発表	合計
1.	24%	8%			32%
2.		12%	10%	5%	27%
3.		18%	12%	18%	43%
4.					0%
合計	24%	28%	22%	26%	-

履修で期待する学習

内容

担当の氏名

評価項目	評価内容の概要（学習および評価を含む）	達成率/評価
1. 序論	シラバスを読み、本科目の全体像を把握しておくこと。 ・試験の仕組み ・試験の進め方 ・レポートの書き方 など	20分
2. 芝浦工業大学の教育理念・ビジョン（序論）	芝浦工業大学の理念を学習しておくこと。 歴史シラバスを熟読する	40分 30分
3. 大学時代の教育理念・ビジョン（理工学専攻内訳）	芝浦工業大学の理念を学習しておくこと。 レポート作成準備	40分 160分
4. 卒業生によるフェースト実行計画、4年間のカリキュラムで学ぶ専攻・教育活動の概要	芝浦工業大学の理念を学習しておくこと。 レポート作成準備	40分 200分
5. 専攻で得意とするStudent Job、学生プロジェクト等	芝浦工業大学の理念を学習しておくこと。 レポート作成準備	40分 200分
6. 卒業生によるフェースト1編目、芝浦工業大学の歴史1 ・ 専攻から芝浦工業大学まで、レポート1編目提出	芝浦工業大学の理念を学習しておくこと。 レポート作成準備	40分 200分
7. 芝浦工業大学の歴史2 ・ 大規模なフェースト1編目提出 ・ 大学の発展・発展	芝浦工業大学の理念を学習しておくこと。 レポート作成準備	40分 80分
8. 卒業生によるフェースト2編目、グループによる発表準備	レポート作成準備	80分
9. 芝浦工業大学で学んだこと（社会で活躍する卒業生1） （質疑応答形式による） レポート2編目提出	レポート作成準備	80分 180分
10. 芝浦工業大学で学んだこと（社会で活躍する卒業生2） （質疑応答形式による）	ポスター発表	160分
11. 芝浦工業大学で学んだこと（社会で活躍する卒業生3） （質疑応答形式による）	ポスター発表	160分
12. 芝浦工業大学で学んだこと（社会で活躍する卒業生4） （質疑応答形式による）	ポスター発表	160分
13. 芝浦工業大学で学んだこと（社会で活躍する卒業生5） （質疑応答形式による） ポスター発表	ポスター発表	160分
14. ポスター発表	ポスター発表準備	160分
合計	-	2680分

評価方法と基準

期待するシラバスで期待する卒業生としての能力の達成条件を列挙した学生生活について、小テストの出席（2回以上）、高い出席率を確保し、毎回の小テスト（レポート）の割合（10%）とレポートの割合（10%）とポスター発表（10%）と合計（30%）以上を達成します。

評価基準は以下のとおりです。

- ・ 目標の達成に近づいてきている。目標（下欄）レベルに達している。・・・80%
- ・ 目標の達成に近づいてきている。目標（下欄）レベルに達している。・・・70%
- ・ 目標の達成に近づいてきている。目標（下欄）レベルに達している。・・・60%以上

試験・評価等のフィードバック

フィードバック方法

担当が Check2・メール等) でフィードバックを行います。

「その他」の具体的な内容

「芝浦工業大学シラバスガイド」<https://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/docs/syllabusguide.pdf> も参照



# ブルームの教育目標分類

(梶田叡一：「教育評価」(第2版補訂2版)、有斐閣、2013.)

6	評価		
5	統合	自然化	個性化
4	分析	分節化	組織化
3	応用	精密化	価値づけ
2	理解	巧妙化	反応
1	知識	模倣	受け入れ
	認知的領域（【知識】）	精神運動的領域（【技能】）	情意的領域（【態度】）

高次の学習目標を設定し、アクティブ・ラーニングを取り入れることで時間が限られる(?)なか、周到な授業設計は不可欠





# 認知的領域の目標水準 (中島(2016)より引用)

水準	定義	目標の例
1	知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>用語や事実についての知識を持っている。</li> <li>具体的なものを扱う方法や手段についての知識を持っている。</li> <li>原理や構造についての知識を持っている。</li> </ul>
2	理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容を別の言葉で正しく言い換えられる。</li> <li>学習内容同士の関係を説明したり要約できる。</li> <li>学習内容の条件を判別して、意味や結果を推論できる。</li> </ul>
3	応用	<ul style="list-style-type: none"> <li>抽象的な概念を新しい具体的な場面に適用できる。</li> </ul>
4	分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容に含まれる要素を見出して説明できる。</li> <li>学習内容の中に因果関係を見出したり、誤った推論を指摘できる。</li> <li>学習内容間を統一する原理やメカニズムを見出して説明できる。</li> </ul>
5	統合	<ul style="list-style-type: none"> <li>要素や部分をまとめて新しい構造やパターンを構成するように統合できる。</li> <li>異なる意見をまとめて解決策を示せる。</li> <li>手元のデータから仮説を立てられる。</li> <li>仮説を検証する手順や方法を提案できる。</li> </ul>
6	評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>一定の目的に対する、内容の正確さ、採用された方法の妥当性、論理の整合性・一貫性を評価できる。</li> </ul>

## 授業を成立させる4つの要素

1. 科目内容に関する知識
  2. 授業の設計
  3. 授業の運営
  4. 学生とのコミュニケーション
- ⇒ 3 & 4は技能・態度を含む

2は知識に関する要素が多く、

修得が比較的容易

# Instructional Design(ID)の目的

## 【教育効果を高める】

学生の学びが促進し、実力がつく

## 【教育効率を高める】

学生も教員も限られた時間を効率よく使う

## 【魅力を高める】

学びが継続する、教える事へのやりがい

## IDの第一段階

【出口】 授業の目的、**到達目標**

【入口】 前提条件

学科、学年、想定人数

必修or選択必修or選択

受講前提科目・条件、後続科目 等

# 評価方法（例）

種類	評価方法・種類
試験	中間・期末試験 小テスト 確認テスト 短答式テスト 多肢選択式テスト 論述式テスト Webテスト LMSを活用したテスト
レポート	演習問題レポート 調べ学習型レポート 論述式レポート 振り返りレポート
実演・成果物	口頭試問 面接 実践させる プレゼンテーション ディスカッション 模型の作成
その他	ノートチェック ミニツッパパー 振り返りシート ラーニングポートフォリオ 授業中の発言（回数・内容等）

## 評価の目的

評価は教員が学生の理解度を確認するだけでなく、次の機能がある。

- 学生自身が復習をし、授業で学んだことを整理する機会
- 学生が自分の理解度を確認するための機会
- 学生がさらに学ぶ機会を獲得する機会

評価は、学生がその結果をもとに行動を起こすために実施されるものであり、その後の学習を促進するために行われるもの。

(佐藤浩章編：「大学教員のための授業方法とデザイン」、玉川大学出版部、2010.)

# 評価の種類

## ◆ 診断的評価

学習指導を行う前に実施し、始動を行う前の時点での学習者の学力やレディネスを評価する。

## ◆ 形成的評価

学習指導の途中において実施し、それまでの指導内容を学習者がどの程度理解したかを評価する。

## ◆ 総括的評価

学習指導の終了後に行い、学習者が最終的にどの程度の学力を身につけたかを評価する。

(佐藤浩章編：「大学教員のための授業方法とデザイン」、玉川大学出版部、2010.)

# 評価の評価

## ◆ 信頼性

結果の再現性・テストの精度

## ◆ 妥当性

評価方法の適切性

## ◆ 効率性

評価の時間的、経済的な実用性

(栗田佳代子 他編：「インタラクティブ・ティーチング～アクティブ・ラーニングを促す授業づくり」、河合出版、2017. をもとに作成)

# 評価方法の特徴

評価方法・種類	主な活用目的	特徴・効果	課題・注意点	評価基準		
				模範解答	ルーブリック・チェックリスト	行動の有無
中間・期末テスト	総括			○		
小テスト	形成			○		
確認テスト	診断・形成			○	○	
短答式テスト	all	効率性(高)	信頼性・妥当性	○		
多肢選択式テスト	all	効率性(高)	信頼性・妥当性	○		
論述式テスト	all	総合力の測定	効率性・客観性	○	○	
Web・LMS活用テスト	診断・形成	効率性(高)	限られた能力の測定	○	○	
演習問題レポート	all	理解の測定	客観性・剽窃		○	
調べ学習レポート	形成・総括	理解の測定	客観性・剽窃		○	
論述式レポート	形成・総括	理解の測定	客観性・剽窃		○	
振り返りレポート	形成・総括	意欲の測定	客観性		○	
口頭試問	all	総合力の測定	負担(大)		○	○
面接	all	総合力の測定	負担(大)		○	
プレゼン・ディスカッション	形成・総括	総合力の測定	客観性・公平性		○	○
模型の作成	総括	総合力の測定	客観性		○	
ノートチェック	形成・総括	意欲の測定	妥当性		○	○
ミッツハール・振り返りシート	形成	意欲の測定	妥当性		○	○
授業中の発言	形成・総括	客観性(高)	妥当性			○

## 目標に対応した評価方法

	知識・理解	思考・判断	技能	関心・意欲	態度
客観テスト	◎	○			
論述テスト	○	◎			
レポート	○	◎	○	○	◎
観察法	○	○	◎	◎	○
口頭(面接)	◎	◎		◎	○
質問紙法				◎	○
実演		○	◎	○	○
ポートフォリオ			○	○	○

(中島英博 編著:「授業設計」、玉川大学出版部、2016.)



# レポートの学生チェックリスト

レポート提出前のチェックリスト  
これは、レポートの形式的な面について、提出前に自分でチェックすべき項目を集めたチェックリストである。大学1年生のレポートとして最低限守ってほしい項目のみを挙げた。もしも余裕があれば、教科書第17章のチェックリスト [1] も活用して、より良いレポートを仕上げよう。

**A 全体**

- A1 このチェックリストを使う前に、自分の書いたレポートを声に出して読みかえたか?
- A2 表紙 (or 1ページ目) に題名があるか? (講義名 & レポートの題名)
- A3 表紙 (or 1ページ目) に著者情報があるか? (所属、学籍番号、名前)
- A4 表紙 (or 1ページ目) に日付があるか? (レポートを書きあげた日の年月日 or 提出年月日)
- A5 すべてのページが順番通りにそろっているか?
- A6 すべてのページにページ番号があるか?
- A7 指定の用紙を使っているか? (指定がなければ、通常は A4 のレポート用紙を使う)
- A8 用紙の上下左右の端と行間に適当な余白があるか?  
採点者が採点結果やコメントを書き込むことができるように、用紙の端と行間には余白をとっておく。また、レポートはファイルに閉じて保存されるかもしれないので、用紙の左側は大きめに余白をとっておくこと。

**B 図表**

- B1 すべての図の下に図の説明文があるか? 説明文の始めに図番号があるか?
- B2 すべての図は本文中で引用されているか?  
図は挿絵ではなく、本文の説明を補うものである。本文で言及していない図が存在してはいけない。
- B3 図番号の順番は本文中に出てくる順番と一致しているか?
- B4 すべての表の上の表の説明文があるか? 説明文の始めに表番号があるか?
- B5 すべての表は本文中で引用されているか?  
表は図と同様に本文の説明を補うものである。本文で言及していない表が存在してはいけない。
- B6 表番号の順番は本文中に出てくる順番と一致しているか?
- B7 図の自身がグラフの場合
  - 7-1 縦軸と横軸にラベルがあるか? (物理量の場合、単位も忘れずに)
  - 7-2 縦軸と横軸に目盛りがあるか?
  - 7-3 縦軸と横軸の目盛りは正確か?
  - 7-4 複数の情報を載せたグラフの場合、グラフの見方は説明されているか?  
例えば、点と曲線は何を表すのか? 測定値と理論的に予想される値を比べて見せる場合、どれが測定値でどれが予想値なのか?

**C 数値 (物理量の測定値) や数式の扱い**

- C1 単位を忘れていないか?
- C2 数値の桁数は有効数字を反映しているか?  
例えば、 $a=10\text{ cm}$ ,  $b=10.0\text{ cm}$ ,  $c=10.2\text{ cm}$  という表現は、 $a$  は  $1\text{ cm}$  の桁まで、 $b$ ,  $c$  は  $1\text{ mm}$  の桁まで測定した (読み取った) という意味になる。また、 $a, b, c$  の平均値は、 $10.0666\text{ cm}$  や  $10.1\text{ cm}$  ではなく、 $10\text{ cm}$  となる。
- C3 すべての文字変数に定義されているか?  
変数を定義する方法: 通常、本文中に「 $g$  を重力加速度の大きさとすると...」「重力加速度の大きさ  $g$  は...」のように記す。このような記述があれば「 $g$ 」という文字は重力加速度の大きさと捉えてもらえない。

**D 文章**

- D1 誤字脱字はないか? 変換ミスは再確認か?
- D2 文体: 丁寧語が混ざっていないか?  
科学技術文書では、通常「...です/...ます」は使わず、「...だ/...である」の文体を使う。
- D3 主語と述語の対応がおかしい文はないか?
- D4 貴方の言いたいこと全てが、文章で表現できているか?  
図表と数式を無視して本文だけを讀んだときに、内容がおおよそわかるような書き方をすべし。

～さいごに～  
提出前にもう一度、自分のレポートを声に出して読み返そう。

**参考文献**

[1] 見延住士郎, 理系のためのレポート・論文完全ナビ, 講談社, 2008年, pp. 153-156.

(中井唱 他:「大学生の理系文章作成能力の現状と改善に向けた取り組み」、鳥取大学教育研究論集、2013.)



# テスト実施前の教師チェックリスト

- 事前に学生に予告した通りの形式になっているか
- 学生がコースで獲得した知識やスキルによって解答することが可能な問題になっているか
- 問題の分量は適切か
- 問題文の指示はあいまいでないか、誤解を招かないか、それぞれの問題の配点が明記されているか
- 解答欄のスペース配分は適切か
- 問題の難易度は適切に分布しているか
- やさしい問題から難しい問題へと配置されているか
- 問題自体が取り組む気持ちにさせる興味深いものになっているか
- 以下、計算問題の場合
  - 答えのきちんと出る数値が与えられているか
  - 要求される計算量は適切か
  - ある問題に正解しなければ他の問題に答えられないというような形式の問題があまりにも多く含まれていないか

(池田輝政 他:「成長するティップス先生 - 授業デザインのための秘訣集」、玉川大学出版部、2000.)



# 効果的なフィードバック

- フィードバックの的を絞る
- タイミングと頻度に気を配る
- 練習の機会と連動させる

栗田佳代子 他編：「インタラクティブ・ティーチング」、河合出版、2017.

## フィードバック方法の具体例

教員から 学生個々	確認結果を知らせる(・・・点、5段階評価、○△×、・・・)、 コメントをつける(詳細なコメント記入、チェックリストによる 提示、ルーブリック評価表による提示、・・・)、 授業内指導や質問対応(机間巡視、反転授業、ブレイク アウトセッション、・・・)、・・・
教員から 学生全体	模範解答の配布や説明、典型的な誤りの説明、 よくできている例の提示(昨年までの例、今回の例、・・・)、 授業内指導(反転授業、ブレイクアウトセッション、・・・)、 ルーブリック評価表の事前提示、・・・
学生間	レポートなどの提出前相互チェック、授業時間内の相談、 種々の協同学習(think-pair-share、教えあい、・・・)、 TA・SAからのコメント、・・・

LMS 総合授業1 課題(第2回予習課題)提出状況

課題メニュー

科目名  
01SU005440 線形代数第1

科目の概要情報/Subject  
Summary

課題  
提出状況確認

タイトル  
第2回予習課題

テスト  
内容  
下記の課題について、A4用紙1枚(ノート等でも可)に字番号と氏名とともに手書きで記入し、その写真ファイル名を500kb以下の画像とすること。  
- 2行2列の行列の逆行列を2つ上げ(求めよ)。A+B, 3A, A+Bを求めよ。  
- 2つの行列の積について調べ、その定義を説明せよ。  
- 3行3列の行列の逆行列を2つ上げ(求めよ)。CDを求めよ。

ループリク  
添付ファイル  
提出期間  
2020/05/15 22:00 ~ 2020/05/22 00:00

ディスカッション  
提出後の提出  
不可

アンケート  
評価の参照  
可

授業内容/教材  
レポートの提出参照  
不可

スキャン教材  
提出状況

第1回 (No. 1)  
第2回 (No. 2)  
第3回 (No. 3)  
第4回 (No. 4)  
第5回 (No. 5)  
第6回 (No. 6)  
第7回 (No. 7)  
第8回 (No. 8)  
第9回 (No. 9)  
第10回 (No. 10)  
第11回 (No. 11)  
第12回 (No. 12)

レポート名選択  
 画像添付ファイル名  実ファイル名

一括操作 (選択項目)  
一括ダウンロード

コメントと評価  
 選択されていません  フォーマットダウンロード

コメントと評価およびフィードバックファイル(20ファイル)  
 選択されていません

学生氏名 氏名	成績物 学生コメント	提出日 作成時間	評価	コメント	備考
	4	2020/05/21 21:06		0です。 「2行2列の行列の逆行列におけるA+B, 3A, A+B」、「2つの行列の積の定義」、「3行3列の行列の逆行列におけるCD」、いずれも書かれていません。	備考
	0	2020/05/21 10:23		条件付きです。 「2つの行列の積の定義」が書かれていません。	備考
	1	2020/05/21 17:16		条件付きです。 「2つの行列の積」の一般的な定義が書かれていません。	備考

https://comb.shibaura-it.ac.jp/portal/contents/lms/report\_management?actorid=reportManagement&amp;instituteid=2020015U0054401001&amp;rep... 1/5

# LMSの有効活用

【予習課題への  
フィードバック】  
LMSで、○△×評  
価と不足する点を  
個別に指摘

LMS 総合授業1 課題(第2回総括テスト)提出状況

課題メニュー

科目名  
01SU002657 微分積分第1

科目の概要情報/Subject  
Summary

課題  
提出状況確認

タイトル  
第2回総括テスト

テスト  
内容  
授業終了5分後が提出期間です。

ループリク  
添付ファイル

ディスカッション  
提出期間  
2020/05/15 12:00 ~ 2020/05/15 12:35

アンケート  
提出後の提出  
不可

授業内容/教材  
評価の参照  
可

スキャン教材  
レポートの提出参照  
不可

第1回 (No. 1)  
第2回 (No. 2)  
第3回 (No. 3)  
第4回 (No. 4)  
第5回 (No. 5)  
第6回 (No. 6)  
第7回 (No. 7)  
第8回 (No. 8)  
第9回 (No. 9)  
第10回 (No. 10)  
第11回 (No. 11)  
第12回 (No. 12)  
第13回 (No. 13)  
第14回 (No. 14)  
第15回 (No. 15)  
第16回 (No. 16)  
第17回 (No. 17)  
第18回 (No. 18)  
第19回 (No. 19)  
第20回 (No. 20)  
第21回 (No. 21)  
第22回 (No. 22)  
第23回 (No. 23)  
第24回 (No. 24)

レポート名選択  
 画像添付ファイル名  実ファイル名

一括操作 (選択項目)  
一括ダウンロード

コメントと評価  
 選択されていません  フォーマットダウンロード

コメントと評価およびフィードバックファイル(20ファイル)  
 選択されていません

学生氏名 氏名	成績物 学生コメント	提出日 作成時間	評価	コメント	備考
	4	2020/05/15 12:20		3点です。 (3)の範囲に番号はつきません。(4)の範囲が狭いです。	備考
	30分				
	4	2020/05/15 12:28		4点です。 (3)の範囲に番号はつきません。	備考
	25分				
	4	2020/05/15 12:14		4点です。 解答されたものでも(1)の欄が狭いです。	備考
	10分				
	5点です。 誤りではありませんが、(4)の範囲の一部分が範囲外になっており、提出はしてよろしく、再入力してください。	2020/05/15 12:21			備考
	15分				
	4点です。 (3)の範囲に番号はつきません。誤りではありませんが、(4)の範囲の一部分が範囲外になっており、提出はしてよろしく、再入力してください。	2020/05/15 12:21			備考
	15分				

https://comb.shibaura-it.ac.jp/portal/contents/lms/report\_management?actorid=reportManagement&amp;instituteid=2020015U0026571001&amp;rep... 1/5

# LMSの有効活用

【小テストへのフィード  
バック】  
模範解答を配布、  
LMSで、点数と誤り  
の要点を個別に指  
摘

## 芝浦工業大学通論 (大4) 1回目 MP

文字数いづれもほぼ問題なし、要点で1点、印象に残ったことで0.5点

要点: わかりやすさ・日本語の正確性 高評価1点 中評価0.5点 低評価0点  
印象に残ったこと: わかりやすさ・日本語の正確性 高評価0.5点 中評価0.25点 低評価0点  
以上の合計点数を四捨五入、今回の前回は成績に算入されません。

g\*\*\*\*27 2点

・ポスター制作は、授業七回目で4、5人の班で相談をし、以降は授業外で進めていく。12回目「ボスターアップ形式」で、先生及び履修者全員に発表する。  
・技術者は、コミュニケーション能力を必要とする仕事をやる傾向にある。この授業は、そのコミュニケーション能力を身に付けること目的である。

A\*\*\*\*11 2点

・scot(先生から見た教員の授業と報告書にまとめた授業改善(サブ)による)の意義、mpの目的と評価基準レポートの仕組みなど  
・scotについての主な活動については把握し、興味があった。今の社会で求められる力「学士力」をmpやグループワークなどで養っていくことは大切だと思った。

g\*\*\*\*15 3点

・芝浦工業大学通論は、芝浦工業大学の歴史や教育理念などを知り、学生生活を意義あるものにする事を目的とした授業である。  
・様々な仕事のアンケートの上位に文章作成があった事が気になった。文章作成の技術はどんな場面でも使うと思われるため、文章作成能力を向上させたい。

g\*\*\*\*30 2点

・授業ガイドラインを参照し、単位取得の条件を先生がパワーポイントを使って説明された。また別の評価の基準も伝わった。  
・ブレイクアウトセッションでグループが同じになった受講生の学部学科が全員違ってたのが印象に残った。また、学長と直接話せる機会があることも印象に残った。

g\*\*\*\*02 3点

・この授業は芝浦工大の生徒としての自分を見つめ直すためにもうけられている。この授業では文章を作成したり、コミュニケーションをとる能力の訓練も行う。  
・受講者全員からの質問を募集し、それに答える形式で授業を行ったことが印象に残った。先生の説明だけでは不明瞭なところがあったが、これにより解消された。

g\*\*\*\*11 3点

・この授業の目的は、大学の歴史や卒業生が本学での学びをどう捉えているか等を知り、この後の大学生活をより意義のあるものにする事である。  
・エンジニアの様々な仕事内容のなかで報告書など文章の作成が多く含まれることは共通出来ることです。この授業を通して自分の能力を改善していきたいです。

g\*\*\*\*72 2点

・大学の歴史や卒業生、校長先生などから話を聞きます。そして、私たちがその内容をまとめ、報告書の作成を行います。そうして私たちの能力が向上します。  
・印象に残ったことは、エンジニアなどの多くの人がパワーポイントの資料作りや会議、営業などの対人文章作成に苦手を覚えていることです。

g\*\*\*\*12 2点

(いづれも文字数不足: 要点0.5点、印象0.25点)  
・将来、エンジニアなどの仕事を行う際にも文章の作成は必須であり、そのほかにもプレゼンなどが必要である。  
・ポスター作成で他の人とグループを組むことと毎回のMPの点数の高さが印象に残りました。

# LMSの有効活用

【ミニツツペーパーへのフィードバック】  
ループブック評価表を事前に配布、  
全員のミニツツペーパー記述と採点を学生番号を伏せてLMSで配布



2020/5/16

履修者レポート課題提出状況

課題	タイトル	第1回レポート課題
レポート		【課題】2回目までで終った報告書は、授業で配布されているこの定規での自分の学びについて振り返ること、今後、自分の学びをどのようにしていくのか、今学期の興味保持プロジェクト(自分だけがやること/話し合えること)を述べよ。 (レポート形式)
ループブック		ループブックは、Scormで配布するWORDファイルの形式です。ファイル名の字種と名前を必ず変更してください。
ディスカッション		・A4用紙1枚、縦向き、標準字、横組み、1行40字×30行以上35行以下、文字サイズは10号、黒のワフワフ紙を背景に指定された文字数が正確、黒のワフワフ紙が必要ならばページ目におくこと。
アンケート	内容	
授業内容/資料		【レポートの提出期間】6月8日(内)午後5時
スキャン資料		【提出するファイル】レポートのWORDファイルとScormから提出すること、お気をつけ。
第1回 (No. 1)	添付ファイル	AA000000(芝浦工大)芝浦工業大学第1回レポート.docx
第2回 (No. 2)	提出開始	2020/05/18 15:00 ~ 2020/06/08 18:00
第3回 (No. 3)	期限後の提出	可
第4回 (No. 4)	評価の参照	可
第5回 (No. 5)	レポートの提出参照	不可
第6回 (No. 6)	提出状況	
第7回 (No. 7)	レポート名選択	<input checked="" type="radio"/> 発表済みのファイル名 <input type="radio"/> ファイル名
第8回 (No. 8)	一括操作 (選択項目)	一括ダウンロード
第9回 (No. 9)	お知らせ機能	コメントを投稿 <input type="button" value="ファイルを選択"/> 選択されていません <input type="button" value="アップロード"/> フォーマットダウンロード
第10回 (No. 10)	通知機能	<input type="button" value="ファイルを選択"/> 選択されていません <input type="button" value="アップロード"/> zfpフォーマットダウンロード
第11回 (No. 11)	科目修習評価	
第12回 (No. 12)	ユーザーグループ管理	

学生番号 匿名	成績 学生コメント	提出日 初回提出	評価	コメント	備考
		2020/06/08 09:52			
		2020/06/27 20:39*	5点	内訳は、ループブック評価表の丸1から丸2に3点、1点、1点、1点、1点、1点です。	■
	150件				
		2020/06/08 00:27	6点	内訳は、ループブック評価表の丸1から丸2に3点、1点、1点、1点、1点、1点です。	■

https://scom.shibaura-it.ac.jp/portals/contents/lms/report\_management?act=reportManagement&intid=number-202001SU0034351001&repor... 1/5

# LMSの有効活用

【レポートへのフィードバック】  
ループブック評価表を事前に配布、  
LMSで、総点と各評価観点ごとの点数を個別に指摘





# ルーズブリックの例 (レポート評価)

【芝浦工業大学通論1回目レポート課題・ルーズブリック評価表】(10点満点)

学長、2 研究科長、3 学部長の話と関連させ、芝浦工業大学におけるこれまでの自らの学びについて振り返るとともに、今後、自らの学びをどのようにしていくのか、今学期の具体的なアクション・プラン(自分がすべきこと)を成し得ることを述べよ。

	高評価	中評価	低評価
自らの学びについての振り返り	学長らの話と関連させ、芝浦工業大学におけるこれまでの自らの学びについて深く振り返っている(3点)	学長らの話と関連させ、芝浦工業大学におけるこれまでの自らの学びについて振り返っているが、振り返りが浅い(2点)	芝浦工業大学におけるこれまでの自らの学びについての振り返りが無い(0点)
アクションプランの具体性/実現性	自らの学びに関する今学期のアクションプランまで示されており、具体性/実現性がある(2点)	自らの学びに関する今学期のアクションプランが曖昧で、具体性/実現性が十分でない(1点)	自らの学びに関する今学期のアクションプランが示されていない(0点)
展開の論理性	学長らの話とこれまでの自らの学びの振り返り、アクションプランとの関連の論理展開が合理的である(2点)	学長らの話とこれまでの自らの学びの振り返り、アクションプランとの関連の論理展開が、合理的でない部分がある(1点)	学長らの話とこれまでの自らの学びの振り返り、アクションプランとの関連の論理展開が合理的でない。あるいは、振り返り/アクションプランのいずれかが示されていない(0点)
日本語や文章の完成度	日本語や文章の書き方に誤りがない(2点)	日本語や文章の書き方に若干の誤りがある(1点)	日本語や文章の書き方に誤りが目立つ(0点)
文章の分量	5項目ともに、指定された文字数の範囲で書かれている(1点)	4項目が指定された文字数の範囲で書かれている(0点)	指定された文字数の範囲で書かれているのが3項目以下である(マイナス1点)
レポートの形式	レポートの形式(配布されたファイルに従い、1行40字、A4用紙1枚、縦長使用、横書き、表面のみ、文字サイズ12pt、表やグラフ等は裏面)が指定された形式を守っている(減点なし)		レポートの形式が指定された形式を守っていない(マイナス1点)

【注1】 左の各項目ごとに自己評価し、あてはまる部分に黒ペンで丸印をつけること

【注2】 左の各項目が評価基準なので、各項目が高評価になるようにレポートを作成すること

【注3】 左の自己評価点の合計・学生番号・名前を、下に忘れずに記入すること

【注4】 この評価表もレポートとともに、**ホッチキス止め等せず**2枚重ねて、必ず提出すること(この評価表を添付しない場合にはマイナス1点)

自己評価点合計

学生番号

名前

評価点数



# ルーズブリックの例 (ミニツツペーパー評価)

MP ( ) 回目 (火4, 木4 (どちらかにO)) 学生番号

名前

① 講師が述べた講義の要点を2つ、各々51字以上75字以下の文章で明確に書きなさい。採点は以下の基準でします。

	高評価 (0.5点)	中評価 (0.25点)	低評価 (0点)
講義の要点の項目数と文字数	講義の要点が2つ、各々51字以上75字以下で書かれている	要点の一方(上・下)が文字数不足(26字以上50字以下)	2つの要点ともに50字以下、あるいは一方が25字以下かつ75字以上
講義の要点の正確性	要点としておげた内容が、講師が述べたことである	要点としておげた内容が、講師が述べたことと一部一致しない	要点としておげた内容が、講師が述べたことと一致しない
講義の要点の説明のわかりやすさ	要点についての説明がわかりやすい	要点についての説明にわかりにくい部分がある	要点についての説明がとてわかりにくい
文章の正確性	誤字・脱字がなく、日本語が正しく使われている	誤字・脱字や日本語の誤りが1~2か所ある	誤字・脱字や日本語の誤りが目立つ



② 講義の中で印象に残ったことを、51字以上75字以下の文章で明確に書きなさい。採点は以下の基準でします。

	高評価 (0.5点)	中評価 (0.25点)	低評価 (0点)
印象に残ったことの文字数	印象に残ったことが、51字以上75字以下で書かれている	印象に残ったことが、26字以上50字以下で書かれている	印象に残ったことが、25字以下かつ75字以上で書かれている
文章の正確性とわかりやすさ	誤字・脱字がなく、わかりやすい日本語で書かれている	誤字・脱字や日本語のわかりにくい箇所が1~2か所ある	誤字・脱字や日本語のわかりにくさが目立つ






# ルーブリック評価（実験レポート）

## 実験室で行う科学実験用のルーブリック

課題の指示：以下のルーブリックに示されている手順・方法により、指示された実験を行い、実験レポートを次回の授業開始時に提出すること。

	模範的	有能	努力を期待
材料・器具	必要な物品がすべてそろっており、それらが漏れなく実験レポートに記録された。用意された物品は実験で使用するのに適切なものである。学生は物品を無駄に使用することはなかった。	必要な物品はすべてそろっていたが、実験レポートに記録されていない品目がある。あるいは一部の物品が用意されておらず、実験中に調達した。用意された物品は実験で使用するのに適切なものである。	必要な物品の一部が準備されていなかったり、実験レポートへの記載漏れがあったりした。用意された物品は実験で使用するのに適切とはいえない。あるいは重大な欠落がある。
実験手順	実験手順はよく練られたもので、選択されたすべての変数について対照実験を行った。実験手順のすべての段階が実験レポートに記載されている。	実験手順には改善の余地があるが、選択されたすべての変数について対照実験を行った。実験手順のほとんどの段階が実験レポートに記載されている。	実験手順は、選択されたすべての変数につき、対照実験を行うものではない。実験手順のうち、多くの段階が実験レポートに記載されていない。
礼儀・安全	学生は整然と実験を進行し、周囲への気配りを怠らなかった。安全にも配慮し、後片付けや清掃をしっかりと行った。	学生は概して整然と実験を進行した。十分にないせよ、周囲への気配りや安全への配慮があった。指摘を受けると、後片付けや清掃をしっかりと行った。	学生は雑然と実験を行い、周囲への気配りや安全への配慮がなかった。後片付けや清掃は指摘されても十分に行わなかった。
実験目的	研究課題と仮説が明確に述べられ、両者の関係が明白である。変数が選択されている。	研究課題と仮説が述べられているが、そのいずれかまたは両方が不明確である。あるいは両者の関係が不明確である。変数が選択されている。	研究課題と仮説が明確に述べられていない。両者の関係は不明確または欠如している。変数が選択されていない。
データ収集	未加工データが単位とともに適切な方法で明確に記録されている。データ表には表題が付けられている。	未加工データが単位とともに記録されているが、適切さや明確さに問題がある。データ表には表題が付けられている。	単位を含め、未加工データの記録は不適切あるいは不明確である。データ表には表題が付けられていない。
データ分析	データは図表やグラフ等で提示され、理解や解釈が容易になるよう工夫されていた。エラー分析がなされている。	データは図表やグラフ等で提示された。その理解や解釈は可能であったが改善の余地がある。エラー分析がなされている。	図表やグラフ等によるデータの提示は非常に不明確であった。エラー分析はなされていない。
実験の評価	実験結果は完璧に分析・解釈され、文献値とも照合されている。この方法による限界や弱点が考察され、改良方法について提案がなされている。	実験結果は分析・解釈され、文献値とも照合されているが、改善の余地がある。この方法による限界や弱点が考察されているものの、改良方法について提案はほとんどあるいは全くない。	実験結果の論理的な分析・解釈が行われていない。あるいは文献値と照合されていない。この方法による限界や弱点の考察はなく、改良方法についても何ら提案されていない。

図表8.2 実験室で行う科学実験用のルーブリック

(佐藤浩章監訳：「大学教員のためのルーブリック評価入門」、玉川大学出版部、2010.)



## 「学習評価ハンドブック アクティブラーニングを促す 50の技法」

E.F.バークレイ & C.H.メジャー 著  
東京大学教養教育高度化機構アクティ  
ブラーニング部門・吉田 壘 監訳、東京  
大学出版会、2020.



# 授業外学修課題の具体例

## 【授業内外での確認】

LMS等でのクイズ、Zoom等での投票・チャット、・・・

## 【知識注入・再生（予復習）】

演習問題、WEB課題、動画視聴、CBT、・・・

## 【知識（発展・統合）】

課題レポート、問題作成レポート、  
コンセプトマップ作成、プログラム作成、  
ポスター作成、動画作成、・・・

## 【学習記録・振り返り】

ラーニングポートフォリオ、ミニツツペーパー、・・・

# 授業外学修課題の性格

## (1) 予習、復習を目的とする課題

⇒ 実行を担保する仕掛けが必要

## (2) 学生の選択の有無

⇒ 意欲向上には良いが、選択肢が  
広がるほどフィードバックに時間  
を要する

## (3) 対象学生の選定

## (4) 個別学習か共同学習か

# CBT (Computer Based Testing)

(あくまで私の場合ですが・・・)

- LMSに蓄積した問題群からランダム出題
- 授業内でLMSを用いて実施
- LMSで受験時間設定
- 時間内であれば何度でも受験可能
- 何を参照しても構わない
- 自動採点

## 問題作成レポートの例

シラバスにある「到達目標 (期末準備テスト・期末試験)」の(4)~(6)について問う問題を作り、問題とその解答を書け。ただし、それぞれの指定された条件を満たし、講義および演習の模範解答や、教科書の例題・章末問題と同じ問題ではいけない (作成した後に必ずチェックすること)。

到達目標 (4) について問う問題 (3点) と解答 (7点)

(条件1) ライブニッツの公式を用いた、 $n$ 階導関数を求める問題であること。ただし、 $n$ は3以上としてよい。

(条件2) 微分する関数の中に、三角関数が必ず含まれていること

(条件3) 微分した結果、項が3つになる問題であること

到達目標 (5) について問う問題 (3点) と解答 (7点)

(条件1) マクローリンの定理を、任意の  $n$  で適用する問題であること。ただし、 $n$ は自然数としてよい。

(条件2) 適用する関数に対数関数が含まれていること。ただし、 $\log(1+x)$  の定数倍や定数和に関する問題ではないこと。

(条件3) 近似値や誤差評価は含まなくてよい。

到達目標 (6) について問う問題 (3点) と解答 (7点)

(条件1) (無限次の) マクローリン展開を求める問題であること。

(条件2) 適用する関数に指数関数が含まれていること。ただし、 $\exp(ax)$  の定数倍や定数和に関する問題ではないこと。

# コンセプトマップの例



## ラーニング・ポートフォリオ

### 【本体】

毎週の予習課題とまとめ、授業に関する振り返り、  
コンセプトマップ、自己評価表

### 【添付資料】

授業内で配布した資料すべて

(シラバス、採点済み答案、模範解答など)

\* 個人ごとのバインダーを用意

\* 提出遅れがあると、その積算で減点率が上がる

\* LMSで提出・管理すると容易



# 授業の構成

ガニエの9教授事象	
9つの働きかけ	例：算数「長方形の面積」の場合
導入 { 1、学習者の注意を喚起する	たてと横のサイズがちがう2冊の漫画本をみせてどちらが大きいかと問いかける。
展開 { 2、授業の目標を知らせる 3、前提条件を思い出させる 4、新しい事項を提示する	どちらの本も長方形であることに気づかせて、長方形の面積を計算する方法が今日の課題であることを知らせる。
	長方形の相対する辺が平行で、角が直角であることを確認する。また、前の時間に習った正方形の面積の計算を思い出させる。
	長方形の面積の公式（面積＝たて×横）を提示し、この公式をいくつかの例に適用してみせる。
展開 { 5、学習の指針を与える 6、練習の機会をつくる	正方形の面積の公式と長方形の場合とを比較させ、どこが違うのかを考えさせる。同じ所、違う所に着目させ公式の適用を促す。
	これまでの例で使わなかった数字を用いて、たてと横の長さの違う長方形の面積をいくつか自分で計算させる。
まとめ { 7、フィードバックを与える 8、学習の成果を評価する 9、保持と転移を高める	正しい答えを板書きし、答えを確認させる。間違えた児童には、あやまりの種類に応じてなぜ違ったのかを指摘する。
	簡単なテストで学習の達成度を調べて、できていない児童には手当てをすると共に次の時間の授業の参考にする。
	忘れたと思われる頃にもう一度長方形の面積の出し方を確認する。また、平行四辺形や台形の面積の出し方を考えさせる。

熊本大学・鈴木克明教授 HPより <http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/ksuzuki/resume/9events/9events.html>

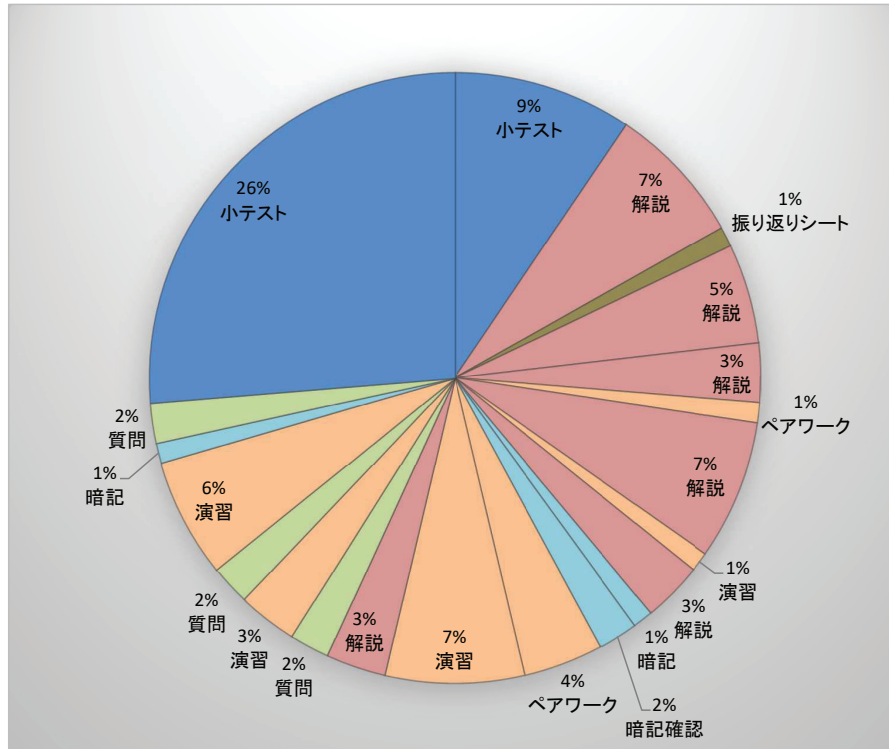
注意、あくまでガイドラインであり、1回ごとにこの順序で進められる必要はないし、すべての項目を入れる必要もない

## 90 / 20 / 8 の法則

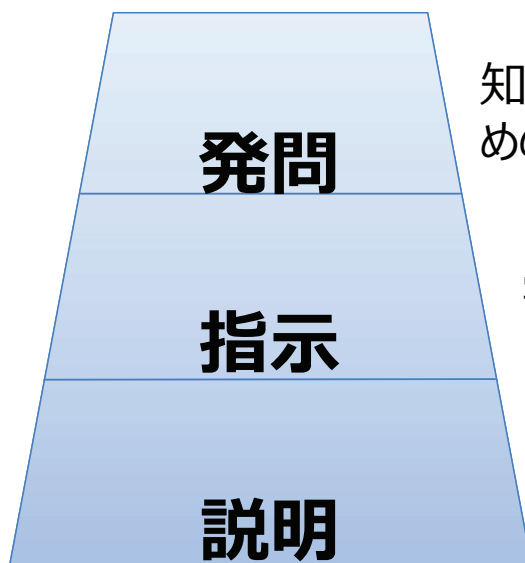
- ・脳が集中をキープできるのは**90分**まで
- ・記憶を保持しながら聞くことができるのは**20分**まで ⇒**20分**ごとに内容や形式等を変える
- ・人間の脳は受け身な状態が**10分以上**続けると興味を失い始める  
⇒**8分**ごと、学生に参画させる

(中村文子・R.バイク：「研修デザインハンドブック」、日本能率協会マネジメントセンター、2018。)

# 授業の時間配分例



# 発問・指示・説明



知識を確かめたり、思考を促したりするための問いかけ

学生にしてほしい行動を伝える

学習内容を学生に伝える



# (参考) 授業方法の具体例

## 【形態】

講義法、授業内演習、質疑応答、学生間での教え合い、ペアインストラクション、反転学習、...

## 【ツール】

穴埋めプリント、クリッカー、ミニツツペーパー (MP)、ビデオ・DVD、...

## 【フィードバック】

テスト等の返却、模範解答配布、MPへの回答、...

## 【興味・動機づけ】

他科目とのつながりの説明、イベント紹介、外部講師、研究室訪問、工場等の見学、フィールドワーク、...

## 【準備・環境】

詳細シラバス、HPでの講義資料・課題等の提示、授業の雰囲気づくり (笑顔、挨拶、...)、学習サポート室の利用促進、...

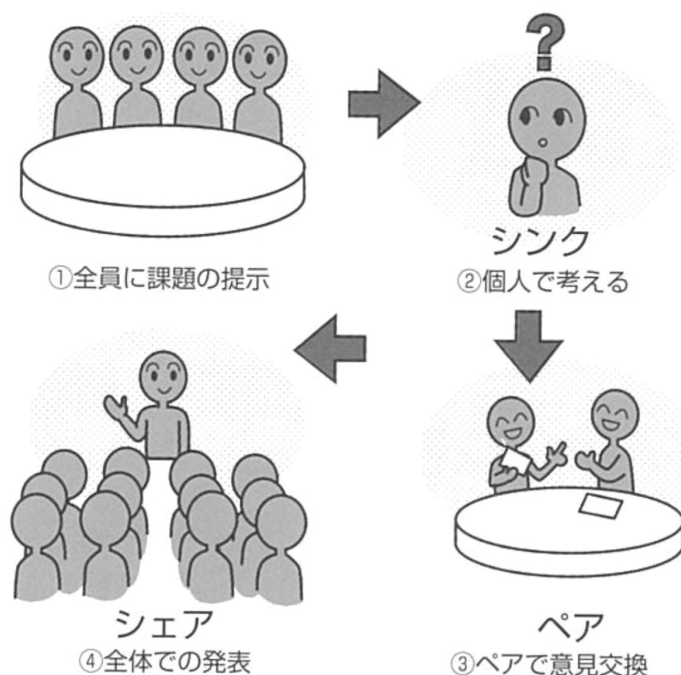
## 【学生対応】

中間アンケート、質問対応 (メール、授業前後)、...

## 【協同学習の技法】

シンクペアシェア、ジグソー、ブレインストーミング、KJ法、ポスターセッション、...

## 【使いやすい手法: Think-pair-share】



## 【使いやすい手法：peer instruction】

問題と回答の選択肢(4～5択)を提示。

学生が個人で回答を考えた後、2～4人でその理由を議論する。

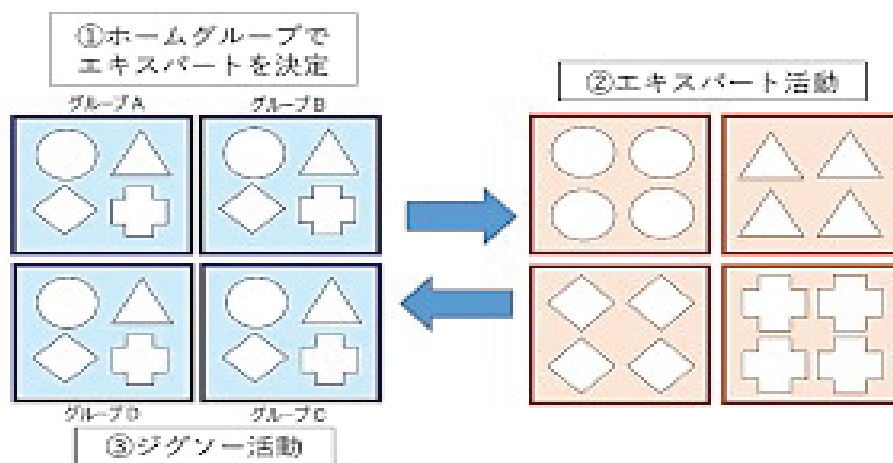
最後にもう一度回答をし、教員が正答と解説を行う。クリッカーや選択肢カードを使う方法もある。

## 【使いやすい手法：教え合い】

その回の授業で学ぶ内容の中でコアとなる典型的な例題や概念について、ペアで教え合う。

## 【使いやすい手法:ジグソー】

はじめに「専門家チーム」であるテーマについて議論し、その後に「ジグソーチーム」の各自が「専門家チーム」の学習内容を紹介して、全体の学びを目指す。



## MPとその回答、詳細シラバス

【MP】（多様な実施形態あり）

例えば・・・毎回or複数回実施、記名or無記名、

授業の感想or質問、全員or希望者のみ提出 等々

【MPへの回答】（多様な呼称・実施形態あり）

例えば・・・口頭or印刷物orLMSで回答、

全てor一部のみ回答、教員or受講者が回答 等々

【詳細シラバス】（多様な使用形態あり）

例えば・・・1回目の授業で説明orALで学ぶ（環境作り）、

試験日程や宿題の事前提示による授業外学修の促進、

救済レポートや成績表による学びの自己管理 等々

# 参考資料

- ◆ 池田輝政 他：「成長するティップス先生－授業デザインのための秘訣集」、玉川大学出版部、2000.
- ◆ 稲垣忠・鈴木克明 編：「授業設計マニュアル」、北大路出版、2011.
- ◆ 梶田叡一：「教育評価」（第2版補訂2版）、有斐閣、2013.
- ◆ R.M.ガニエ 他著、鈴木克明・岩崎信 監訳：「インストラクショナルデザインの原理」、北大路出版、2007.
- ◆ 栗田佳代子 他編：「インタラクティブ・ティーチング～アクティブ・ラーニングを促す授業づくり」、河合出版、2017.
- ◆ 佐藤浩章 編：「大学教員のための授業方法とデザイン」、玉川大学出版部、2010.
- ◆ 佐藤浩章 編著：「講義法」、玉川大学出版部、2017.
- ◆ D.スティーブンス・A.レビ著、佐藤浩章 他訳：「大学教員のためのルーブリック評価入門」、玉川大学出版部、2014.
- ◆ 大学教員のためのFD研修会 ワークショップ資料、日本教育工学会FD特別委員会、2013.
- ◆ 田中耕治 編：「よくわかる教育評価（第2版）」、ミネルヴァ書房、2010.
- ◆ B.G.デイビス 著、香取草之助 監訳：「授業の道具箱」、東海大学出版会、2002.
- ◆ B.G.デイビス・L.ウッド・R.ウィルソン 著、香取草之助 監訳：「授業をどうする！」、東海大学出版会、1995.
- ◆ 中井 唱・星 健夫・吉本芳英：「大学生の理系文章作成能力の現状と改善に向けた取り組み」、鳥取大学教育研究論集,3,77-82,2013.
- ◆ 中井俊樹 編著：「アクティブラーニング」、玉川大学出版部、2015.
- ◆ 中島英博 編著：「授業設計」、玉川大学出版部、2016.
- ◆ 中島英博 編著：「学習評価」、玉川大学出版部、2018.
- ◆ 中村文子・R.パイク：「研修デザインハンドブック」、日本能率協会マネジメントセンター、2018.
- ◆ E.F.バークレイ・K.P.クロス・C.H.メジャー 著、安永悟 監訳：「協同学習の技法」、ナカニシヤ出版、2009.
- ◆ 福岡敏行 編著：「コンセプトマップ活用ガイド」、東洋館出版社、2002.

## 「理工学教育共同利用拠点」2025年度実施 26プログラム

### プレFD、入職から3年以内の教員を主に想定したプログラム

- ・大学教育開発論(プレFD) ・学生の学修を促すシラバスの書き方WS ・授業デザインWS
- ・学生主体の授業運営手法WS ・ティーチングポートフォリオ(TP)作成・完成WS

### 理工系教育に関わる教員の基礎的・共通的なプログラム

- ・ルーブリック評価入門WS ・反転授業入門WS ・英語による授業のためのWS
- ・アカデミックポートフォリオ作成・完成WS
- ・障がい学生への対応(学内) ・外部資金獲得支援(学内) ・研究者倫理について理解する研修(学内)
- ・大学におけるダイバーシティについて理解する研修(学内) ・安全衛生・危機管理に関する研修(学内)

### 理工系教育に関わる教員のさらなる能力開発プログラム

- ・研究室指導に必要なコーチング技能入門WS ・アカデミックアドバイジング入門WS
- ・デザイン能力を育成する授業設計入門 ・知的財産マネジメント研修
- ・学修歴のデジタル化について学ぶセミナー

### 理工系教育の強みをさらに伸ばす組織開発支援

- ・ファカルティデベロッパー養成講座 ・カリキュラムコーディネーター養成講座
- ・ミドルマネジメントについて考えるセミナー ・高等教育開発セミナー
- ・カリキュラムの整合性と学修成果の可視化に関するセミナー
- ・教育プログラムをより良くするための学生参画に関するセミナー
- ・上記に関わる個別コンサルティング

## 令和7年度FD活動報告

部局名 人文学部
----------

### ■令和7年度のFD活動の実施状況

- ・授業評価アンケートを継続的に実施
- ・卒業時調査を継続的に実施
- ・教員の学外FD研修会への参加に対する支援
- ・教員対象のFD研修会を学部FD委員会の主催で1回、大学院の主催で1回実施。内容は以下の通り。

#### 【第1回学部FD研修会】

日時:令和7年9月18日(木) 13:00~14:30

テーマ:少人数授業の実践例について

講師及び科目名・題目:

##### 1)梁 有紀 准教授

○科目名 中国言語文化講読(a)(令和5年度前期)

○題目 担当者の舞台

○概要 担当者の舞台について、準備、舞台、学びの三段階で報告します。

##### 2)須永 修枝 講師

○科目名 国際関係論演習(a)/(c)(令和6年度前期)

○題目 なぜか学生が成長する仕組み

○概要

この授業では、学生たちが学びあうこと(質問し、調べ、答えるというプロセスを繰り返すこと)で成長を感じることができたようです。この報告では、そんな授業の仕組みを共有したいと思います。

##### 3)入江 幸二 准教授

○科目名 西洋史基礎演習(令和6年度後期)

○題目 西洋史基礎演習(令和6年度後期)の実践

○概要

1年生向けの最初の専門科目「西洋史基礎演習」をどのように進めていったか、説明する。

【大学院人文社会芸術総合研究科FD研修会】 ※当委員会は運営に関与していないが、人文学部教員も参加した研修会としてここに附記する。

日時:令和8年1月14日(水)13:00~14:00

講師・講演題目:

・小柳 淳也 氏

経済産業省 中部経済産業局 電力・ガス事業北陸支局 地域経済産業課 課長補佐

「北陸地域経済と企業支援施策等について」

・山下 創平 氏

経済産業省 中部経済産業局 電力・ガス事業北陸支局 総務課 係員

「富山大学地域連携推進機構と共に創る、とやま産業人材共創プログラムについて」

## ■得られた成果とその活用

・第1回学部FD研修会は、FD研修会後のアンケートでかねてから要望のあったテーマを取り上げたものである。授業アンケートで学生からの評価が高かった授業を実施した教員3名に講師を依頼し、授業における取り組みを紹介した後、参加者との質疑応答や自由討論を行った。

終了後のアンケートの回答は、「ほかの教員の授業に関する取り組みを知るよい機会となった」「案外と細かい実情やノウハウを交換する機会は限られているかもしれないので、有意義だったと思います」「学問分野ごとの特性もあるので全く同じようにはできないが、先生方がされている小さな工夫は、自分の授業でも取り入れてみたいと思った。」「学問への愛がないと、学生をも愛することができない。三人の先生方はそれを教えてくださったと思う」等概ね好意的であった。

・大学院人文社会芸術総合研究科FD研修会はほとんど経済産業省中部経済産業局の業務の紹介であり、特に人文科学系とはかかわりの薄いものであったが、大学院における産学協同の実情を知る機会にはなったといえる。

## ■今後の課題

・FD研修会アンケートの回答率が低い状態が続いており、回答率向上のための方策が大きな課題として残されている。

・次年度以降も、教員の多様なニーズに応じた研修が求められる。

・本学部教員の学外FD研修会への参加状況は芳しくなく、周知宣伝の強化が求められる。

・大学院人文社会芸術総合研究科FD研修会は、人文学部教員から授業改善と何の関係があるのかという声もあり、FD研修会の目的とコンセプトを明確にしておく必要がある。



## 令和7年度FD活動報告

部局名	教育学部
-----	------

### ■令和7年度のFD活動の実施状況

令和4年度より、現代的教育課題に対応する能力を持った質の高い教員養成を目的として、金沢大学と連携して教育学部共同教員養成課程を設置した。養成する人材像を「豊かな人間性と社会性、教育への情熱と使命感を持ち、教科や教職に関する専門的知識と技能を身に付け、新たな教育的課題に適切に対応できる実践力のある者」と掲げている。

共同教員養成課程における教育体制・教育方法等の点検・評価を実施するなど、教育の質保証及び教学マネジメントのPDCAサイクルの構築を図るため、両大学の学部長、学類長、副学部長、教務委員長から構成される合同教学委員会を設け、カリキュラムの編成に関する事項、入学者選抜試験に関する基本的事項及びFD活動の方針に関する事項などについて審議した。この教学委員会に、教育方法検討(FD)部会を設置し、両大学合同でのFD活動を企画・実施していくことにより、共同教員養成課程全体の教育内容等の改善を図ることとした。さらに富山大学教育学部ではFD・カリキュラム委員会において、独自に教育体制・教育方法等の点検・評価を実施した。

- ① 学部授業評価アンケートの実施
- ② 卒業時調査の実施
- ③ 授業評価プレアンケートの実施
- ④ 富山大学・金沢大学教育学部共同教員養成課程合同FD研修会
- ⑤ 学部FD研修会

#### ●授業評価関連：①③

授業評価の分析結果は、FD・カリキュラム委員会において算出し、全体結果を教授会にて説明・共有している。

#### ●卒業時調査②

学生の修学やそれらに対する評価等について、全学と連携し実施した。

#### ●第1回合同FD研修会④

日時：令和7年9月25日(木)10:00～12:00

会場：教育学部3棟3階「331」講義室(金沢大学と遠隔システムにて通信)

内容：両大学の教育実習指導体制について

対象：教育学部教員、教職大学院教員、金沢大学学校教育学類教員

参加者：27名(富山大学)

研修内容：

- (1) 富大・金大の教育実習指導体制について

富大報告：月僧実習等運営委員長

金大報告：滝口教育実習運営委員会委員長

- (2) 質疑応答と意見交換

### ●第1回FD研修会⑤

日 時:令和7年6月11日(水)16:30~17:45

会 場:教育学部1棟2階大会議室

対 象:教育学部教員、教職大学院教員

参加者:42名

研修内容:富山大学教育学部共同教員養成課程について

- ・共同教員養成課程設置の背景,および趣旨(徳橋先生)
- ・共同教員養成課程(教育課程の共同実施制度)の仕組み,教育課程(宮先生)
- ・共同教員養成課程の履修の流れ(石川先生)

### ●第2回FD研修会⑤

日 時:令和8年1月21日(水)15:00~16:05

会 場:教育学部1棟2階大会議室

対 象:教育学部教員、教職大学院教員

参加者:31名

研修内容:シラバスの役割と作成の留意点

- 講師:
- ・松本 馨 先生(学術研究部・教育推進系/教育・学生支援企画室)
  - ・高橋 課長、神谷 係長(学務課)
  - ・宮 一志 先生(教育学部)

### ■得られた成果とその活用

第1回合同FD研修会では、富山大学および金沢大学における教育実習指導体制について、両大学の運営方針や支援の特徴を比較しながら理解を深めることができた。特に、実習前後の指導体制や学校現場との連携方法に違いがあることを知り、自学の体制を見直す視点が得られた点が大きな成果である。今後は、得られた知見を学生への実習指導や相談支援に活かし、より円滑で質の高い実習運営に寄与していきたい。

第1回学部FD研修会では、共同教員養成課程の設置背景や制度の趣旨、教育課程の仕組み、履修の具体的な流れについて理解を深めることができた。特に、大学間での教育課程の共同実施の意義を再確認できた点が大きな成果である。今後は得られた知見を学生支援や履修指導に活かしていきたい。

第2回学部FD研修会では、「シラバスの役割と作成の留意点」について体系的に学ぶ機会となった。シラバスは学生に授業の全体像を示す学習契約であると同時に、教員にとっては授業設計を可視化し、教育の質を担保する重要なツールであることを再確認した。特に、到達目標と評価方法の整合性、学修時間の妥当な見積もり、授業方法の明確化、アクティブラーニング要素の位置づけなど、作成時に意識すべき具体的な観点を整理できた点が大きな成果である。また、学生にとって理解しやすい表現や構成を心がけることが、学修意欲の向上にもつながることを共有できた。今後は、研修で得た知見を自身のシラバス改善に反映させるとともに、学部内での情報共有や相談支援を通じて、教育の質向上に継続的に貢献していきたい。

## ■今後の課題

これまでの FD 研修会を通じて、教育実習指導体制、共同教員養成課程の仕組み、そしてシラバス作成の基本的視点について理解を深めることができた。一方で、これらの知見を実際の教育活動に効果的に反映させるためには、いくつかの課題が残されている。まず、富山大学・金沢大学の教育実習指導体制の違いを踏まえ、学生支援の質を高めるための学部内での情報共有体制をより強化する必要がある。また、共同教員養成課程に関する制度理解を教員間で均質化し、学生への履修指導において説明のばらつきが生じないよう、継続的な研修機会の確保が求められる。さらに、シラバス作成に関しては、到達目標・評価方法・授業方法の整合性を確保するためのチェック体制や、学生にとって理解しやすい表現を共有する場の整備が課題となる。これらを踏まえ、学部全体として教育の質保証に向けた共通理解を深め、教員が相互に支え合う仕組みづくりを進めていくことが今後の重要な課題である。

## 令和7年度FD活動報告

部局名	経済学部
-----	------

### ■令和7年度のFD活動の実施状況

今年度は学部FD研修会を2回開催した。

第1回:「大学教育(教養教育改革)に関して」(令和7年9月10日開催)

新教養教育をテーマとし、教養教育院の杉森先生を講師として、新たに導入される新教養教育について、新教養教育の導入の意図や、解説を行っていただき、新教養教育への理解を深めるとともに、さらには、学部専門教育とのかかわり方を学び、学部教育ないしは大学教育の向上につなげるための機会とすることを目的として開催した。

第2回:「就職支援について」(令和7年10月8日開催)

就職支援をテーマとし、株式会社リクルートより講師を招き、昨今の就職状況や近年の採用スケジュールについて解説を行っていただき、学生に対する就職支援・指導のポイントを学ぶ機会とすることを目的として実施した。また、大学院進学に関すること(進学することのメリットなど)も説明いただいた。

なお、各回の参加状況は以下のとおりであり、FD研修会を教授会開催日に設定することで、高い参加率を維持している。

第1回参加者:34名(参加率 74%)

第2回参加者:40名(参加率 87%)

### ■得られた成果とその活用

第1回:「大学教育(教養教育改革)に関して」(令和7年9月10日開催)について

新教養教育に関する理解度や情報量には教員間で個人差が大きいことが予想されたため、基本的な知識の共有ができた点で意義があったと考えられる。新教養教育は学部教授会でも度々議論はされていたが、その具体的な運営方法や教育負担の大きさ、学部の専門科目との関連性などに関しては不明な部分が多かったため、教員の関心度は高かったと思われる。

また、新教養教育では、これまでの教養教育科目と新設科目による科目編成の変更、各科目群への新たな位置づけ・意味づけがなされたため、その実施に当たっては学部教員の協力が不可欠である点も合わせて共有された。このような意識の共有は次年度から始まる新教養教育の授業の質の確保に少なからず貢献することになるだろう。

第2回:「就職支援について」(令和7年10月8日開催)について

学生の就職市場は変化が激しい一方で、日々、研究や教育などに追われる教員にとってみれば、個人レベルでその変化をフォローするのは極めて難しいため、直近の事情を知ることができ、授業やゼミ・卒業研究で学生を指導する際の参考になった。新卒採用の求人倍率や、就職活動の早期

化、インターンシップなどのキャリア形成支援プログラム、就職活動を終えた学生の納得感、文系大学院生の就職活動などについての説明があり、教員の知識のアップデートにつながった。

また、就職先を安易に決めてしまったと感じている学生の割合が高いこと、自己探索や環境探索が自分らしい進路選択に影響すること、キャリア選択への納得感が入社後の働き方にも影響することなど、興味深いエビデンスの紹介もあり、就職支援の重要性を再認識する機会となった。

## ■今後の課題

第1回：「大学教育(教養教育改革)に関して」(令和7年9月10日開催)について

研修では、これまでの富山大学の教養教育の歴史、今回の教養教育改革に至った経緯、新教養教育の理念と概要、各科目群の説明などがなされ、新教養教育の基本的な枠組みと方針は理解できたが、教員が危惧する部分への説明はなく、教員の懸念の払拭には至らなかったように思われる。新教養教育における各科目群内の事情や部局間でコンフリクトが生じた場合の対処方法、改革前後での各教員の教育負担の変化・部局間の教育負担格差の変化・教育の質の変化・(必要であれば)費用対効果の変化など、事前に整理すべき点や予め合意形成をしておいたほうが良いと思われる点が多々あげられる。研修は新教養教育の開始を半年後に控えた時期に行われたが、その時点でもまだ、教育に直接関わる教員に対して詳細な情報提供がなされない点に関しては、一つの課題・問題点としてとらえざるを得ないだろう。

第2回：「就職支援について」(令和7年10月8日開催)について

経団連と政府の方針で、広報解禁日(3月1日)、選考解禁日(6月1日)、内定解禁日(10月1日)が定められているが、研修での説明では、3月や6月の時点で既に高い就職内定率が観察されており、ルールの形骸化と就職活動の早期化が浮き彫りとなった。加えて学部3年生・大学院生1年目の4月以降、随時、各企業でインターンシップやキャリアエントリーが行われており、かなり早い段階で選考が行われている点についても説明があった。これらのことから、学部・大学院の専門科目やゼミナールで学びを深める前や学びを深めている時期に既に就職活動の選考時期が来ていることが、課題・問題点として認識された。

また、早い段階からの自己探索や環境探索が重要である一方、本学部の学部学生の場合、就職活動のセミナーやガイダンスへの参加者が少なく、他学部と比べてリクナビへの登録者割合も少ないという指摘があった。安易な就職は、結果的に将来のキャリア形成にもマイナスに影響する可能性があることから、学部の就職支援において、引き続き、就職活動での自己探索や環境探索の重要性や、これらを意識する機会の活用についての周知が求められる。

## 令和7年度FD活動報告

部局名	理学部
-----	-----

### ■令和7年度のFD活動の実施状況

- ・9月10日に理学部学生生活委員会主催にて「理学部FD研修会」を開催した。学生支援センター アクセシビリティ・コミュニケーション支援室 栗林特命准教授を講師とし、障害を有する学生の支援について、障害学生の支援における合理的配慮や学内連携の現状等について講演を行い、56名が参加した。
- ・10月8日に理学部教務委員会主催にて「理学部FD研修会」を開催した。高橋学務課長を講師とし、ヘルンシステムにおけるキャリアカルテ(レーダーチャート)機能そのものや活用方法等について講演を行い、67名が参加した。
- ・11月12日に理学部就職指導委員会主催にて「理学部FD研修会」を開催した。Indeed Japan 石黒氏を講師とし、理系における最新の就職状況や学生の大学院博士後期課程進学を取り巻く社会の状況、学部における就職支援ガイダンスの重要性等について講演を行い、55名が参加した。

### ■得られた成果とその活用

- ・障害を有する学生への配慮における合理的配慮や本学における近年の状況、部局連携等の理解を深める成果があり、今後の障害学生サポートに活用する。
- ・ヘルンシステムにおけるキャリアカルテ(レーダーチャート)機能そのものや活用方法に関する理解を深める成果があり、今後の学生面談や学生指導に活用する。
- ・学生の就職状況や大学院進学に関する社会情勢を理解する成果があり、今後の学部における就職指導に活用する。

### ■今後の課題

- ・本学部においても身体的・精神的な障害を有する学生が在籍していることから、当該学生らの支援継続のため、今回のようなFDの継続や学内連携に関する情報の継続的な取得が課題である。
- ・ヘルンシステムにおけるキャリアカルテ(レーダーチャート)機能そのものを認識していない教員が少なくないことから、まず本機能そのものの周知が課題である。また、教員から学生へ、本機能活用の促進に繋がる取組みが必要と思われる。
- ・本学部においてはおよそ60%が大学院へ進学しており、さらに博士後期課程へ進学している学生も少なくない。博士後期課程大学院生の就職活動・就職状況は学部学生と比較し情報が少ない状況であり、定期的に今回のように大学院生の就職活動に関する最新の情報を取得し、学部内にて共有することが必要と考えるが、学部のみでは博士後期課程大学院生に係る最新の就職情報を得ることは容易ではないことが課題である。



## 令和7年度FD活動報告

部局名	医学部医学科
-----	--------

### ■令和7年度のFD活動の実施状況

医学部医学科では、医学教育カリキュラムの改良に計画的・継続的に取り組んでいる。特に医学科のカリキュラムや教育実践については、外部評価であるJACME医学教育認証評価の指摘事項への対応にとどまらない改善を行っている。

令和7年度は、臨床実習における効率・効果的な指導と評価に注目して教育改善に取り組んでいる。具体的には、医学生を対象としたアンケートを通じて指導医・診療科の教育実践を評価し、ベスト指導医・診療科として公表・評価を行っている。加えて、教育実践に関する医学生からの提案や意見を指導医・診療科に広く共有することを通じた教育改善・教育評価に取り組んでいる。miniCEX、DOPS、CbDなどのさまざまな学生評価方法の組み合わせを通じ、医学生の学修が深まることを目的として、これらの学生評価方法の実施回数の向上や評価の質向上に取り組んでいる。

また、医学生の研究への理解向上や動機づけを目的として研究室配属での効率・効果的な学習についての検討を行っている。

上記を踏まえて、医学教育FD活動として、令和7年度は以下の3回のテーマで実施し、効率・効果的な指導と学習者評価に関するFDに取り組んだ。また、研究室配属について、基礎系研究室・臨床系研究室の特徴を踏まえた教育実践についてFDも実施した。

#### 取り組み事例

##### 【第1回】

日時:令和7年7月9日(水)17:30~18:30

会場:対面(臨床講義室Ⅰ)・オンラインのハイブリッド開催

テーマ:ベスト指導医の学生との関わりから効率的・効果的な臨床実習指導を考える

##### 【第2回】

日時:令和7年10月21日(火)17:30~19:00

会場:対面(臨床講義室Ⅱ)・オンラインのハイブリッド開催

テーマ:miniCEXの理論と実践

##### 【第3回】

日時:令和8年1月27日(火)17:30~18:30

会場:対面(臨床講義室Ⅱ)・オンラインのハイブリッド開催

テーマ:研究室配属での実践と課題の共有ー基礎系・臨床系の現場からー

## ■得られた成果とその活用

第1回FDでは、ベスト指導医に選ばれた複数の指導医から医学生への指導における工夫についての情報共有が行われた。そのまま活用できる教育方法への理解に加えて、それぞれ指導する環境が異なる教員がどのように教育実践を改良するか？についての理解を深めることができた。

第2回FDでは、mini-CEXという臨床の現場での医学生の診療実践を評価する手法について、九州大学医学教育学講座菊川誠先生にご講演いただいた。九州大学医学部で広く実施されている臨床実習でのmini-CEXの評価の実際の共有を受けて、富山大学でのmini-CEX実施の拡充について教員間での検討が行われ、mini-CEXの実施に関する教員の意欲を高めることができた。

第3回FDでは、遺伝子発現制御学 准教授 甲斐田 大輔 先生と小児科学 教授 今井 千速 先生から、基礎系・臨床系の研究室での研究室配属における研究指導の工夫や困難についてご講演いただいた。基礎系・臨床系の研究室の特徴の違いや共通の課題について質疑を通じて議論された。また、講演および議論を通じて、研究室配属における評価への理解が深まった。

## ■今後の課題

令和6年度に課題とした具体的な教育実践手法についての理解促進について、医学生からのアンケート調査やカリキュラム変更などによって明らかになった課題に対応し、具体的で実践に直結する医学教育FDを行ったことで、一定の成果を得ることができた。

具体的な教育実践手法に関する医学教育FDの継続が必要であるが、それに加えて、教育実践に直結するもののやや抽象的で教育手法に大きなばらつきがあるプロフェッショナリズム教育やアンプロフェッショナルな行動に対する教育についても今後医学教育FDで取り入れる必要がある。

また、医学教育FDへの参加者増は継続的な課題である。本年度は1年間を通じて、教育実践に直結する内容をテーマとしており、教育の実務者にとって興味・関心を引く内容とすることで、参加者の増加に取り組んだ。当日会場で参加ができない参加者に対して、オンラインでの配信を行い、動画収録を行い学内からオンデマンド視聴が可能となる工夫も行っている。

コミュニケーションの難しさから、オンライン参加者との会場との双方向のやりとりについては今以上に活発になるような工夫が必要である。

## 令和7年度FD活動報告

部局名	医学部看護学科
-----	---------

### ■令和7年度のFD活動の実施状況

令和7年度医学部看護学科FDは、開催テーマ、日時、講師等について以下の通り実施した。

#### 1. テーマ

「富山大学医学部看護学科の志願者確保に向けた学生募集戦略を考える  
－入試制度ならびに入試広報の今後の対応－」

#### 2. 日時・場所

- ・ 日時:令和7年5月23日(金)16:30～18:00
- ・ 場所:看護学科棟11講義室

#### 3. 講師

富山大学 アドミッションセンター 特命教授 山田 貴光 先生

#### 4. 趣旨

令和7年度、富山大学医学部看護学科においては、入学志願倍率および受験者数の減少が認められた。本学科の現状に対するアドミッションセンターの見解を知ることで、今後、いかにして有望な入学志願者を確保していくか、入試制度ならびに入試広報のあり方を検討していく上での示唆を得る。

#### 5. プログラム

- ・ 挨拶および講師紹介……16:30～16:35(5分)
- ・ 講義……16:35～17:35(60分)
- ・ 質疑応答……17:35～18:00(25分)
- ・ FD実施後アンケート

医学部看護学科では、令和7年4月より看護学科広報ワーキンググループを立ち上げている。看護学科広報ワーキンググループは、看護学科長を中心に各講座の代表教員が集い、今後の本学科の学生募集戦略に係る対外的な広報活動について検討する場となっている。今回のFD研修会の学びは、ワーキンググループの活動方針を検討する上での貴重な資料として活用されている。後述のFD研修会開催後のアンケートにもあるが、FD研修会の学びをもとに、看護学科では今年度より対外的な学科PR活動の一環としてInstagramの立ち上げが行われた。また、オープンキャンパスにおいても、各講座による参加高校生への学科紹介として在校生の協力を得る等、研修会の内容を活かした広報活動を展開した。オープンキャンパス後の参加者の感想では「良かった」「とても良かった」との肯定回答率が100%となり、例年より高評価を得る結果となった。

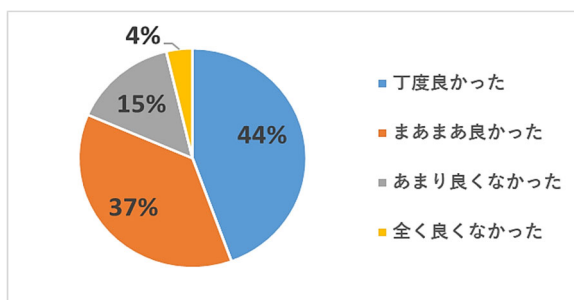
## ■得られた成果とその活用

FD 研修会実施後の参加者アンケートの結果を以下に示す。

- ・ 対象者 : 看護学科教員 27 名
- ・ 実施日 : 令和7年5月 23 日
- ・ 実施方法: アンケート用紙にて回答(匿名制)

### 1. 開催時期(5月 23 日 16:30~)について

丁度良かった	12 名
まあまあ良かった	10 名
あまり良くなかった	4 名
全く良くなかった	1 名

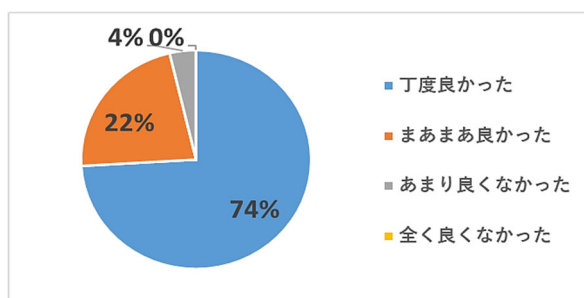


※「あまり良くなかった」「全く良くなかった」と

回答した者の意見……………「16:30 だと実習が終了しない」「(実習の)記録が返せない」

### 2. 開催所要時間(90 分)について

丁度良かった	20 名
まあまあ良かった	6 名
あまり良くなかった	1 名
全く良くなかった	0 名

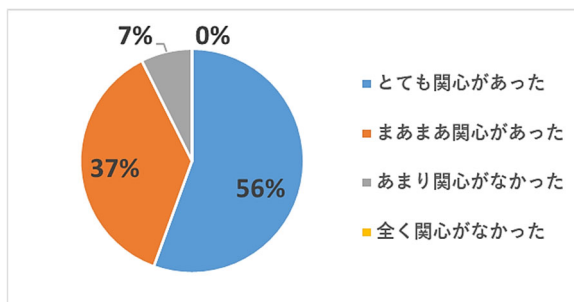


※「あまり良くなかった」と回答した者の意見

……………「60 分程度(を希望)」

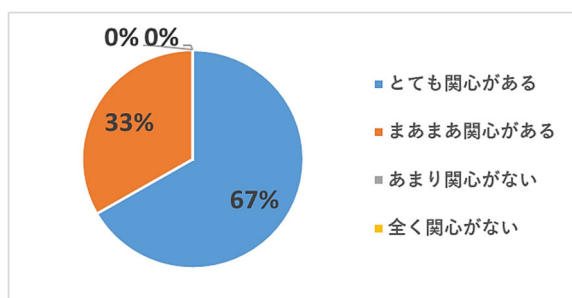
### 3. 今回の FD 参加前の本テーマに対する関心度

とても関心があった	15 名
まあまあ関心があった	10 名
あまり関心がなかった	2 名
全く関心がなかった	0 名



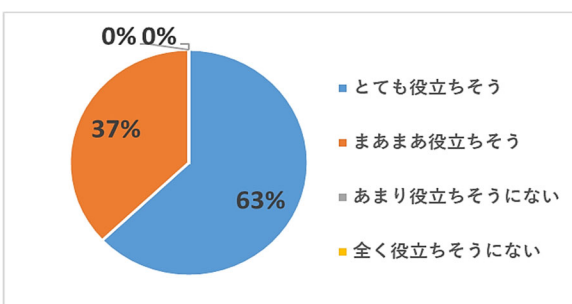
#### 4. 今回のFD参加後の本テーマに対する関心度

とても関心がある	18名
まあまあ関心がある	9名
あまり関心がない	0名
全く関心がない	0名



#### 5. 今回のFDの内容は、本学看護学科の課題解決に役立つ内容であったか。

とても役立つそう	17名
まあまあ役立つそう	10名
あまり役立つそうにない	0名
全く役立つそうにない	0名



#### 6. 今回のFD講演内容から考えた自分の立場で出来ることについての意見・感想

(記載内容より一部抜粋、要約)

- ・ 第1に選ばれる大学になるよう努力しなければならないと思った。特色を出していくことが大切であり、それを上手くPRしていくことが必要であると考えた。
- ・ 在校生の高校訪問を積極的に取り入れられるような機会を設けていければ良いと考えた。在校生が本学で良かったと思えるよう、授業や実習で親身に関わっていく。
- ・ 現代はSNS社会のため、最低限HPの更新は必要ではないか。
- ・ 看護学科の特色をもっと配信した方がよいと考える。
- ・ 富山大学看護学科で行っている教育・研究の実際に対して、県内の入試選択に関係する人々が触れる機会を増やす。
- ・ 本学看護学科の入学志願倍率や受験者の増加のための方策として、入学定員の減員や科目負担の減を考えていた。しかし、全国規模で「看護」の志望者が減少していること、今回のFDでお伺いできた詳細なデータをお聞きして、前述した内容は適切ではないと痛感した。
- ・ 以前から、在学生の声が高校生、保護者に大きく響くことを実感していたので、今後もそれを意識して対応していきたい。また、魅力的な学生を見つけたら、ぜひ在学生取材に推薦させていただきたい。
- ・ オープンキャンパスで講座ごとに紹介すること自体は良いが、何をすれば高校生に響くのかがおそらく教員達も分からない。今日の講師のような方をコンサルとしてお願いし、最初から内容を考え直すことをやってみたい。
- ・ 学科としてになるが、在学生に広報委員をお願いし、教員と学生がチームを作って内容を考えるのが良いと思う。



- ・ 近い県外の高校にも訪問に行った方が良いのではないかと思った。
- ・ 各高校、特に教員(担任)へのアプローチの重要性について理解できた。どのようにアプローチしたらよいかを考えるとところから始めたい。
- ・ オープンキャンパスで大学の授業はこういう感じとただ説明するよりも、学生に協力してもらうことで魅力を伝えられるのではないかと思った。受験校決定の情報源に富山大学への来学(見学)が多数であったので、その機会を大切にすると必要があると納得した。
- ・ 高校生・保護者目線での広報や open campus を開催し、少ない看護学科教員が疲弊せず効率良く実施していくことを再考したい。
- ・ 全国の入試情報を入手し、毎年戦略を考えていきたい。
- ・ オープンキャンパスに来られた学生さんや保護者の方に、在校生を見てもらえる、話をできる場を前面に出せるようなオープンキャンパスを企画したいと思った。
- ・ 在校生さんの活躍を見てもらうことが、来られた学生さんが富大をイメージできることにつながるのかなと思った。
- ・ オープンキャンパスを行う上でのモチベーションが上がった。ぜひ、在校生の協力を得た形での講義・演習等のプログラムを工夫してみたい。
- ・ 看護師免許を得た後の進路、キャリアとして、卒業生の様子を紹介、卒業生の協力も得ていたらと思った。

## 7. 今後のFD内容についての意見・希望

- ・ 定期的に今回のような情報を提供してもらえるとありがたい
- ・ 今回の内容の時期はとてもよかった
- ・ コア・カリキュラムについて
- ・ JABNE 受審に向けた内容
- ・ 教育的配慮の必要な学生への教育方法について
- ・ 教員が抱える課題、メンタルヘルス、体調管理、業務量の適正化など

### ■今後の課題

今回のFD研修会を通して、全国的な入試志願状況を知ることができ、これに応じた志願者確保に向けた看護学科全体、および教員個々の活動のあり方について示唆を得ることができた。今年度は、研修会で得られた学びを医学部看護学科広報ワーキンググループの活動とリンクさせて展開することも出来たが、医学部看護学科の志願者確保は、依然として本学科の最重要課題の一つである。今後も、入学志願者に関する情報共有と学生募集戦略の検討については、継続的に実施されていくことが必要であると考えられる。

## 令和7年度FD活動報告

部局名	薬学部
-----	-----

### ■令和7年度のFD活動の実施状況

令和7年度の薬学部・大学院薬学系部会FDは、学部の課題として「研究室配属の方法」について、および「学生面談の方法」について議論した。また、大学院の課題として、「研究時間確保のためにできる業務」について、および「総合型選抜の学生を博士課程に進学させるための方策」について議論した。

また、令和7年度の富山大学薬学部カリキュラム検討部会では、4つのアンケート項目、「集中しやすい授業・わかりやすい授業」、「国際的な視点や感覚を身に着けるための英語教育についての意見や要望」、「在学中の短期海外留学についての意見や要望」、「その他、薬学部のカリキュラムについての意見や要望」を学部生に実施し、部会で代表学生と代表教員の間、代表教員間でアンケート結果について議論した。

### ■得られた成果とその活用

#### FD 学部関連

#### ● 研究室配属の方法

最近変更された研究室配属方法(成績順による希望配属)について、教員間で意見交換を行い、現行制度の評価と改善点を整理した。従来の学生間調整方式では、希望の調整に時間を要し、学生間でのトラブルが発生することが多く、負担が大きいという課題があった。これに対し、成績順による現在の配属制度は公平性が高く、一定の基準に基づいて自動的に決定されるため、概ね妥当な方法であると評価された。

FDを通じて、現行制度の意義や運用方法について教員間で理解が深まり、改善に向けた具体的な提案も得られた。特に、研究室紹介動画や訪問機会の充実、成績順で研究室が決まることをガイダンス等での複数回周知すること、研究室配属に関わる具体的な内容や方法など、学生の納得感を高めるための丁寧な説明と情報提供の重要性が確認された。

#### ● 学生面談の方法

学部生全員を対象に年2回実施している学生面談の現状と課題について検討した。面談は、学生の心理的危機や学業継続を脅かす問題を早期に発見し、適切な支援につなげる重要な機会であり、コロナ禍以降その必要性は一層高まっている。今回のFDでは、面談の目的や役割を再確認し、現行体制の改善に向けた具体的な提案が得られた。

FDを通じて、学生面談の目的を「問題の早期発見」「全学生への支援」「継続的モニタリング」として明確化し、教員間で共通理解を形成できたことは大きな成果である。また、面談後の対応フローや情報共有体制の必要性が整理され、ヘルンシステムやMoodleを活用した履歴管理・連絡手段の改善案が具体化した。さらに、学生への相談窓口周知や、指導教員以外の第三者面談体制の整備など、支援の質向上に向けた方向性が明確になった。

## FD 大学院関連

- 研究時間確保のためにできる業務

薬学部教員の業務負担に関する現状を共有し、研究時間確保の重要性を再認識した。特に、教育・会議・集会などの業務の中で、真に必要なものとそうでないものを整理し、業務のスリム化を図るべきという共通認識が得られた。また、事前アンケートを通じて、教員間で業務負担の偏りや非効率な体制が明確化され、改善に向けた方向性が示された。

- 総合型選抜の学生を博士課程に進学させるための方策

総合型選抜(研究者養成枠)で入学した薬学研究コース学生のモチベーション維持に関する現状と課題を共有し、具体的な支援策の方向性を整理できた。特に、学会活動や研究発表の場に早期に触れさせること、研究室訪問や先輩との交流機会を増やすことが、進学意欲や研究への関心を高める有効な方策として確認された。また、研究活動開始後に生じる適性への不安に対応するため、教員による継続的な面談やキャリア相談の重要性が再認識された。

## 学部カリキュラム検討部会

- 集中しやすい授業・わかりやすい授業

授業改善に向けた学生意見収集の現状を確認し、アンケートの回答率向上策や学生参加の柔軟化など、改善の方向性を整理できた。また、授業出席回数や進級要件に関する現状を踏まえ、学生の意欲向上と就職への影響を考慮した指導方針の重要性が再認識された。

- 国際的な視点や感覚を身に着けるための英語教育についての意見や要望

薬学部における英語教育の現状と学生のニーズを整理し、重要な方向性を確認できた。現状の授業科目数を増やすことは困難である一方、既存科目の内容改善や学科別の特性に応じた授業設計の必要性が明確になった。また、学生アンケートから「実践的な英語力」「スピーキング機会」「国際交流の充実」への強い要望が把握され、TOEIC対策と並行して薬学専門性を活かした英語教育を構築する必要性が共有された。

- 在学中の短期海外留学についての意見や要望

薬学部における短期海外留学の現状と学生ニーズを整理し、留学への関心は高いものの、試験・実習との日程調整や費用負担が大きな障壁となっていることが明確になった。また、医療系・薬学系に特化したプログラムや、創薬科学科向けに国際的な留学先(米国、欧州など)を希望する声を確認された。さらに、説明会や情報提供の不足が留学参加意欲を低下させている現状も把握できた。

- その他、薬学部のカリキュラムについての意見や要望

学生アンケートを通じて、薬学部カリキュラムに関する幅広い意見を収集し、現状の問題点を整理できた。特に、試験・休暇のスケジュール調整、2年次の過密な授業・実習負担、研究室配属の早期化に対する疑問、実務実習と就職活動の両立、卒業研究と国家試験の並行負担など、学生が直面する不満や悩みの内容が明らかになった。

## ■今後の課題

### FD 学部関連

#### ● 研究室配属の方法

今後の課題として、配属基準や成績評価方法の説明不足、途中経過の不透明さが学生の不安や不満につながっていることが明らかになった。また、希望と異なる配属による研究意欲低下を防ぐため、面接導入や希望重視の調整など柔軟な仕組みの検討が必要かもしれない。さらに、研究室ごとのコアタイムの差異への対応、特別事情(アレルギー等)への配慮など、制度運用面での改善も求められている。

総じて、現行制度は公平性の観点から一定の評価を得ているものの、配属方法の具体的な方法や内容についての丁寧な説明により、その運用の透明性を高めることが、学生の納得感と研究意欲の維持に不可欠と思われる。今後の課題として、成績偏重による弊害を防ぎ、博士課程希望者の優先配属など、成績以外の要素も考慮した柔軟な制度設計を検討する必要があるかもしれない。

#### ● 学生面談の方法

課題として、教員がどこまで対応すべきかという目的・対応範囲の不明確さ、問題発見後の対応フローの不整備、専門部署との情報共有不足が挙げられた。また、問題学生ほど連絡が取りづらく、日程調整や欠席対応に教員の負担が集中している現状も改善が必要である。さらに、学生側の相談窓口認知不足や、指導教員が原因となる場合の対応体制の不備も課題である。これらを解決するためには、面談の目的と対応限界を明文化した指針の策定、日程調整の統一ルール化、情報共有の標準化、そして教員が対応に迷った際の相談体制の整備が求められる。

### FD 大学院関連

#### ● 研究時間確保のためにできる業務

課題として、業務削減の具体的な基準や優先順位の設定が不十分であること、会議や委員会の開催頻度・運営方法の見直しが必要であることが挙げられた。また、教育負担の公平性確保や、研究時間を圧迫する雑務の削減に向けた制度的な仕組みづくりも求められる。さらに、ICT の活用による情報共有・意思決定の効率化、業務分担の透明化など、全学的な取り組みが不可欠である。

#### ● 総合型選抜の学生を博士課程に進学させるための方策

課題として、研究活動開始後にモチベーションが低下する学生への体系的なフォロー体制が不十分であることが明らかになった。また、学会参加や外部交流の機会が限られており、早期からの研究者ネットワーク形成が難しい現状がある。さらに、研究適性に悩む学生への心理的サポートや、進学・キャリア選択に関する情報提供の不足も課題である。これらを解決するためには、学内外の連携強化、メンタリング制度の充実、学会参加支援の制度化など、包括的な仕組みづくりが求められる。

## 学部カリキュラム検討部会

### ● 集中しやすい授業・わかりやすい授業

課題として、アンケート回答率の低さによる意見収集の不十分さ、学生参加の継続性確保、オンライン開催など運営方法の検討が挙げられた。また、授業出席要件の厳格化と学生への危機感醸成も必要と思われる。特に、不適切な就学態度を取ることが就職へ悪影響することを学生に理解させるための学生側への情報提供の重要性が提案された。

### ● 国際的な視点や感覚を身に着けるための英語教育についての意見や要望

課題として、薬学科学生の英語学習意欲の低さ、学年が上がるにつれて学習機会が減少する現状、授業間の内容の統一性不足が挙げられる。さらに、スピーキングやネイティブとの交流機会の不足、留学支援の金銭的ハードル、TOEIC 試験の実施時期や費用負担への不満も明らかになった。今後は、学科別に適した英語教育の体系化、低学年からの継続的な学習機会の確保、国際交流や留学支援の強化、教員自身の英語力向上支援など、包括的な取り組みが求められる。

### ● 在学中の短期海外留学についての意見や要望

課題として、試験期間と留学時期の重複による参加困難、補講や単位取得の柔軟な対応不足、費用負担の大きさ、留学情報の周知不足が挙げられる。また、薬学部の過密なカリキュラムが留学機会を制限していることが明らかになった。さらに、創薬科学科や薬学科の特性に応じたプログラムの整備、奨学金や補助制度の充実、留学説明会の定期開催など、引き続き包括的な取り組みが求められる。

### ● その他、薬学部のカリキュラムについての意見や要望

カリキュラム検討部会の議論を通じて、薬学部カリキュラムに関するいくつかの重要な課題が明らかになった。まず、授業や実習の過密化が大きな問題として挙げられる。特に2年次は授業・実習が集中しすぎており、学生が十分に理解しながら学ぶ余裕がない状況である。また、試験日程や休暇の設定についても不満があり、試験時期が分散していることへの改善要望が出ている。

次に、研究室配属の時期と運用方法に関する課題がある。配属の早期化のメリットが学生に十分に伝わっておらず、学科間で配属時期や取り扱いに差異があることが混乱を招いている。さらに、実験や研究活動が本格化するのは後年次である場合があり、創薬科学科の早期配属の意味が不明確との指摘もあった。

また、実務実習と就職活動の両立に関して意見があった。5年次の実務実習が企業の採用活動と重なる場合、学生の就職活動に影響を与える可能性があるため、説明会等で実習が就職活動に及ぼす影響を学生に説明し、安心して就職活動を行うことができることを理解させる必要がある。

さらに、卒業研究と国家試験準備の両立に関しても意見があった。卒業研究の終了・発表時期が遅く、国家試験勉強との並行が困難であるとの声が寄せられた。国立大学の中では卒業研究終了日は比較的早い方であるが、学生に卒業研究の重要性和計画的な学習計画の立案を説明し、納得させる必要がある。

このように、今年度の検討部会では、学習負担、授業スケジュール、研究室配属、就職活動、国家試験などに関する学生の不満が浮き彫りになった。薬学部の体系的なカリキュラム構成を学生に説明し、理解を促し、継続的かつ計画的な学習を行うことの重要性を周知することが肝要である。

## 令和7年度FD活動報告

部局名	工学部
-----	-----

### ■令和7年度のFD活動の実施状況

学部3年生の投票により選出された令和6年度ザ・ティーチャーの教員から、魅力的な授業を実施するためにどのような工夫を行っているかを講演いただき、今後の授業実施に向けた改善・向上に役立てるために研修会を開催した。

また、次年度シラバス作成依頼時に、昨年度全学で開催された「シラバス作成 FD」及び今年度第2回全学 FD として開催された「授業設計ワークショップ」動画を学務課から提供いただき、工学部授業担当教員に視聴できるよう共有し、シラバス作成時の留意点等について啓発活動を行った。教授会において、とくに新任教員は上記 FD を視聴するよう周知した。

### ■得られた成果とその活用

ザ・ティーチャーに選出された5名の教員による事例紹介を行い、授業の実施に際して心がけていること、工夫していることについて情報共有を行った。

以下は、講師から紹介された取り組み事例である。

- ・重要な箇所は繰り返し伝え、授業の冒頭に前回の復習をしてから進める。授業中に Moodle を利用した小テストや、学生同士で答え合わせをするなどのアクティブラーニングを行っている。Moodle の質問 BOX 機能を使って質疑応答を行っている。
- ・学生が理解できたかを確認し、質問に基づいて講義資料を改訂している。学生の理解度に応じて、その場で練習問題を作って解く時間を与えるなどの対応を取っている。練習問題を解く際は学生同士で話し合うことを推奨している。
- ・学生が修得するまでのプロセスや授業の要点を伝えることで意識付けをし、実際に演習問題を解き、期末試験で演習問題を応用させることで、問題解決の成功体験ができるよう工夫している。
- ・テストを返却、解説している。板書をせず、穴埋め式の資料を提供している。毎回の授業で質問時間を設け、その内容を講義に反映している。演習は、学生同士がディスカッションしながら問題を解く時間としている。授業評価アンケートを基に講義資料を毎年アップデートしている。
- ・タブレットでスライドに書きこみを行い、穴あき資料を提供している。例題を解く際は、学生同士で話し合いをする時間を設けている。オンデマンドで例題の解説をおこなっている。講義内容を文章化させる課題を出し、自分で調べて発表させることにより、理解が深まるよう工夫している。

いずれの事例も、授業評価アンケートや授業での質問等により学生の要望を分析し、それに対応するよう講義資料や授業の進め方について改善を行っている。また、授業中に学生同士で問題を解くグループワーク等のアクティブラーニングを積極的に行っているほか、授業資料の提供や演習問題の解説等については Moodle を活用するなど、学生が主体的に問題に取り組むための工夫を行っている。

こうした取り組みについて具体例を示しながら紹介したことで、多くの教員が自身の授業の今後



の改善のために役立つヒントを得ることができた。

#### ■今後の課題

ザ・ティーチャーによる事例紹介は参加教員からも好評であることから今後も継続して実施していきたい。それ以外にも、教員からのニーズに対応する FD 研修会の実施について検討していく。

## 令和7年度FD活動報告

部局名	芸術文化学部
-----	--------

### ■令和7年度のFD活動の実施状況

今年度は、具体的に解決しなければならないことについてFD研修を行った。具体的とは、大学院の進学率を上げるために教員の意識改革とハラスメント防止するための気づきである。

・令和7年度芸術文化学部第1回FD研修会

「大学院進学と就職」

・令和7年度芸術文化学部第2回FD研修会

「富山大学芸術文化学系教員向けハラスメント防止研修－創造の場を安全にするために－」

また、令和6年度芸術文化学部卒業生を対象に、卒業研究・制作の論文等の提出時に、調査用紙の配布・記入を提出窓口(学務担当事務室)で行ったアンケートから、卒業研究・制作において、プレゼン能力や語学力を上げる仕組みを取り入れる考察を行った。

### ■得られた成果とその活用

FD研修は、即効性があるものではなかったが具体例を多く示すことにより教員の意識が変わっていくと思われる。

### ■今後の課題

FD研修で意識改革をしなければならない教員が、欠席した場合の対応方法を検討しなければならない。

## 令和7年度FD活動報告

部局名	都市デザイン学部
-----	----------

### ■令和7年度のFD活動の実施状況

- ・学生生活に関するFD研修会を実施した(令和7年9月17日(水))。八島不二彦 学生支援課 学生生活相談員を研修会講師に迎え、「学生のメンタルヘルスについて」と題して講演いただいた。
- ・夏季に学部1・3年次生を対象に行ったPROGテストについて、分析結果をもとに教員向け解説会を実施した(令和7年12月17日(水))。
- ・学部4年次生、修士2年次生、教職員を対象としたJABEEの活用と技術士制度説明会を実施した(令和8年1月28日(水))。
- ・令和6年度に実施した「卒業時調査(当時学部4年次対象)」及び令和7年度に行った「学生満足度アンケート(学部2～4年次対象)」の分析を行い、英語教育の更なる改善に向けて検討を継続するとともに、大学での教育内容について、ガイダンスの機会などを利用して丁寧に説明する取り組みを行うこととした。次年度以降もアンケート結果の分析を続けていく。

### ■得られた成果とその活用

- ・教員が学生の視点で教育や指導方法を見直すことができ、PDCAサイクルを上手に活用できる仕組みを構築できた。
- ・技術士制度への理解を深め、学生指導の一助とすることができた。
- ・学生のメンタルヘルス不調やこころの病気についての理解を深めるとともに、学生指導やコミュニケーションを行う際に留意すべき点を整理する機会となった。

### ■今後の課題

- ・学生の不調を発見し、サポートするためには、教員個人での対応のみでは難しく、学生支援課や保護者と協力しながら進める必要があるため、教員、学生支援課、そして保護者との連携体制をいかに構築するかが課題である。
- ・カリキュラム改善に対してのPDCAサイクルについて、学生と教員、卒業生や卒業生の就職先等との連携をより強固にしていく必要がある。

## 令和7年度FD活動報告

部局名	教養教育院
-----	-------

### ■令和7年度のFD活動の実施状況

教養教育のさらなる充実と教育の質の向上を図るため、以下の取り組みを実施した。

- (1) 教養教育院FD研修会の実施(3回)
- (2) 「チーム・ティーチング」に関する学生アンケートの実施
- (3) 教育改善プロジェクトの推進と報告会の実施
- (4) 昨年度の授業評価アンケート結果に関する分析
- (5) 授業評価アンケートの実施とその結果に対する各授業担当教員からのフィードバック改善報告の依頼

上記のFD研修会・教育改善・教育評価に関する実施状況について、それぞれ以下に示す。

#### (1) 教養教育院FD研修会の実施(3回)

本年度は、令和8年度からの新教養教育の実施を見据え、学生主体の学びを実現するための授業改善(アクティブラーニングの推進、グループワークの設計・運営、ファシリテーション技術の習得、チーム・ティーチング体制の強化、教育アプリ等デジタル技術の活用)を共通の柱として、全3回のFD研修会を開催した。第1回は「教育アプリ×DXで変わるこれからの大学教育」(令和7年9月1日開催)、第2回は「令和8年度新教養教育に向けた教育改革とグループワークを取り入れた授業デザイン」(令和7年11月14日開催)、第3回は「グループワーク・ファシリテーション実践型ワークショップ～“教える”から“共に学ぶ”へ～」(令和7年12月4-5日開催)である。現在、これらの研修会の発表資料(パワーポイント・配布資料等)を含む詳細な報告書を作成中であり、公開予定である。これら3回のFDの概要を以下に示す。

##### ・第1回 教養教育院FD

第1回FD研修会は、ワークショップ形式で開催し、教育アプリとDXを活用した大学教育の在り方について学んだ。講師は岩居弘樹先生(大阪大学D3センター 教授)に務めていただいた。社会の急速なデジタル化を背景に、教育アプリを活用した学習支援の可能性や、学習者中心の教育への転換について、具体的な事例を交えてご講演いただいた。当日はPadlet等の教育アプリを実際に操作しながら、動画提出・即時アンケート等の機能を体験し、授業改善にどのように活用できるかについて参加者同士で意見交換を行った。また、海外大学との交流実践やホワイトボード型アプリの活用事例も紹介され、教育アプリの導入が単なる効率化にとどまらず、学生の主体的学修を促進し、教育の質を高めるDXの取り組みとなり得ることを理解した。実践的な体験を通して、デジタル技術が学習プロセスそのものを変革し得る可能性について共有し、今後の授業改善に資する有益な知見を得ることができた。

開催日時:令和7年9月1日(月)

参加人数:20名

(内訳 参加者:教員20名、職員0名)

### ・第2回 教養教育院FD

第2回FD研究会は、対面とMicrosoft Teams を併用したハイブリット形式で開催し、令和8年度から実施される新教養教育の理念および運営体制、学生を主体的な学びへと導くグループワークの実践について学んだ。第1部では杉森保先生(教養教育院 副院長)より新教養教育の全体像と科目チームを軸とした運営の仕組みについて、彦坂泰正先生(教養教育院 教授)よりシラバス作成の基本方針について説明があり、次年度の授業運営に向けた共通理解を深めた。第2部では安江健一先生(都市デザイン学部 准教授)よりグループワークの設計・進行上の要点が整理され、大西宏治先生(人文学部 教授)より具体的な授業実践に基づく活動の工夫や成果物へつなげる方法について報告があった。理念と実践の両面からの知見が共有され、アクティブラーニングの実施に向けた具体的なイメージを得る機会となった。本FDでは、複数の部局から教職員が参加し、次年度の授業運営を想定した質疑応答や意見交換が活発に行われ、新教養教育の実施に向けた準備を進めるうえで有益な機会となった。

開催日時:令和7年11月14日(金)

参加人数:61名

(内訳 当日参加者(会場・オンライン):教員33名、職員1名 / オンデマンド参加:教員27名、職員0名)

### ・第3回 教養教育院FD

第3回FD研修会は、対面形式で2日間にわたり開催し、新教養教育の全学必修科目「導入学修A」の実施を見据え、グループワークを支えるファシリテーションの在り方について学んだ。講師は、日本ファシリテーション協会の浦山絵里氏、尾上昌毅氏に務めていただき、「教える」から「共に学ぶ」への転換をテーマに、体験型ワークショップを通して授業の運営に関する具体的方法を共有した。1日目はオリエンテーションや関係づくり、心理的安全性の確保、問いの立て方、意見の可視化等、授業冒頭の場づくりに必要な基本的技術を学んだ。2日目は「導入学修A」の第2回の内容を題材とした模擬授業を行い、教員役と学生役に分かれて対話を促す関わり方や振り返りの方法を実践的に確認した。理論と実践を往還する研修を通して、教員が学習活動をサポートする「支える人」として機能するための具体的なイメージを得る機会となり、「導入学修A」をはじめとする学生主体の授業運営に資する有益な知見が共有された。

開催日時:令和7年12月4日(木)/ 5日(金)

参加人数:22名

(内訳 当日参加者:教員22名、職員0名)

### (2)「チーム・ティーチング」に関する学生アンケートの実施

第3回教養教育院FDにおいて、グループワークを支えるファシリテーション技術およびチーム・ティーチングの在り方について学んだことを踏まえ、令和7年度・後学期科目「アカデミック・デザイン」において複数教員によるチーム・ティーチングを試行的に実施した。本科目は、次年度開講の「導入学修A」の内容を先行的に取り入れた科目として実施しており、授業運営方法の検証も視野に入れている。実施後に、学生を対象としたアンケートを行い、「心理的安全性・場づくりの効果測定」「役割分担・チーム機能の効果測定」「複数教員体制授業に関する感想」について意見を収集した。

### **(3)教育改善プロジェクトの推進と報告会の実施**

教養教育院の個人またはグループでの教育改善活動を推進するため、「教育改善プロジェクト」制度を設けている。実施者は「教育改善プロジェクト」を教育改善推進委員会に申請・登録し、教育改善推進委員会はその遂行を把握・後援することとしている。本年度は13件の教育改善プロジェクトが進行している。それらの教育改善プロジェクトの活動の進捗状況について、報告書の提出と活動報告会の開催を課しており、報告書の締め切りは3月6日とし、報告会を3月11日に開催する予定である。

### **(4)昨年度の授業評価アンケート結果に関する分析**

教養教育院教育改善推進委員会において、昨年度実施した授業評価アンケートの結果と、それに対する授業担当教員からのフィードバックの内容についての調査・分析を行った。本分析は教養教育科目の9つの系ごとに実施し、各系の特色や傾向について行った。その調査・分析結果について、今後の教育活動の改善に資するとともに報告書として公開している。

### **(5)授業評価アンケートの実施とその結果に対する各授業担当教員からのフィードバック改善報告の依頼**

前学期および後学期それぞれの学期末に、教養教育科目に関する学生の授業評価アンケートを実施した。加えて、昨年度後学期および今年度前学期の授業評価アンケートの集計結果を授業担当教員に示し、そのアンケート結果を踏まえた自己分析や教育改善への取り組みについての報告を求めた。また、学生の自由記述に対するフィードバックの提供も依頼した。

## **■得られた成果とその活用**

### **(1)教養教育院FD研修会(3回実施)**

本年度の教養教育院FD研修会の開催を通じて、教育アプリ等のデジタル技術の活用、新教養教育の理念と運営体制、ならびにグループワークを中心とした授業設計とファシリテーションの実践について理解を深めることができ、令和8年度から開始する新教養教育の準備にとって重要な示唆を得る機会となった。また、各回FDでの質疑応答や研修後の意見交換を通じて、授業運営の具体的な方法や想定される課題について、教員間で話し合い、共有することができた。

第1回FD研修会(「教育アプリ×DXで変わるこれからの大学教育」)では、教育アプリを実際に体験しながら活用方法を学んだことで、授業中の学生参加を促す具体的な手段がイメージすることができ、学習状況の把握やフィードバックに有効であるということを体験することができた。また、デジタル技術が学修支援の高度化に資する可能性についても共有することができた。

第2回FD研修会(「令和8年度新教養教育に向けた教育改革とグループワークを取り入れた授業デザイン」)では、新教養教育の理念・シラバス方針・科目チーム運営に関する共通理解が進み、授業の共通部分と各教員の裁量部分の整理についてもより明確になった。また、より進んだグループワークの実践例を具体的に共有いただいたことで、学修目標に応じた課題設計、学習プロセスの支援(声かけ・問いの立て方・役割設計等)、成果物の評価・振り返りの方法等、実践に直結する視点が深まり、各担当教員が自らの授業に関する具体的な改善イメージを持つことができた。



第3回FD研修会(「グループワーク・ファシリテーション実践型ワークショップ～“教える”から“共に学ぶ”へ～」)では、体験型ワークショップを通してファシリテーション技術を実践的に学んだことで、学生の対話を引き出す具体的な関わり方を理解することができ、教員の役割を“支える人”として捉え直す契機となった。また、グループワークを軸とした授業運営について、具体的に思い描けるようになったことも大きな成果である。

以上のように、今年度の全3回のFD研修会を通じて、デジタル活用・制度理解・授業実践の3つの側面から新教養教育を支える知見を共有することができた。今回得られた成果をもとに、授業実施後の振り返りや事例共有を継続的に行い、教育の質向上へと繋げていきたい。

## **(2)「チーム・ティーチング」に関する学生アンケートの実施**

本アンケートにより、複数教員によるチーム・ティーチングが学生の対話参加のしやすさや安心感の形成に寄与することが確認された。また、教員間の役割分担の明確化や進行の一貫性が学修の理解度に影響することも分かった。これにより、チーム内での担当範囲の整理、介入のタイミングの調整、説明方法の統一など、授業運営上の具体的な改善点を把握することができた。得られた知見は、授業設計および教員の関わり方の見直しに反映するとともに、次年度開講予定の「導入学修A」におけるチーム運営方針や進行モデルの作成に活用する。

## **(3)教育改善プロジェクトの推進と報告会の実施**

教養教育院の教員個人や教員グループによる教育改善活動の推進により、13件のプロジェクトの実施を促した。教養教育推進のための教員グループの活動体制の強化が図られた。3月実施予定の報告会では、各プロジェクトの取組内容・成果(見込み)・課題を教員間で共有し、今後の改善方針や次年度に向けた展開について意見交換を行うことで、教養教育推進のための教員グループの活動体制をさらに強化することを目指す。

## **(4)昨年度の授業評価アンケート結果に関する分析**

9つの各系(「人文科学系」「社会科学系」「自然科学系」「理系教育基盤系」「医療・健康科学系」「総合科目系」「外国語系」「保健体育系」「情報処理系」)における「総合満足度」の結果は、昨年度と比較して多くの系で上昇しており、低下している系についても下がり幅はわずかであった。また、すべての系で5点満点中4点を超える総合満足度が得られており、全体を通して学生の肯定的な評価を得られたことは大きな成果であると考えられる。しかし一方で、アンケート回収率の低さは依然として課題である。今後は、より多くの学生にアンケートに参加してもらえる仕組みや、フィードバックを循環させる仕組みの整備が急務である。加えて、アンケート分析の高度化や、自由記述回答のテキスト分析等も視野に入れ、より授業改善につなげていくための工夫が必要であると考え。加えて、教育の多様化に対応できる設問の改善や、学生が回答しやすい環境づくりについても継続的に検討していきたい。

## **(5)授業評価アンケートの実施とその結果に対する各授業担当教員からのフィードバック改善報告の依頼**

学生による授業評価アンケートを実施し、その結果に基づいて各授業担当教員からフィードバックを求めることで、授業の自己分析と改善に向けた機会を提供した。これにより、教員は自身の授

業の強みや課題を把握し、より効果的な授業設計や指導方法の向上に取り組むことができる。また、収集したアンケート結果と教員のフィードバックを詳細に調査・分析することで、授業の質向上につながる要因を明らかにし、今後の教養教育の改善やFD活動の充実に活用していく。

さらに、個別授業の改善にとどまることなく、共通分野・科目群ごとの傾向を可視化し、関係する教員チームでの改善活動も実施することを目指していきたい。

## ■今後の課題

- 今回のFDを通して、教育アプリやデジタル技術の活用については有効性が確認された一方、教員間での活用経験やスキルの差が見られ、継続的な情報共有や相互支援の仕組みを整えていく必要がある。また、授業改善の成果を可視化し、蓄積していく体制づくりも課題である。
- 令和8年度からの「導入学修A」におけるグループワーク中心の授業運営においては、ファシリテーション技術の習得だけでなく、複数教員によるチーム・ティーチングの役割分担や連携方法の具体化が求められる。特に、授業での進行の管理方法や学習評価の方法について、さらなる検討の継続が求められる。
- 今年度の教養教育院FDで得られた知見を単発の研修にとどめず、授業実践後の振り返りや事例共有の機会を設けるなど、継続的な改善活動を循環させる仕組みを構築することも重要な課題である。

令和6年度DP達成度調査・卒業時調査回答状況調

■DP達成度調査

学部名	学科名	学年	学生数	回答数	回答率	R5年度回答率
人文学部	人文学科	1	186	54	29.0%	37.6%
		2	189	29	15.3%	12.9%
		3	186	8	4.3%	3.8%
小計			561	91	16.2%	18.2%
教育学部	共同教員養成課程	1	88	25	28.4%	55.8%
		2	85	5	5.9%	31.9%
		3	89	5	5.6%	56.3%
小計			262	35	13.4%	39.5%
経済学部	経済経営学科	1	338	85	25.1%	19.6%
	経済学科	2	140	16	11.4%	8.9%
		3	152	6	3.9%	1.5%
	経営学科	2	119	12	10.1%	20.0%
		3	118	9	7.6%	10.5%
	経営法学科	2	104	6	5.8%	17.3%
小計			1,074	140	13.0%	9.9%
理学部	理学科	1	214	61	28.5%	14.0%
	数学科	2	40	0	0.0%	8.5%
		3	55	2	3.6%	1.8%
	物理学科	2	41	3	7.3%	13.6%
		3	51	1	2.0%	2.0%
	化学科	2	38	0	0.0%	5.3%
		3	45	2	4.4%	11.4%
	生物学科	2	35	3	8.6%	27.8%
		3	44	3	6.8%	10.8%
	自然環境科学科	2	34	1	2.9%	14.3%
		3	35	2	5.7%	5.7%
	生物圏環境科学科	3	8	0	0.0%	5.4%
小計			640	78	12.2%	8.4%
医学部	医学科	1	108	85	78.7%	34.8%
		2	113	75	66.4%	52.5%
		3	116	69	59.5%	38.0%
		4	103	2	1.9%	9.4%
		5	105	0	0.0%	4.5%
	看護学科	1	81	74	91.4%	95.1%
		2	80	71	88.8%	93.8%
		3	80	52	65.0%	43.2%
小計	全学科		786	428	54.5%	43.4%
薬学部	薬学科	1	72	67	93.1%	90.3%
		2	71	63	88.7%	89.0%
		3	71	59	83.1%	53.4%
		4	61	5	8.2%	54.0%
		5	49	40	81.6%	81.0%
	創薬科学科	1	41	38	92.7%	89.5%
		2	38	32	84.2%	78.6%
		3	41	31	75.6%	52.2%
小計			444	335	75.5%	74.7%

学部名	学科名	学年	学生数	回答数	回答率	R5年度回答率
工学部	工学科	1	403	63	15.6%	26.1%
		2	406	28	6.9%	15.3%
		3	421	45	10.7%	13.9%
小計			1,230	136	11.1%	18.2%
芸術文化学部	芸術文化学科	1	114	80	70.2%	69.3%
		2	113	59	52.2%	44.6%
		3	107	34	31.8%	45.0%
小計	芸術文化学科		334	173	51.8%	53.1%
都市デザイン学部	地球システム科学科	1	41	34	82.9%	39.0%
		2	41	33	80.5%	25.0%
		3	56	6	10.7%	15.6%
	都市・交通デザイン学科	1	56	35	62.5%	22.2%
		2	53	40	75.5%	21.4%
		3	68	33	48.5%	10.0%
	材料デザイン工学科	1	71	18	25.4%	19.2%
		2	74	8	10.8%	11.9%
		3	63	2	3.2%	7.5%
小計			523	209	40.0%	18.1%
全体	合計	—	5,854	1,625	27.8%	26.6%
	文系	—	2,231	439	19.7%	22.6%
	理系	—	3,623	1,186	32.7%	29.1%

#### ■卒業時調査

学部名	学科名	学年	学生数	回答数	回答率	R5年度回答率
人文学部	—	4	174	136	78.2%	98.3%
人間発達科学部	—	4	170	158	92.9%	78.1%
経済学部	—	4	334	321	96.1%	97.0%
理学部	—	4	159	130	81.8%	56.4%
医学部	—	4+6	187	139	74.3%	79.9%
薬学部	—	4+6	109	106	97.2%	100.0%
工学部	—	4	355	322	90.7%	82.0%
芸術文化学部	—	4	104	100	96.2%	100.0%
都市デザイン学部	—	4	131	124	94.7%	95.0%
全体	合計	—	1,723	1,536	89.1%	86.6%
	文系	—	782	715	91.4%	93.8%
	理系	—	941	821	87.2%	80.8%

※学生数(休学者を除く)及び回答数は、令和6年度時点の学年を基に集計。

※最終学年の学生数は、R7.3の卒業生数とする。

#### 【参考】過去の回答率

DP達成度調査	回答率	R2	R3	R4	R5	R6
	合計	37.9%	34.3%	25.0%	26.6%	27.8%
	文系	31.4%	29.8%	17.3%	22.6%	19.7%
	理系	42.5%	37.3%	30.0%	29.1%	32.7%

卒業時調査	回答率	R2	R3	R4	R5	R6
	合計	85.7%	81.4%	85.2%	86.6%	89.1%
	文系	91.3%	80.1%	95.4%	93.8%	91.4%
	理系	80.7%	82.6%	77.2%	80.8%	87.2%

96～106ページは非公開です

## 令和7年度 部局主催FD実施状況一覧

No.	研修会等名称	内容	開催日	開催場所	主催部局	参加者数	講師名(所属)
1	令和7年度第1回富山大学医学部看護学科FD	富山大学医学部看護学科の志願者確保に向けた学生募集戦略を考える－入試制度並びに入試広報の今後の対応－	5月23日	看護学科研究棟11講義室	医学部看護学科	29名	山田 貴光 (アドミッションセンター)
2	令和7年度第1回教育学部FD研修会	「富山大学教育学部共同教員養成課程について	6月11日	教育学部大会議室	教育学部	42名	徳橋曜 (教育学部) 宮一志 (教育学部) 石川秀明 (教育学部)
3	入学者選抜に関するFD	令和7年度入学者選抜の総括及び今後の入試広報について	6月18日	共通教育棟1階 D11	入学試験委員会	94名	山田 貴光 (アドミッションセンター)
4	令和7年度芸術文化学部第1回FD研修会	大学院進学と就職	7月2日	高岡キャンパス大会議室	芸術文化学系	12名	清水 卓 (Indeed Japan) 石黒 綾佳 (Indeed Japan)
5	令和7年度第1回医学部医学科FD	ベスト指導医の学生との関わりから効率的・効果的な臨床実習指導を考える	7月9日	附属病院2階臨床講義室Ⅰ ※オンライン・対面併用	医学部医師キャリアパス創造センター	63名	近藤 諭 (医学部) 岡澤 成祐 (医学部) 齊藤 麻由子 (附属病院)
6	令和7年度薬学部・大学院薬学系部会FD	講演, 班別討議及び全体討論	8月8日	薬学部研究棟Ⅱセミナー室 1・2・3・7・8	薬学部・大学院薬学系部会	65名	杉森 保 (教養教育院)
7	令和7年度第1回教養教育院FD	教育アプリ×DXで変わるこれからの大学教育	9月1日	共通教育棟A22	教養教育院	20名	岩居 弘樹 (大阪大学D3センター)
8	理学部FD研修会	テーマ: 障害学生の支援について 障害学生の支援における最新の状況等について講演を行う。	9月10日	理学部大会議室	理学部学生生活委員会	56名	栗林 睦美 (学生支援センター)
9	令和7年度第1回経済学部FD研修会	大学教育 (教養教育改革に関して)	9月10日	経済学部大会議室 ※オンライン開催	経済学部	34名	杉森 保 (教養教育院)
10	令和7年度都市デザイン学部学生生活に関するFD研修会	「学生のメンタルヘルスについて」をテーマとした講演	9月17日	工学部大会議室 ※オンライン開催	都市デザイン学部	34名	八島 不二彦 (学生支援課)



No.	研修会等名称	内容	開催日	開催場所	主催部局	参加者数	講師名(所属)
11	令和7年度第1回学部FD研修会	少人数授業の実践例について	9月18日	人文学部大会議室	人文学部	18名	梁 有紀 (人文学部) 須永 修枝 (人文学部) 入江 幸二 (人文学部)
12	令和7年度安全保障輸出管理オンライン説明会	安全保障輸出管理に対する意識向上及び業務改善促進	9月19日	オンライン開催	国際機構	99名	清水 貴美子 (国際機構)
13	英語による授業実施のための教員研修2025	英語による授業実施のスキル向上のためワークショップ	9月22日 9月24日 9月25日	国際機構 2F講義室3	国際機構	53名 (合計)	吉川 朋子 (国際機構)
14	令和7年度第1回教育学部合同FD研修会	両大学の教育実習指導体制について	9月25日	教育学部331講義室	教育学部	27名	月借秀弥 (教育学部) 滝口圭子 (金沢大学人間社会研究域)
15	令和7年度第1回富山大学大学院FD	臨床研究のデザインを考える	9月30日	看護学科研究棟10講義室	総合医薬学研究科	24名	米本 直裕 (医学部)
16	理学部FD研修会	テーマ：キャリアカルテ（レーダーチャート）の活用について ヘルンシステムにおけるキャリアカルテの利用方法やレーダーチャートの見方について説明し、活用の促進を図る。	10月8日	理学部大会議室	理学部教務委員会	67名	高橋 知裕 (学務課)
17	令和7年度第2回経済学部FD研修会	就職支援	10月8日	経済学部大会議室 ※オンライン開催	経済学部	40名	石黒 綾佳 (Indeed Japan)
18	令和7年度第2回医学部医学科FD	miniCEXの理論と実践	10月21日	附属病院2階臨床講義室II ※オンライン・対面併用	医学部医師キャリアパス創造センター	56名	菊川 誠 (九州大学医学教育学講座) 木戸 敏喜 (医学部) 武島 健人 (医学部)
19	理学部FD研修会	テーマ：理系の進路最新情報と学部支援でできること 最新の就職環境、理系ならではの進路の考え方、ガイダンスの重要性等について講演を行う。	11月12日	理学部大会議室	理学部就職指導委員会	55名	石黒 綾佳 (Indeed Japan)

No.	研修会等名称	内容	開催日	開催場所	主催部局	参加者数	講師名(所属)
20	令和7年度第2回教養教育院FD	令和8年度新教養教育に向けた教育改革とグループワークを取り入れた授業デザイン	11月14日	共通教育棟D11 ※オンライン・対面併用	教養教育院	61名	杉森 保(教養教育院) 彦坂 泰正(教養教育院) 安江 健一(都市デザイン学部) 大西 宏治(人文学部)
21	令和7年度第3回教養教育院FD	グループワーク・ファシリテーション実践型ワークショップ ～“教える”から“共に学ぶ”へ～	12月4日 12月5日	共通教育棟D22	教養教育院	22名	浦山 絵里(日本ファシリテーション協会) 尾上 昌毅(日本ファシリテーション協会)
22	令和7年度第1回大学院教職実践開発研究科FD研修	教職実践開発研究科各教員が、他の教員の授業を参観し、それぞれの授業のよさを研修会で共有することにより、本研究科教員全体の授業方法等の改善に役立てる。	12月10日	教育学部大会議室	教職実践開発研究科	12名	—
23	PROGテスト教員向け解説会	夏季に1・3年生を対象に行ったPROGテストについての教員向け解説会	12月17日	工学部大会議室 ※オンライン開催	都市デザイン学部	30名	谷川 雅之(株式会社リアセック主任研究員)
24	令和7年度第1回大学院人文社会芸術総合研究科FD研修会	北陸地域経済と企業支援施策等について	1月14日	人文学部大会議室 ※オンライン開催	大学院人文社会芸術総合研究科	109名	小柳 淳也(経済産業省 中部経済産業局 電力・ガス事業北陸支局) 山下 創平(経済産業省 中部経済産業局 電力・ガス事業北陸支局)
25	JABEEの活用と技術士制度説明会	技術士の役割等についての説明会	1月18日	総合教育研究棟(工学系) 27講義室	都市デザイン学部	80名	公益社団法人日本技術士会
26	令和7年度第2回教育学部FD研修会	シラバスの役割と作成の留意点	1月21日	教育学部大会議室	教育学部	31名	松本 馨(教育・学生支援機構)
27	令和7年度第3回医学部医学科FD	研究室配属での実践と課題の共有－基礎系・臨床系の現場から－	1月27日	附属病院2階臨床講義室II ※オンライン・対面併用	医学部医師キャリアパス創造センター	80名	甲斐田 大輔(医学部) 今井 千速(医学部)

No.	研修会等名称	内容	開催日	開催場所	主催部局	参加者数	講師名(所属)
28	令和7年度工学部FD研修会	令和6年度ザ・ティーチャーに選出された教員より、実際の授業に際して意識している事や工夫等について講演いただき、授業や教育方法の改善・向上に役立てることを目的とする。	2月6日	工学部大会議室 ※オンライン開催	工学部	82名	中島 一樹 (工学部) 玉木 潔 (工学部) 関本 昌紘 (工学部) 岡田 卓哉 (工学部) 加賀谷 重浩 (工学部)
29	教育フォーラム	「世界の教育はどこへ向かうか」をテーマにした講演会を実施する。	2月15日	教育学部141講義室	教職実践開発研究科	31名	白井 俊 (東京科学大学)
30	令和7年度芸術文化学部第2回FD研修会	富山大学芸術文化学系教員向けハラスメント防止研修-創造の場を安全にするために-	2月16日	高岡キャンパス大会議室	芸術文化学系	26名	井上 陽 (弁護士法人貴陽) 泉 貴智 (弁護士法人貴陽)
31	分散型臨床試験(DCT)体験型セミナー	教職員に分散型臨床試験(DCT)を広く知ってもらうとともに、システムを実際に使用する体験型のセミナー	3月16日	杉谷キャンパス附属病院2階臨床講義室1	附属病院臨床研究開発推進センター	23名	板垣 貴志 氏 (株式会社アクセライト 代表取締役)
32	moodle 講習会	この講習会では、Moodleの機能について、特に最近のアップデートで追加された内容を中心に説明を行います。	3月27日	総合情報基盤センター第4端末室	総合情報基盤センター	18名	遠山 和大 (総合情報基盤センター)

## 令和7年度FD参加状況（令和7年4月～令和8年3月）

令和8年3月31日現在

部局名等	参加率	FD参加者数	学部教育を担当する基幹教員数
人文学部	90.5%	38	42
教育学部	93.9%	46	49
経済学部	95.6%	43	45
理学部	92.5%	74	80
都市デザイン学部	93.6%	44	47
工学部	95.2%	80	84
医学部	94.6%	158	167
薬学部	90.2%	37	41
芸術文化学部	80.6%	29	36
<b>FD参加率</b>	<b>92.9%</b>	<b>549</b>	<b>591</b>

### 【調査方法】

今回の調査は、令和7年4月1日から令和8年3月31日までのFD参加状況を各部に照会したもの。参加率の算出に当たり、対象は、学部教育を担当する基幹教員であり、FDの参加者数については延べ人数ではなく、実人数を記載したものである。よって、1人の教員が複数回（全学、自学部、他学部、教養教育等）のFDに参加してもFD参加数は1人とカウントとしている。

昨年度と同調査では、全体のFD参加率は92.5%であった。

## 富山大学教育・学生支援機構教育推進センター会議内規

平成27年4月1日制定  
平成27年6月16日改正  
平成29年11月10日改正  
平成30年3月27日改正  
令和元年9月24日改正

(趣旨)

第1条 この内規は、富山大学教育・学生支援機構規則第20条第2項の規定に基づき、富山大学教育・学生支援機構教育推進センター会議（以下「センター会議」という。）に関し必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 センター会議は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育の質保証に関する事。
- (2) 教育評価に関する事。
- (3) 全学的FDの企画立案、実施及び評価に関する事。
- (4) 教育環境の情報化に関する事。
- (5) 他機関との教育連携に関する事。
- (6) 学生の資格取得に関する事。
- (7) その他教育推進に関する事。

(組織)

第3条 センター会議は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) センター長が指名した教育・学生支援機構に主担当として配置される教員又は兼務配置される教員
- (4) 各学部教務委員長
- (5) 教養教育院から選出された教員 1人
- (6) 学務部長
- (7) 学務部学務課長
- (8) その他センター長が必要と認めた者

2 前項第3号、第5号及び第8号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(議長)

第4条 センター長は、センター会議を招集し、その議長となる。

2 議長に事故があるとき、議長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 センター会議は、委員の過半数が出席しなければ開会できない。

2 議事は、出席委員の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長がこれを決する。

(意見の聴取)

第6条 センター会議が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

(専門会議)

第7条 センター会議は、センター会議の委員のうちの一部の者及びセンター長が必要と認める者をもって構成される専門会議を置く。

2 センター会議は、第2条に規定する審議事項を専門会議に付託し、専門会議の議決をもって、センター会議の議決とすることができる。

3 専門会議の組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、センター会議に関し必要な事項は、センター会議が定める。

(事務)

第9条 センター会議の事務は、学務部学務課において処理する。

附 則

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成27年6月16日から施行する。

附 則

この内規は、平成29年11月10日から施行する。

附 則

1 この内規は、平成30年4月1日から施行する。

2 この要項の施行後最初に選出される第3条第1項第5号の委員の任期は、第3条第2項の規定にかかわらず平成31年3月31日までとする。

附 則

この内規は、令和元年10月1日から施行する。

教育・学生支援機構教育推進センター全学FD・教育評価専門会議 委員名簿

令和7年4月1日

職 名 等		氏 名 等	備 考	任期
センター長が指名したセンター会議の委員 (第1号イ委員)		准教授 まつもと かおる 松 本 馨	(議長)	R7.4.1-R9.3.31
各学部FD担当委員長 (第1号ロ委員)	人文学部	教授 おおの けいすけ 大 野 圭 介		—
	教育学部	教授 やまぐち のりかず 山 口 範 和		—
	経済学部	教授 もろずみ りょうこ 両 角 良 子		—
	理学部	教授 つげ きよし 柘 植 清 志		—
	医学部	教授 たかむら あきてる 高 村 昭 輝		—
	薬学部	教授 そう たかのり 宗 孝 紀		—
	工学部	教授 たばた としひで 田 端 俊 英		—
	芸術文化学部	教授 つじ あいひでかず 辻 合 秀 一		—
	都市デザイン学部	教授 おの ひでき 小 野 英 樹		—
教養教育院のFD担当 教員 (第1号ハ委員)	教養教育院	准教授 やまぎし りんこ 山 岸 倫 子		R7.4.1-R9.3.31
学務部学務課長 (第1号ニ委員)		たかはし ともひろ 高 橋 知 裕		—
その他センター長が必要 と認めた者(第1号ホ委員)				R7.4.1-R9.3.31